

- 四 非職及休職中ノ月數
- 五 退官ノ後再ヒ任官シタル者ハ前在官ノ月數
- 六 宮内官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ恩給ヲ受ケスシテ宮内官ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ宮内任官以上在官中ノ月數
- 第九條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ヨリ除算スヘシ
  - 一 年齢二十歳未滿者ノ在官月數
  - 二 高等官試補及判任官見習中ノ月數
  - 三 郡區判任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル月數及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ル月數
  - 四 御用掛履等外出仕勤任ノ月數
  - 五 第八條第二ニ掲クル者ニ在テハ軍人恩給法ニ依リ除算スヘキ日數
  - 六 自己ノ便宜ニ依リ退官シタル後又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル後再ヒ任官シタル者ニ在テハ其前官ノ月數
- 第十條 文官ニシテ從軍シタル者ハ軍人恩給法ノ算則ニ照シテ其從軍年ヲ加算ス
- 第十一條 恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス
  - 一 退官現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前官年數ヲ後官ノ年數ニ通算シ後官ニ對シテ恩給額ト前ノ恩給額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス
  - 二 退官現時ノ俸給前後相同シキトキハ在官年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前官十五年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十六年以上ニ至ラサレハ增加セズ
- 第十二條 恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス
  - 一 左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス
  - 一 列任以上ノ官ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受ケタルトキ但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス
- 第十三條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ
  - 一 法令ヲ以テ設立シタル議會ノ議員或ハ市長助役收入役名譽職參事會員東京市京都市大阪市北海道ノ區長沖繩縣區制ニ依ル區長及居留民團ノ民長助役會計役ト爲リタルノ故ヲ以テ退官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ハス
- 第十四條 郡區判任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏或ハ高等官試補判任官見習ハ恩給ヲ受クルノ權ナキモノトス
  - 一 商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏或ハ高等官試補判任官見習ニシテ公務ノ爲メ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ此法律第三條ニ該當スル者ニ限リ退官又ハ罷免現時ノ俸給四分ノ一ヲ終身支給スルコトヲ得
- 第十五條 恩給支給ノ期ハ退官ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス
- 第十六條 恩給ハ之ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル後七個年內ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス
- 第十七條 恩給ノ支給ハ本廳長官ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス
  - 一 行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六個月以內ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一個年以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス
  - 一 傷病疾病ノ原因及其輕重

官吏恩給法施行規則

- 關令第三號(明治二十三年七月二日)
- (沿革)明治二十七年一〇月關令第五號、四一年一二月同第五號、四三年三月同第三號、大正二年七月同第四號改正
- 官吏恩給法施行規則左ノ通定ム
- 官吏恩給法施行規則
- 第一章 恩給ノ請求
- 第一條 官吏恩給法第二條第三條第六條及第七條第二項第十四條第二項ニ依リ恩給ヲ受ケヘキ者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ但廢官廢廳ニ當リタルトキハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ
- 第二條 官吏恩給法第四條ニ依リ恩給ヲ受ケヘキ者ハ恩給請求書ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
- 第三條 恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
  - 一 在官中履歷書

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

- 二 戶籍簿本
- 第四條 公務ノ爲メ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ請求スル者ハ前條ニ掲クル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其事實ヲ證明スヘシ官吏恩給法第六條ニ依リ恩給ヲ請求スル者亦同シ
  - 一 現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書
  - 二 醫師ノ診斷證書
- 第五條 恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ查驗ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在官年數及恩給年額計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
- 第六條 内閣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作り本屬廳ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ保ルモノハ辭令書ヲ用ユ
- 第七條 恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ爲替貯金局ニ通報スヘシ
- 第二章 恩給ノ支給
- 第七條 恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三個月分ヲ支給ス但權利消滅若クハ停止ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラズ之ヲ支給ス
- 第八條 (削除)
- 第九條 (削除)
- 第十條 官吏恩給法第十二條ニ當リタル者ノ恩給支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ
  - 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日



刑罰ノ刑ニ處セラレタル者、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ  
 二 列任官以上ニ任シテ政府ヨリ俸給ヲ受ケタルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル  
 日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其退官シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタ  
 ル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム  
 三 公權ヲ停止セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ニ處セラ  
 レタル者ニ在リテヲ以テ支給ヲ終リ刑ノ執行ヲ終リタル日ノ翌日又  
 ハ其執行ヲ受ケタルコトナキニ至リタル日ヨリ支給ヲ始ム

第十一條 官吏恩給法第七條第二項ニ掲ケタル月俸トハ明治四年六月東京淺  
 草米廩ノ平均相場ニ依リ當時ノ官俸一個月分ニ相當スル金額トス  
 第十二條 官吏恩給法第三條ニ掲ケタル最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ノ  
 等差ハ左ノ如シ  
 第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七  
 第二項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六  
 第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五  
 第四項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四  
 第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三  
 第六項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二  
 傷痍疾病ノ等差ハ明治十八年達文官傷痍疾病等差例ニ依ル  
 第三章 恩給ノ停止

第十三條 恩給ヲ受ケタル者重罪若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ刑ノ執行  
 際ノ言渡ヲ受ケ若クハ之ヲ取消サレタルトキハ其確定裁判ノ宣告ヲ爲シ  
 タル裁判所ヨリ之ヲ爲替貯金局ニ通知スヘシ  
 第十四條 官吏恩給法第十二條第二項ノ第一ニ當ル者アルトキハ其任用シ  
 タル官廳ヨリ爲替貯金局ニ通知スヘシ解任シタルトキモ亦同シ但此通知  
 書ニハ俸給ノ支給ヲ始ムル日(解任ノトキハ支給ヲ終リタル日)ヲ付記ス  
 ヘシ  
 第十五條 恩給ヲ受ケタル者死去シタルトキハ其遺族ヨリ最寄郵便局ヲ經テ  
 爲替貯金局ニ届出ヘシ其遺族ニシテ扶助料ヲ受ケヘキ權利ナキトキハ死  
 去ノ届出ヲ爲スト同時ニ恩給證書ヲ返納スヘシ  
 第十六條 爲替貯金局ニ於テ第十三條若クハ第十四條ノ通知又ハ第十五條  
 ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ内閣恩給局ニ通知スヘシ  
 死亡又ハ權利消滅ノ爲メ返納スヘキ恩給證書ハ爲替貯金局ニ於テ之ヲ收  
 メ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第四章 雜則  
 第十七條 水火災盜難等ニ由リ恩給證書ヲ亡失シタル者ハ恩給支給郵便局  
 ヲ經テ爲替貯金局ニ届出ヘシ  
 爲替貯金局ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ亡失ノ事  
 由ヲ具シテ内閣恩給局ニ申出ヘシ此場合ニ於テ恩給局ハ恩給證書ノ謄本  
 ヲ作り爲替貯金局及恩給支給郵便局ヲ經テ本人ニ下付スヘシ  
 前項恩給證書ノ謄本ハ恩給證書ト同一ノ效力アルモノトス  
 第十八條 恩給ヲ受ケタル者改氏名シタルトキハ其ノ届書ニ恩給證書及戸籍  
 謄本ヲ添ヘ恩給支給郵便局ヲ經テ爲替貯金局ニ届出ヘシ爲替貯金局ハ恩  
 給證書ノ裏面ニ其ノ事實ヲ記載シ局長署名捺印ノ上恩給支給郵便局ヲ經  
 テ本人ニ下付シ其ノ旨ヲ内閣恩給局ニ通知スヘシ  
 第十九條 明治十七年達文官恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル者左ノ場合ニ於テ

ハ本則ニ依ル  
 一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ  
 二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ  
 三 改氏名シタルトキ  
 第二十條 官吏恩給法第二十條ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ  
 法律第四十四號(明治二十三年六月二十一日)  
 (沿革)明治三十二年二月法律第一六號、三十二年二月同第一一號、四四年三  
 月同第四號改正  
 官吏遺族扶助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官吏遺族扶助法

第一條 文官列任以上ノ者左ニ掲ケタル事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法  
 律ノ規定スル所ニ依リ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ有ス但第二條ノ納金ヲナ  
 スヘキ義務ナキ者ノ遺族ハ此限ニ在ラス  
 一 在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ  
 二 在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ  
 三 恩給ヲ受ケタル者死去シタルトキ  
 第二條 文官列任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムヘシ  
 第三條 交際官及領事貿易事務官等其俸給普通文官ヨリ多額ナルトキハ普  
 通文官ノ俸給ニ依リ少額ナルトキハ現ニ受ケル所ノ俸給ニ依リ第二條ノ  
 納金ヲ爲スヘシ  
 郡列任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル  
 官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏ハ第二條ノ納金ヲ要セス  
 第四條 寡婦扶助料年額ハ亡夫ノ受ケタル若クハ受ケヘキ恩給年額三分ノ  
 一トス

公務ノ爲メ受ケタル傷痍ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞働及困苦ヲ忍ビ  
 勤務ニ從事シ爲メニ發病死去シ又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病者ニ  
 感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタ  
 ル者ノ寡婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ對シ官吏恩給法第五條ニ依リ算出シタ  
 ル恩給年額三分ノ二トス  
 扶助料年額未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム  
 第五條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受ケタル寡婦死去シ若クハ權利消滅シタ  
 ルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス  
 第六條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼承者ニ給シ戸主ニ非サル者ノ  
 孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼承者及長子死去シ若クハ權利消滅シ若クハ  
 支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給スルモノトス但家名繼承者ヲ  
 除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス  
 第七條 恩給ヲ受ケタル者ノ寡婦ニシテ其夫退官後結婚シタル者ハ扶助料  
 ヲ受ケルコトヲ得ス  
 第八條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歲未滿ノ男女子ニシテ未ダ結婚セ  
 サル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼承者ニ限ル  
 第九條 扶助料ハ之ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス  
 第十條 扶助料ヲ受ケヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及  
 孤兒戸籍ヲ去リ若クハ死去シ若クハ權利消滅シタルトキハ父母又ハ祖父母  
 アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給ス  
 ルコトヲ得  
 其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキ  
 ハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル  
 第十一條 扶助料ヲ受ケヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル  
 者ノ戸籍内ニ在ル二十歲未滿又ハ廢疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト  
 能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助



料一個年分ヨリ少カラス五個年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラズ

一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第十二條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三個年分ニ請求セ

サレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十三條 扶助料ハ實買讓與實入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ

差押フルコトヲ得ス

第十四條 扶助料ヲ受クルノ權利ハ左ノ時ヨリ消滅ス

一 寡婦死去又ハ離婚シ若クハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月

二 孤兒死去又ハ結婚シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齢二十歳ニ滿チ

タル月ノ翌月

三 父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月

第十五條 孤兒二十歳ニ滿ツルモ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能

ハス他ニ給養スル者ナキトキハ寡婦扶助料ノ三分ノ一ヲ其孤兒ニ各終身

給スルコトヲ得但一戸籍内ニ寡婦ト同額ノ扶助料ヲ受クル者アルトキハ

其間之ヲ給セス

第十六條 扶助料ヲ受クル者日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ

處セラレタルトキハ扶助料ノ支給ヲ廢ス

公權ヲ停止セラレタルトキハ其間支給ヲ停止ス

扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第十七條 在官十五年未滿ノ者在官中公務ノ故ニアラスシテ死去シタルト

キハ其遺族ニ一時扶助金を給ス

前項ノ扶助金ハ在職最長ノ俸給年額百分ノ一ヲ在官年數ニ乘シタル額ト

ス但一年未滿ノ在官月數ハ計算セス

第十八條 扶助料ノ支給ハ地方長官ノ申牒ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣

總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ因リ扶助料ニ關スル權利ヲ侵害セラレタルトキハ六

第五條 公權停止ニ因リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫

ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ

第六條 官吏遺族扶助法第十一條及第十五條ニ當ル者ハ其事由ヲ詳記シ癡

疾不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハザル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ扶助料ヲ

請求スヘシ

第七條 官吏遺族扶助法ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ其ノ請求書ニ戸籍謄

本及第一條乃至第六條ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ住所ノ地方長官ニ差出スヘシ

第八條 扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ査察ノ上扶助料年額ノ計算書

ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

内閣ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作り地方廳ヲシテ之ヲ本

人ニ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

扶助料證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ爲替貯金局ニ

通報スヘシ

第二章 (削除)

第九條 (削除)

第三章 扶助料ノ支給及停止

第十條 扶助料ノ支給ハ官吏恩給法施行規則第七條及第十條第一第三ノ例

ニ依ル

第十一條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿

チタルトキハ爲替貯金局ニ於テ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ内閣恩給局ニ

通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ爲替貯金局ニ於

テ其扶助料證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第十二條 官吏恩給法施行規則第十三條及第十五條ハ扶助料ヲ受クル者ニ

之ヲ準用ス

第十三條 爲替貯金局ニ於テ第十二條ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩

給局

第十四條 爲替貯金局ニ於テ第十二條ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩

給局

第十五條 爲替貯金局ニ於テ第十二條ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩

給局

第十六條 爲替貯金局ニ於テ第十二條ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩

給局

第十七條 爲替貯金局ニ於テ第十二條ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩

給局

第十八條 爲替貯金局ニ於テ第十二條ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩

給局

第十九條 爲替貯金局ニ於テ第十二條ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩

給局

第二十條 爲替貯金局ニ於テ第十二條ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩

給局

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

個月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得

一 個月以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 明治十七年途官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ受ケタル者及恩給ヲ受

ケタル者ノ遺族扶助料ハ總テ其恩給令ニ依ルハシ但其權利消滅及停止ハ

此法律ニ依ル

第二十條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

關令第四號(明治二十三年七月二日)

(沿革)明治二十七年一〇月關令第六號、三十七年三月同第一號、四一年一

月同第六號、四三年三月同第四號、大正二年七月同第四號改正

官吏遺族扶助法施行規則左ノ通定ム

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則

法律第三十六號(明治二十九年三月三十日)

(沿革)明治三十三年二月法律第一二號、四四年三月同第五號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則ヲ裁可シ茲ニ

之ヲ公布セシム

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則

第一條 地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケタル郡區長ノ在官月數ハ官吏ノ恩給及遺

族扶助ニ關スル在官年數中ニ算入ス

第二條 明治二十三年七月一日以後ニ退官シタル文官判任以上ノ者ニシテ

地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケタル郡區長在官中ノ月數ヲ除算シ恩給ヲ受ケ若

ハ之カ爲恩給ヲ受ケサリシ者ニハ其ノ月數ヲ算入シ恩給ヲ増加シ又ハ新

ニ之ヲ給スルコトヲ得

第三條 第二條ニ相當スル者在官中又ハ退官ノ後死去シ其ノ遺族ニシテ扶

助料若ハ一時扶助金を受ケ又ハ之ヲ受ケサリシ者ニハ第一條ニ依リ算定

ス



シタル恩給年額若ハ在官年數ニ依リ其ノ扶助料若ハ一時扶助金ヲ増加シ又ハ新ニ之ヲ給スルコトヲ得

第四條 第二條、第三條ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ方法ニ依リ最後ニ受ケタル退官賜金又ハ一時扶助金ノ一部ヲ返納セシム

新ニ受ケヘキ恩給又ハ扶助料年額ニ其ノ退官又ハ死去以後新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受ケル日ニ至ルマテノ年數ヲ乘シ月數ハ其ノ月割額ヲ加ヘ退官賜金一時扶助金ヲ其ノ總額ニ對照シ若超過アルトキハ其ノ超過額ヲ新ニ受ケヘキ恩給又ハ扶助料中ヨリ控除ス

第五條 恩給ヲ受クル者郡列任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ニ任用セラレタルトキハ其ノ恩給ヲ停止ス

第六條 第二條、第三條ニ依リ給スル恩給及扶助料ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ起算シテ之ヲ給ス

第七條 第二條、第三條ニ依リ受ケヘキ恩給、扶助料又ハ一時扶助金ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年內ニ請求セサレハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第八條 此ノ法律ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル

第九條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

閣令第二號(明治二十九年三月三十日)  
官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則左ノ通定ム  
第一條 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則  
官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則第二條ニ依リ恩給ノ増加ヲ受ケ

### 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則

若クハ新ニ恩給ヲ受ケントスル者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ但廢官廢職ニ當リタルトキハ其ノ事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ

第二條 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則第三條ニ依リ扶助料又ハ一時扶助金ノ増加ヲ受ケ若クハ新ニ之レヲ受ケントスル者ハ其ノ請求書ヲ居住地ノ地方長官ニ差出スヘシ

第三條 恩給又ハ扶助料若クハ一時扶助金ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 在官中ノ履歷書

二 市町村長ノ證明シタル戶籍寫  
但恩給ヲ請求スル者ニ在リテハ其ノ退官當時ノ戶籍寫扶助料若クハ一時扶助金ヲ請求スル者ニ在リテハ元官吏タリシ者死亡當時ノ戶籍寫及明治二十九年四月一日現在ノ戶籍寫トス

三 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行前ニ恩給又ハ扶助料若クハ一時扶助金ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ證書若クハ辭令書

第四條 第一條ニ依リ新ニ恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ官吏恩給法施行規則第五條ニ揭ケル計算書ノ外退官當時給與シタル退官賜金ノ調書ヲ添附スヘシ

第五條 恩給ヲ受ケタル者ヲ郡區書記ニ任用シ若クハ解任シタルトキハ官吏恩給法施行規則第十條第十四條及第十六條ヲ準用ス但從來任用シタル者ハ直ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 本規則ニ於テ特別ノ規程ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法施行規則及官吏遺族扶助法施行規則ノ例ニ依ル

### 郵便官署ヲシテ年金、恩給等ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件

勅令第二十五號(明治四十三年三月十六日)  
郵便官署ヲシテ年金、恩給等ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國庫ノ支辨ニ屬スル年金、恩給、遺族扶助料及退職料ノ支給ニ關スル事務ハ逓信省、(統監府)、臺灣總督府、關東都督府及樺太廳ノ所管ニ屬スル郵便官署ヲシテ之ヲ取扱ハシム

前項給與金ノ支給手續ニ關シテハ逓信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第一項給與金ノ支拂ニ關シテハ歲入金歳出金並歳入歳出外現金ノ交互撥替及繰替受拂ヲ爲スコトヲ得

附則  
本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 年金恩給支給規則

逓信省令第六號(明治四十三年三月十七日)  
(沿革)明治四十三年三月第六〇號、四五年五月同第二五號、大正二年四月同第六號、同年六月同第五二號改正

年金恩給支給規則左ノ通定ム

第一條 國庫ノ支辨ニ屬スル左記給與金ノ支給手續ニ關シテハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外不規則ノ定ムル所ニ依ル

一 明治二十三年法律第四十三號官吏恩給法ニ依ル給與金  
二 明治二十三年法律第四十四號官吏遺族扶助法ニ依ル、與金

### 第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

三 明治二十三年法律第四十五號軍人恩給法ニ依ル給與金

四 明治二十三年法律第九十一號府縣立師範學校長俸給與公立學校職員退職料及遺族扶助料法ニ依ル給與金

五 明治二十四年法律第四號明治七年以後ノ戰役ニ死没シタル軍人軍屬ノ遺父母及祖父母扶助ニ關スル法律ニ依ル給與金

六 明治二十九年法律第十三號公立學校職員退職料等ニ關スル法律ニ依ル給與金

七 明治二十九年法律第三十六號官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則ニ依ル給與金

八 明治二十九年法律第七十八號臺灣總督府所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法律ニ依ル給與金

九 明治三十三年法律第七十五號臺灣又ハ樺太ニ在勤スル官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

十 明治三十三年法律第七十六號臺灣又ハ樺太ニ服役スル軍人ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

十一 明治三十三年法律第七十七號臺灣ニ於テ地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル文官列任以上ノ學校職員ノ退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

十二 明治三十四年法律第三十八號河查看守退職料及遺族扶助料法ニ依ル給與金

十三 明治三十五年法律第二十九號臺灣ニ在勤スル逓查看守陸軍監獄看守陸軍警守女監取締退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

十四 明治三十八年法律第六十四號在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法ニ依ル給與金

十五 明治三十九年法律第二十九號癩癩兵院法ニ依ル給與金



第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

- 十六 明治四十年法律第四十八號(統監府)及關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金
- 十七 明治四十年法律第四十九號(統監府)、關東都督府及樺太等在勤巡查、看守及女監取締ノ退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金
- 十八 明治四十一年法律第三十五號樺太獨立小學校教員退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金
- 十九 明治四十三年法律第三十號警部補退職料及遺族扶助料等ニ關スル法律ニ依ル給與金
- 二十 明治四十五年法律第十一號朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ支給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金
- 二十一 明治二十七年勅令第七十三號金鵝勳章年金令ニ依ル給與金
- 二十二 前各號ノ外官吏恩給令、陸軍恩給令、海軍恩給令、海軍退職令其ノ他舊令ニ依ル給與金並特ニ賜與ニ保ル年金、恩給ノ給與金
- 第二條 前條ノ給與金ハ特別ノ場合ヲ除クノ外受給者ノ指定シタル郵便局ニ於テ之ヲ支給ス
- 第三條 給與金ノ支給期日ハ之ヲ告示ス
- 第四條 受給者ハ郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑圖ヲ作製シ給與金ノ支給ヲ受ケムトスル郵便局ニ差出スヘシ但シ一時限ノ給與ヲ受ケル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 受給者印章ヲ改メタルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ改印圖ヲ作製シ支給郵便局ニ差出スヘシ
- 第六條 受給者給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ年金證書、恩給證書其ノ他給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ呈示シ權利者タルコトヲ證明シタル郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ作製シタル給與金受領證書ト引換ニ現

- 金ヲ受取ルヘシ
- 受給者ノ代理人ニ於テ給與金ヲ受取ラムトスルトキハ委任狀ヲ差出シ請項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 受給者支給期月ヲ經過シタル後ニ於テ給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號、給與金高並指定支給郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ヲ爲替貯金局ニ差出スヘシ
- 第七條 一時限ノ給與金ヲ受ケル者ハ給與金額及支給ヲ受ケムトスル郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ニ給與ニ關スル辭令書ノ寫ヲ添ヘ爲替貯金局ニ差出スヘシ
- 第八條 受給者第六條又ハ第七條ノ請求ニ對シ爲替貯金局ヨリ支給ノ通知ヲ受ケタルトキハ第五條ノ例ニ依リ現金受領ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第九條 受給者ハ支給郵便局ニ於テ給與金ヲ受領スル際其ノ給與金ヲ自己ノ郵便貯金ニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第五條ノ例ニ依リ權利者タルコトヲ證明シ且給與金受領證書ニハ振替預入ノ旨ヲ附記シ郵便貯金通帳ニ振替預入金ノ記入ヲ受ケヘシ
- 第十條 受給者ハ給與ニ關スル證書ヲ豫メ爲替貯金局ニ寄託シ其ノ給與金ヲ支給期毎ニ自己ノ郵便貯金ニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條 爲替貯金局ニ於テ前條ノ請求ニ依リ給與ニ關スル證書ノ寄託ヲ受ケタルトキハ其ノ保管證書ヲ當該受給者ニ交付ス
- 第十二條 第十條ニ依リ郵便貯金ニ振替預入ノ請求アリタル給與金ハ其ノ支給期毎ニ爲替貯金局ニ於テ之ヲ受給者ノ郵便貯金ニ組入レ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

年金

十一月ヨリ十五日マテ  
 十一日ヨリ十五日マテ  
 十六日ヨリ二十日マテ

官吏遺族扶助法納金收入規則

- 勅令第二百二十五號(明治二十三年七月十四日)
- (沿革)明治三十二年三月勅令第六〇號、三三年四月同第一五一號、四四年三月同第二一號改正
- 官吏遺族扶助法納金收入規則
- 第一條 本年法律第四十四號官吏遺族扶助法第二條ニ依リ文官判任以上ノ者ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ金庫ニ於テ之ヲ差引ヘシ但現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ俸給ノ仕拂ヲナストキハ該官吏ニ於テ之ヲ差引ヘシ
- 第二條 前條ニ依リ金庫ニ於テ差引シタル金員ハ歳入徵收官ノ計算ニ移シ直ニ報告書ヲ作り之ヲ歳入徵收官ニ送付スヘシ
- 第三條 俸給ノ増減ニ依リ既納ノ金員ニ過不足ヲ生スルトキハ次期ノ俸給

- 受給者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ通知書ニ郵便貯金通帳ヲ添ヘ支給郵便局ニ差出シ通帳ニ振替預入金ノ記入ヲ受ケヘシ
- 第十三條 受給者第十條ニ依リ振替預入ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル届書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ爲替貯金局ニ差出スヘシ
- 第十四條 爲替貯金局ニ於テ前項ノ届書ヲ受ケタルトキハ其ノ保管スル給與ニ關スル證書ハ之ヲ受給者ニ還付ス
- 第十五條 受給者居所ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號ヲ附記シ支給郵便局ニ差出スヘシ
- 第十六條 受給者轉居又ハ其ノ事由ニ依リ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號及新舊支給郵便局名ヲ記載シタル變更請求書ヲ作製シ新支給郵便局ニ差出スヘシ
- 第十七條 郵便局ニ於テ支給郵便局變更ノ手續ヲ了シタルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

附則

- 第十六條 本規則ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十三年三月三十一日迄ニ支給期ノ到來シタル給與金ニシテ同年五月三十一日迄ニ支給ヲ爲スモノハ仍從前ノ手續ニ依ル
- 明治四十三年四月ニ於テ支給期ノ到來スル受給者ニ對シテハ爲替貯金局ニ於テ其ノ支給郵便局ヲ指定ス

年金、恩給、遺族扶助料及退職料等支給期日

逓信省告示第三百四十一號(明治四十三年三月十七日)

本年四月以降郵便局所ニ於テ取扱フ年金、恩給、遺族扶助料及退職料等ノ支給期日ハ當該支給期月ノ十一日ヨリ二十日迄トス但シ東京市内ニ在ル郵便局ニ於テ支給スヘキモノハ左ノ期日ニ依ル

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料



支給ノトキ之ヲ整理スヘシ  
免官退官轉任死亡ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其百分ノ一ヲ納  
入ニ於テ差引スヘシ

●市町村立小學校教員退隱料及遺  
族扶助料法ニ於ケル納金收入ニ  
關スル規則設定方

文部省訓令第三號(明治二十四年十月九日)

北海道廳 府縣

明治二十三年(十月)法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料  
法第十四條ノ納金收入ニ關スル規則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘ  
シ

●府縣立師範學校長俸給並公立學  
校職員退隱料及遺族扶助料法納  
金收入規則

勅令第五號(明治二十五年一月十二日)

(沿革)明治三十二年五月勅令第一九九號改正

朕府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規  
則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金  
收入規則

第一條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十  
六條第一項ニ依リ府縣立師範學校長ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ明治二十  
三年勅令第二百二十五號官吏遺族扶助料法納金收入規則ニ依リ收納スヘシ

●朝鮮公立高等女學校生徒及卒業  
者他ノ學校へ入學轉學ニ關シ取  
扱方

文部省令第十三號(明治四十五年五月三十一日)

朝鮮公立高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明  
治三十二年勅令第三十一號高等女學校令ニ依リ設置シタル高等女學校ノ生  
徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●朝鮮公立實業專修學校及朝鮮公  
立簡易實業專修學校生徒及卒業  
者他ノ學校へ入學轉學ニ關シ取  
扱方

文部省令第十四號(明治四十五年五月三十一日)

朝鮮公立實業專修學校及朝鮮公立簡易實業專修學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ  
學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第二十九號實業學校令ニ依  
リ設置シタル相當實業學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●臺灣總督府國語學校中學部及臺  
灣小學校生徒及卒業者ノ他ノ學  
校へ入學轉學ニ關スル規程

文部省令第二十四號(明治三十六年六月九日)

臺灣總督府國語學校中學部及臺灣小學校生徒及卒業者ノ他ノ學校へ入學轉  
學ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

公立中學校長並府縣立師範學校公立中學校ノ正教員會監書記ヨリ國庫ニ  
納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ會計事務ヲ管理スル府縣官吏郡役所會計  
吏又ハ市町村收入役ニ於テ之ヲ差引スヘシ

第二條 前條第二項ニ依リ差引シタル金員ハ會計事務ヲ管理スル府縣官吏  
郡役所會計吏又ハ市町村收入役ヨリ毎翌月十日マテニ仕譯書ヲ添ヘ之ヲ  
收入官吏ニ納付スヘシ

第三條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十  
六條第二項ニ依リ府縣郡市町村ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ毎年四月十日  
及十月十日マテニ其前六箇月分ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第十章 生徒

●朝鮮公立小學校兒童及卒業者他  
ノ學校へ入學轉學ニ關シ取扱方

文部省令第十二號(明治四十五年五月三十一日)

朝鮮公立小學校兒童及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十  
三年勅令第三百四十四號小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ兒童  
及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●朝鮮總督府中學校生徒及卒業者  
他ノ學校へ入學轉學ニ關スル件

文部省令第十一號(大正二年五月二日)

朝鮮總督府中學校規則ニ依リ中學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學  
ノ關係ニ就キ中學校令ニ依リ設置シタル中學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取  
扱ヲ受ク但シ第二節ノ生徒及卒業者ハ此ノ限ニ在ラス

臺灣總督府國語學校中學部及臺灣小學校生徒及卒業者ノ他ノ學校  
へ入學轉學ニ關スル規程

第一條 臺灣總督府國語學校中學部ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學  
ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第二十八號中學校令ニ依リ設置シタル府  
縣立中學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第二條 臺灣小學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明  
治三十三年勅令第三百四十四號小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學  
校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●臺灣總督府國語學校第三附屬高  
等女學校ノ生徒及卒業者ノ他ノ  
學校へ入學轉學ニ關スル取扱方

文部省令第六號(明治三十八年四月十八日)

臺灣總督府國語學校第三附屬高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學  
轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令ニ依リ設置シ  
タル府縣立高等女學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●臺灣總督府中學校及臺灣總督府  
高等女學校生徒及卒業者ノ他ノ  
學校へ入學轉學ニ關スル規程

文部省令第三十五號(明治四十年十一月十五日)

(沿革)明治四四年一〇月文部省令第三〇號改正  
臺灣總督府中學校及臺灣總督府高等女學校生徒及卒業者ノ他ノ學校へ入學  
轉學ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

臺灣總督府中學校及臺灣總督府高等女學校生徒及卒業者ノ他ノ學校



校へ入學轉學ニ關スル規程

第一條 臺灣總督府中學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第二十八號中學校令ニ依リ設置シタル府縣立中學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク但シ第一部ニ在リテハ第二學年以上ノ生徒ニ限ル

第二條 臺灣總督府高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令ニ依リ設置シタル府縣立高等女學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

關東州小學校兒童及卒業者他ノ學校へ入學轉學ニ關スル取扱方

文部省令第十五號(明治四十四年五月十四日)

關東州小學校兒童及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ兒童及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

旅順高等女學校生徒及卒業者他ノ學校へ入學轉學ニ關スル取扱方

文部省告示第一號(明治四十五年一月九日)

關東都督府ノ設置セル旅順高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令ニ依リ設置シタル府縣立高等女學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

〔清國〕人ヲ入學セシムル公私私立

當ト認ムルモノハ特ニ之ヲ選定シ〔清國〕政府ニ通告ス

第八條 公立又ハ私立ノ學校ニシテ前條ノ選定ヲ受ケントスルトキハ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ既ニ開申シ若ハ認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

- 一 〔清國〕人教育ニ關スル沿革
- 二 學則中清國人教育ニ關スル規定
- 三 學校長若ハ學校代表者ノ履歷
- 四 教員ノ氏名、資格、學業履歷及分擔學科目
- 五 〔清國〕人生徒定員及學年學級別現在員數
- 六 〔清國〕人生徒學校外監督ノ方法
- 七 〔清國〕人卒業者ノ員數及卒業後ノ情況
- 八 〔清國〕人生徒ニ充ツル校地校舍及寄宿舎ノ圖面
- 九 經費及維持ノ方法
- 十 教科書、教授用器具、器械及標本ノ目錄

前項第二號及第八號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケテヘシ

第九條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ〔清國〕人生徒ヲシテ寄宿舎又ハ學校ノ監督ニ屬スル下宿等ニ宿泊セシメ校外ノ取締ヲ爲スヘシ

第十條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ハ他ノ學校ニ於テ性行不長ナルカ爲退學ヲ命セラレタル〔清國〕人ヲ入學セシムルコトヲ得ス

第十一條 文部大臣ハ必要ト認メタルトキハ吏員ヲシテ選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ノ試驗ニ立會ハシメ又ハ試驗問題及其ノ答案ヲ査閲セシムルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ試驗ノ問題又ハ方法中不適當ト認メタルモノアルトキハ當該吏員ハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

試驗問題答案及成績表ハ少クトモ五箇年間之ヲ保存スヘシ

學校ニ關スル規程

文部省令第十九號(明治三十八年十一月二日)

〔清國〕人ヲ入學セシムル公私私立學校ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

〔清國〕人ヲ入學セシムル公私私立學校ニ關スル規程

- 第一條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ入學ヲ許可セントスルトキハ其ノ入學願書ニ本邦所在ノ〔清國〕公使館ノ紹介書ヲ添付セシムヘシ
- 第二條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ〔清國〕人生徒ニ對シ本人ノ志望ニ依リ其ノ學校所定ノ學科目中一科目若ハ數科目ヲ關カシムルコトヲ得
- 第三條 〔清國〕人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ其ノ教育ニ關係スル職員ノ名簿、〔清國〕人生徒ノ學籍簿、出席簿及往復書類ヲ備フヘシ

前項ノ學籍簿ニハ生徒ノ氏名、原籍、年齢、居所、入學前ノ經歷、入學ヲ紹介シタル官廳ノ名稱、官費私費ノ區別、賞罰、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、轉學退學ノ事由等ヲ記載スヘシ

第四條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人生徒ノ轉學又ハ退學ヲ許可セントセルトキハ其ノ願書ニ本邦所在ノ〔清國〕公使館ノ承認書ヲ添付セシムヘシ

第五條 〔清國〕人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ毎年一月及七月ノ二回ニ其ノ前六箇月間ニ入學ヲ許可シタル〔清國〕人生徒ノ員數ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

前項ノ規定ハ〔清國〕人生徒ノ轉學者、退學者及卒業者ニ關シ之ヲ準用ス

第六條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人生徒卒業シ又ハ之ニ退學ヲ命シタルトキハ一箇月以内ニ其ノ氏名及退學ヲ命シタル事由ヲ本人ノ入學ヲ紹介シタル〔清國〕公使館ニ報告スヘシ

第七條 〔清國〕人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校中文部大臣ニ於テ

第十二條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ毎學年終了後一箇月以内ニ其ノ〔清國〕人生徒ノ教育上ノ經過ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

第十三條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニシテ此規定ニ違背シ又ハ其ノ成績不良ナリト認メタルトキハ文部大臣ハ其ノ選定ヲ取消スコトアルヘシ

第十四條 本令ノ規定ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第十五條 本令ノ規定ハ小學校及小學校ニ類スル各種學校ニ關シ之ヲ適用セス

附則

本令ハ明治三十九年一月一日ヨリ施行ス

女子師範學校高等女學校生徒學業成績調査等ニ關スル件

文部省訓令第六號(明治三十三年三月二十六日) 北海道 府縣

女子ノ師範學校及高等女學校ニ在學スル年紀ハ心身ノ發育上最モ注意ヲ要スル時期ナリ故ニ右等ノ學校ニ在リテハ女生徒學業ノ成績ハ平常ニ於テ便宜之ヲ調査セシムルコトトシ時期ヲ定メテ一時ニ全學科目ノ試驗ヲ行フコト勿カラシムヘシ又月經ノ間ハ其ノ生徒ニ限リ體操科ヲ課セシメサルヲ要ス

生徒德育上ノ注意

文部省訓令第十三號(明治四十二年九月十三日) 直轄諸學校

教育ハ人倫ノ養成ヲ以テ主眼トス普通教育ト專門教育ト間ハ常ニ重キヲ品性ノ陶冶ニ優クヘキコト論ヲ俟タス故ニ直轄諸學校ニ於テモ後來此ノ



點ニ注意ヲ怠ラサリシハ本大臣ノ認ムル所ナリ是等諸學校ノ生徒ハ既ニ中學校以下ニ於テ修身教育ヲ受ケタルモノナリト雖道徳上ノ觀念尙堅實ヲ缺キ各種ノ誘惑ニ陥リ易ク德育上最モ注意ヲ要スル時期ニ屬ス故ニ自今直轄諸學校ニ於テハ一層力ヲ修身ノ教育ニ致シ定時ニ修身ノ教授ヲ爲スノ外必要ニ應ジ隨時訓誨ヲ施シテ生徒ノ眞義的觀念ヲ鍊成シ以テ實踐躬行ノ意志ヲ強固ナラシメシコトヲ要ス又學校長及教官ハ常ニ協心戮力シ躬ラ學校德育ノ中心ト爲リテ生徒ヲ薰陶シ以テ教育勸諭及皮申詔書ノ聖旨ヲ貫徹センコトヲ努ムヘシ

行幸啓ノ節學生生徒敬禮方

文部省訓令第十八號(明治四十三年八月二十六日)

北海道廳 府縣 直轄學校

(沿革)明治四十四年七月文部省訓令第一一號改正  
行幸啓ノ節學生生徒ノ敬禮方左ノ通相定ム

行幸啓ノ節學生生徒敬禮方

一 武裝携銃ノ場合

學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各中隊ノ右翼ニ位置シ隊メ劔ヲ銃ニ裝セシメ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車力中隊ノ右翼約十歩ニ近キタルトキ「捧銃」ノ號令ニテ一齊ニ捧銃ヲナサシメ御車力中隊ノ左翼約十歩ヲ過キタルトキ元ノ姿勢ニ復セシム

二 位置ス武裝セサル場合(女生徒ヲ含ム)

學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置シ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ一齊ニ脱帽セシメ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車力指揮者ノ前ニ進シタルトキ「禮」ノ號令ニテ敬禮セシム

大本ヲ觀視シ社會ノ秩序ヲ紊亂スルカ如キ危險ノ思想教育界ニ傳播シ我教育ノ根柢ヲ動カスニ至ルコトアラハ國家將來ノ爲メ最モ苦心スヘキナリ事ニ教育ニ當ル者宜シク留意戒心シテ矯激ノ弊見ヲ斥ケ流毒ヲ未然ニ防クノ用意ナカルヘカラス

本大臣ハ國運ニ照シ時弊ニ鑑ミ特ニ茲ニ訓示ス教育ノ當局者及ヒ學校長教員等ハ克ク本大臣ノ旨ヲ體シ父兄保護者ト協心戮力シテ風紀ヲ振刷シ元氣ヲ作興スルニ努メ學生生徒ハ自ら修メ己ニ克ク學業ヲ成就スルニ專ニシテ上下齊ヒ率キ以テ教育ノ效果ヲ完ウセムコトヲ期スヘシ

學校生徒ノ喫煙ニ關スル件

文部省訓令第五號(明治三十三年三月二十六日)

北海道廳 府縣 文部省直轄學校

學校生徒ノ喫煙ニ關シテハ小學校ニ在リテハ明治二十七年文部省訓令第六號ヲ以テ生徒ノ喫煙スルコト及煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘキ旨訓令シ中學校等ニ在リテモ實際喫煙ヲ禁止セルモノ多シ蓋シ學校生徒ノ喫煙ハ衛生上有害ナルノミナラス風紀ニ關スルコト少ナカラス殊ニ此際未成年者喫煙禁止法ノ發布アリタルニ就キテハ小學校中學校師範學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ在リテハ取締上其ノ生徒ノ成年以下ナルト以上ナルト學校ノ内外トヲ問ハス喫煙シ及煙草煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁止スヘシ其ノ他ノ學校ニ在リテモ特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカラシムコトヲ期スヘシ

學校生徒飲酒取締ノ件

文部省訓令第十二號(明治四十二年九月九日)

北海道廳 府縣

學校生徒ノ飲酒ハ教育上取締ヲ要スヘキハ言ヲ俟タズ從來各學校ニ於テモ常ニ適當ノ方法ヲ講シテ訓戒監督ヲ怠ラサルハ本大臣ノ認ムル所ナリ然レトモ訓育ノ目的ヲ貫徹セント欲セハ學校ト家庭ト常ニ聯絡ヲ保タンコトヲ

(體ノ上部ヲ約三十度前方ニ屈セシム)徐ニ元ノ姿勢ニ復セシム  
御車力組ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

學生生徒風紀振肅ニ關スル件

文部省訓令第一號(明治三十九年六月九日)

學生生徒ノ本分ハ常ニ健全ナル思想ヲ有シ確實ナル目的ヲ持シ刻苦精勵他日ノ大成ヲ期スルニ在ルハ固ヨリ言ヲ俟タズ殊ニ戰後ノ國家ハ將來ノ國民ニ期待スル所益々多ク今日ノ學生生徒タル者ハ其ノ責任一層ノ重キヲ加ヘタルヲ以テ各々學業ヲ勵ミ一意專心其ノ目的ヲ完ウスルノ覺悟ナカルヘカラス

然ルニ近來青年子女ノ間ニ往々意氣銷沈シ風紀頹廢セル傾向アルヲ見ルハ本大臣ノ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ現ニ修學中ノ者ニシテ或ハ小成ニ安シ奢僂ニ流レ或ハ空想ニ煩悶シテ處世ノ本務ヲ閑却スルモノアリ甚キハ放縱浮靡ニシテ操行ヲ紊リ恬トシテ恥チサル者ナキニアラス如キハ家庭ノ監督其ノ方ヲ誤リ學校ノ規津漸ク弛緩セルノ致ス所ニシテ今ニ於テ嚴ニ戒慎ヲ加フルニアラスハ禍害ノ及フ所實ニ測リ知ルヘカラス

社會一部ノ風潮漸ク輕薄ニ流レムトスルノ兆アルニ際シ青年子女ニ對スル誘惑ハ日ニ益々多キヲ加ヘムトス就中近時發刊ノ文書圖畫ヲ見ルニ或ハ危激ノ言論ヲ掲ケ或ハ厭世ノ思想ヲ説キ或ハ陋劣ノ情態ヲ描キ教育上有害ニシテ斷シテ取ルヘカラサルモノ多シトセス故ニ學生生徒ノ閱讀スル圖書其ノ内容ヲ精査シ有益ト認ムルモノハ之ヲ勸奨スルト共ニ苟モ不良ノ結果ヲ生スヘキ虞アルモノハ學校ノ内外ヲ問ハス嚴ニ之ヲ禁遏スルノ方法ヲ取ラサルヘカラス

又頃者極端ナル社會主義ヲ鼓吹スルモノ往々各所ニ出現シ種々ノ手段ニ依リ教員生徒等ヲ誘惑セムトスル者アリト聞ク若シ夫レ斯ノ如クシテ建國ノ

生徒ノ服忌ニ關スル通牒

官報(明治四十四年八月二十九日)

生徒ノ服忌ニ關シ本月二十一日文部次官ヨリ各地方長官ニ左ノ通牒ヲ發セリ(文部省)

服忌ノ制ハ風ニ明治七年太政官布告第八號ヲ以テ規定相成居候儀ニ有之候處近來小學校其他諸學校ニ於テ往々其生徒ノ父母祖父母等ノ死亡ニ際シテモ右ノ制度ヲ等閑ニ附スルカ如キモノモ有之ヤニ相聞エ道徳教育上頗ル遺憾ノ至第ト被存候款テハ小學校及中等程度ノ諸學校ニ於テハ自今生徒ヲシテ克ク服忌ニ關スル心得ヲ會得セシメ又之ニ丁リタル者ニ對シテハ相當期間休業ヲ認許シ尙試驗ノ時期等ニ際シテハ特別ノ取扱ヲ爲ス等便宜ノ方法ヲ講シ以テ苟モ孝悌ノ至情ヲ傷ハシメサル機深ク注意スヘキ旨御示達相成度依命此段及通牒候也

學生生徒身體檢查規程

文部省令第四號(明治三十三年三月二十六日)

(沿革)明治三十四年三月文部省令第六號、三十七年九月同第一八號、四一年三月同第一三號、四五年一月同第一號改正

學生生徒身體檢查規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 學生生徒身體檢查規程

學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ學生生徒ニ就キ臨時身體檢查ノ全部若ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

第二條 明治三十一年勅令第二號第一條第二項ニ依リ學校醫ヲ置カサル町村立學校及私立ノ小學校及各種學校ハ本令ノ身體檢查ヲ行ハサルコトヲ



得

第三條 身體検査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ但シ學校醫ヲ置カサル場合ニ於テハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四條 身體検査ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

- 一 身長
- 二 體重
- 三 胸圍
- 四 脊柱
- 五 體格
- 六 視力
- 七 眼疾
- 八 聽力
- 九 耳疾
- 十 齒牙
- 十一 疾

小學校生徒ニ在リテハ視力及聽力ノ二項目ヲ検査スルコトヲ要セス但シ著シキ障害アリト認ムル者ハ此限ニ在ラス

第五條 身體検査ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

- 一 (削除)
- 二 検査ノ表記ニハ度ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ度ハ分、衡ハ分ニ止ムヘシ
- 三 身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ又女子ニシテ鬢アル者ハ小髻ヲ鬘下ヨリ水平ニ横ヘテ測定スヘシ
- 四 體重ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ著衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ
- 五 胸圍ハ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ自然ノ位置ニアラシメ乳頭ノ水平線ニ於テ常時ヲ測定スヘシ充盈、空虚ノ差ヲ測定スルトキ亦同シ但シ小學校生徒ニ在リテハ常時ノミヲ測定スルモノトス
- 六 脊柱ハ正、左彎、右彎、前屈、後屈ヲ検査シ屈彎ニ就テハ其ノ程度ニ依リ各強中弱ノ三種ニ區別スヘシ
- 七 體格ハ強健、中等、薄弱ノ三等ニ區別スヘシ
- 八 視力ハ中心視力ヲ兩眼ニ就キテ各別ニ検査スヘシ
- 九 聽力ハ其ノ障害ノ有無ヲ検査スヘシ

十 齒牙ハ齲齒ニ就キ検査スヘシ

十一 疾病ハ腺病、營養不良、貧血、脚氣、肺結核、頭痛、吐血、神經衰弱、鼻疾、咽喉病、傳染性皮膚病其ノ他慢性疾患等検査ノ際ニ發見シタルモノヲ記入スヘシ

前各號ノ外身體検査上必要ト認メタル事項ハ特ニ検査ヲ行フヘシ

第六條 身體検査ヲ施行シタルトキハ左ノ様式ニ依リ身體検査票ヲ調製スヘシ

検査年月	體格	検査票號	胸圍		身長	體重	視力		眼疾	耳疾	齒牙	齲齒數	牙下齲齒數	疾病	本人ニ對スル注意事項	検査醫姓名印	身體検査票(女)	
			常時	盈虛ノ差			右	左									姓名	出生年月

在リテハ地方長官ニ報告スヘシ  
地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取調メ其ノ年六月限り文部大臣ニ報告スヘシ

結果ヲ學生生徒又ハ其ノ保護者ニ示スヘシ  
第七條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ左ノ様式ニ依リ統計表ヲ調製シ翌月限り文部省直轄學校長ニ在リテハ文部大臣ニ其ノ他ノ學校長ニ

(校名)學生生徒身體検査統計表 (男女)(明治 年四月検査)

年	身長	長 大 小 均	重 大 小 均	胸圍		脊柱				體格		視力			眼疾	聽力	齒牙	齲齒アル者	疾病	検査人員	備考
				常時	盈虛ノ差	強	中	弱	正	左彎	右彎	前屈	後屈	遠視							



ノ各欄ニハ其ノ検査人員中ノ最大、最小ナルモノヲ掲ケ平均ノ各欄ニハ其ノ検査人員ヲ以テ身長、胸圍ノ總長又ハ體重ヲ除シタル商ヲ掲ケヘシ

一 視力ニ就キテハ兩眼ノ欄ニハ兩眼トモ正視、遠視、近視又ハ其ノ他(亂視、斜視、弱視等)ノ者ノ人員ヲ掲ケ左眼又ハ右眼ノ欄ニハ左眼又ハ右眼ノ一方ノ正視、遠視、近視又ハ其ノ他(亂視、斜視、弱視等)ノ者ノ人員ヲ掲ケヘシ但シ失明者ニ關シテハ兩眼又ハ片眼ニ區別シ備考ノ欄ニ於テ其ノ數ヲ示スヘシ

一 検査スヘキ項目ノ一部ノ検査ヲ缺キタル者ハ之ヲ表中ニ記入スヘカラス

一 外國人ニ係ルモノハ之ヲ計入スヘカラス

一 備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ關シ説明ヲ要スル事項其ノ他特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

一 學校ニ於ケル重ナル疾病ノ原因及豫防等ニ關シ學校醫等ノ意見アルトキハ之ヲ表末ニ附記スヘシ

第八條 幼稚園ニ於テハ本令中小學校生徒ノ身體検査ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

第九條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

● 徵兵事務條例ニ依リ學校長ノ交  
付スル在學證明書ニ關スル規程

文部省令第三十九號(明治三十六年十二月二十六日)

徵兵事務條例第五十五條ニ依リ學校長ノ交付スル在學證明書ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 徵兵事務條例第五十五條ニ依リ學生、生徒ニ在學證明書ヲ交付スルトキハ左ノ書式ニ據ルヘシ

在學ノ學科及學年	原籍	氏名	生年月日
入學ノ年月日			

徵兵事務條例第五十五條ニ依リ在學證明書ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

第二條 學校長ハ在學證明書交付名簿ヲ調製シ前條ノ證明書ヲ交付スルトキハ證明書ノ番號ヲ該名簿ニ記入シ且證明書ト名簿トニ割印ヲナスヘシ

第三條 卒業若ハ退學等ニ依リ第一條ノ證明書ヲ交付シタル學生、生徒ノ學籍ヲ除キタルトキハ學校長ハ其ノ除籍ノ事由及年月日ヲ十四日以内ニ原籍地ノ市長、北海道、沖繩縣、東京市、京町村長、町村制ヲ施行セザル地、都市及大阪市ニ在リテハ區長、方ニ在リテハ區長、方ニ在リテハ町村長ニ通知スヘシ

附則 明治十八年文部省洋第一號ハ之ヲ廢止ス

● 學校生徒徵集猶豫ニ關スル取締  
方

文部省訓令第一號(明治三十七年一月九日)

文部省訓令第一號(明治三十七年一月九日)

兵役ハ臣民カ國家ニ對シテ負擔スル重大ナル義務タルニ拘ラス一定ノ學校ニ在學スル者ニ對シ徵集猶豫ノ特典ヲ與ヘラルルハ國家カ教育ヲ重シ之ヲ獎勵スルノ趣旨ニ出テタルヤ明ナリ然ルニ往々此ノ特典ヲ濫用シ名ヲ在學ニ籍リテ徵集猶豫ヲ受ケントシ學校ニ於テモ亦別ニ注意ヲ加フル所ナクシテ容易ニ之ヲ認容スルモノアリト聞ク此ノ如キハ實ニ徵集猶豫ノ本旨ニ背反スルノミナラス又臣民ノ本分ヲ愆ルモノト謂フヘシ地方長官ハ深ク此ノ點ニ留意シ徵兵令上ノ特典ヲ有スル學校ニ對シテハ客年本省令第三十九號ノ手續ヲ實行セシムルハ勿論其ノ生徒ノ入學在學出席退學ニ關シ常ニ精確ノ調査ヲナサシムル等特ニ監督ヲ嚴正ニシ荷モ徵兵忌避ノ疑アルカ如キ場合ニ於テハ速ニ其ノ情況ヲ本大臣ニ具申シ又法令ノ命スル所ニ從ヒテ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ怠ラサルヘシ

● 文部省直轄實業專門學校委託生  
規程

文部省令第二十三號(明治四十年七月二十五日)

文部省直轄實業專門學校委託生規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 北海道府縣郡市町村其ノ他ノ公共團體及私人ハ文部省直轄實業專門學校生徒ニシテ卒業後其ノ公共團體又ハ私人ノ設置セル實業學校ノ教職ニ從事スヘキ者ニ學費ヲ補助シ委託生トシテ在學セシムルコトヲ得

第二條 公共團體又ハ私人ハ委託生ノ選定ヲ當該學校長ニ委嘱スルコトヲ得

第三條 公共團體又ハ私人ヨリ委託生ニ補助スヘキ學費ハ一箇月十圓以上トス

第四條 委託生ニハ授業料ヲ徵收セス

第五條 委託生ハ卒業ノ日ヨリ學費ノ補助ヲ受ケタル期間ニ一箇年ヲ加ヘタル期間當該公共團體又ハ私人ノ設置セル實業學校ノ教職ニ從事スヘキ職務ヲ有ス

第六條 委託生ニシテ在學中中途退學シ又ハ委託生タルコトヲ止ムルトキ若ハ卒業後左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ補助ヲ受ケタル學費ヲ當該公共團體又ハ私人ニ償還スヘシ但シ當該公共團體又ハ私人ニ於テ酌量スヘキ情狀アリト認メタルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得



第十章 生徒

- 一 前條ノ義務ヲ盡ササルトキ
  - 二 懲戒免職ニ處セラレタルトキ
  - 三 免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタルトキ
- 第七條 學校長ハ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

第十一章 教科用圖書

● 小學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程

文部省告示第二百五十四號(明治四十二年十月二日)

(沿革)明治四三年八月文部省告示第二〇九號、四五年六月同第一六一號、

大正三年三月同第三四號、四年三月同第六二號改正

小學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程

第一條 文部省ニ於テ著作權ヲ有スル左記小學校教科用圖書ハ此ノ規程ニ依リ其ノ翻刻發行ヲ日本書籍株式會社、東京書籍株式會社、大阪書籍株式會社ニ其ノ販賣ヲ株式會社國定教科書共同販賣所ニ許可ス

- 一 修身
- 二 國語
- 三 歴史
- 四 地理
- 五 算術
- 六 圖畫
- 七 理科

各會社ニ翻刻發行ヲ許可スル圖書ノ割合ハ各種各卷ニ就キ日本書籍株式會社、東京書籍株式會社ハ各十分ノ四、大阪書籍株式會社ハ十分ノ二トス  
第二條 翻刻發行許可ノ期間ハ大正五年度所用分ヨリ以後六箇年トス但シ翻刻發行者ニ於テ此ノ規定ニ違背シタルトキ若ハ其ノ信用缺乏シ又ハ其ノ業務株主ノ行動等ニシテ不都合アル場合ハ期間内ト雖モ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十一章 教科用圖書

翻刻發行者ハ許可滿期ノ場合ニ於テ繼續許可ヲ出願スルコトヲ得

第三條 前條第一項但書ノ規定ハ共同販賣所ニ之ヲ準用ス

第三條ノ二 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ許可以外ノ業務ヲ行フコトヲ得ス但シ特ニ文部大臣ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニアラス

第四條 各翻刻發行者ノ毎年發行スヘキ圖書ノ種類及冊數ハ文部大臣之ヲ指定ス但シ指定以前ニ於テ製造ニ著手セントスルトキハ其ノ種類及冊數ヲ具シ文部大臣ノ承認ヲ受ケタルヘシ

翻刻發行者前項ノ指定ヲ受ケタルトキハ共同販賣所ト協議ノ上更ニ之ヲ各卷ニ分配シタル圖書ヲ製シ文部省ニ提出スヘシ

第五條 翻刻發行者ニ於テ毎年發行スヘキ圖書ノ冊數ヲ變更セントスルトキハ事情ヲ具シ文部大臣ノ承認ヲ受ケタルヘシ

第六條 製版、印刷、製本ニ關スル總テノ工場及事務所所在地ハ東京、大阪ニ限ル工場及事務所ノ設置又ハ變更ハ遲滞ナク文部省ニ届出ツヘシ

第七條 翻刻發行者ハ其ノ製造シタル圖書ノ全部ヲ共同販賣所ニ賣渡スヘシ

前項ノ賣渡ニ關スル契約ハ文部大臣ノ承認ヲ受ケタルヘシ

第八條 共同販賣所ハ道府縣内ニ少クトモ一箇ノ共同販賣支所又ハ特約販賣所ヲ設ケ其ノ下ニ若干ノ取次販賣所ヲ置キ各其ノ供給區域ヲ劃定シ圖書供給ノ普及ヲ圖ルヘシ

前項ノ供給區域及販賣ニ關スル契約ハ文部大臣ノ承認ヲ受ケタルヘシ

第九條 共同販賣所ハ圖書ヲ検査シ此ノ規程第十條乃至第十六條ニ違背セリト認ムルモノハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十條 圖書ハ用紙白色ニシテ強キ光澤ナク其ノ質強韌ニシテ粗糙ナラス印刷鮮明ニシテ製本堅牢ナルコトヲ要ス

第十一條 圖書ノ定價及用紙ノ標準ハ別ニ之ヲ告示ス

第十二條 翻刻發行者ハ各圖書ノ見本三部ヲ文部省ニ提出シ検査ヲ受ケル



圖書ハ前項ノ検査ヲ經タル上ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス

第十三條 圖書ノ文字ノ大小、圖畫、卷數、枚數、頁數、行數及毎行ノ字數其ノ他圖書ノ種類ニ依リ特ニ定ムル事項ハ文部省ノ見本ト同一ナルコトヲ要ス

第十四條 文部省ニ於テ圖書ノ見本ニ修正ヲ加ヘタルトキハ特ニ定ムル期限後ハ從前ノ見本ニ依リテ翻刻シタル圖書ヲ販賣スルコトヲ得ス

修正圖書ハ第十二條ノ規定ニ準シ検査ヲ經タル上ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス

第十五條 圖書ノ用紙、印刷及製本ハ第十二條第一項ノ検査ヲ經タル見本ト同一ナルコトヲ要ス

第十六條 圖書ニハ各册尾ニ第十二條第一項ノ検査年月日及定價ヲ記載スルコトヲ要ス

第十七條 翻刻發行者ハ翻刻發行許可手数料トシテ發行圖書一册毎ニ金三厘五毛ヲ納付スヘシ

前項ノ手数料ハ發行圖書ノ指定册數(指定以前ニ製造著手ノ承認ヲ受)又ハ製造著手ノ承認册數ニ應シテ積算シタル額ヲ二分シ其ノ一分ハ指定又ハ承認ノ日ヨリ五日以内ニ他ノ一分ハ五十日以内ニ納付スヘシ

第十八條 共同販賣所ニ於テ各翻刻發行者ヨリ賣渡ヲ受クル圖書ノ册數ハ前條ノ手数料納付済ニ係ル册數ヲ超過スルコトヲ得ス

第十九條 翻刻發行者ハ文部大臣ヨリ發行册數ノ指定若ハ承認ヲ受ケタルトキハ速ニ圖書製造ノ功程ニ關スル豫定計畫書ヲ提出スヘシ

前項ノ豫定計畫書ヲ不適當ナリト認ムルトキハ文部大臣ハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十條 圖書ハ其ノ使用期ヨリ遅クモ六十日以前ニ翻刻發行者ヨリ共

同販賣所ニ納付シ共同販賣所ハ使用期二十日前マテニ各地販賣所ニ到達スル様發送スヘシ

第二十一條 共同販賣所ハ常在在庫圖書ノ種類册數ヲ明瞭ナラシメ其ノ保管ニ關シ十分ノ注意ヲ爲シ且時々地方ニ於ケル需要供給ノ狀況ヲ取調ヘ若シ發行册數ニ不足ヲ生スルノ見込アルトキハ速ニ文部省ニ申出ツヘシ

第二十二條 圖書製造ノ功程遅延ニシテ第二十條ノ期限内ニ製本ヲ完了スルコト能ハスト認ムルトキハ文部大臣ハ翻刻發行ノ指定册數ヲ減少シ若ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

文部大臣ニ於テ第十條乃至第十七條ニ違背セリト認メタル圖書ニ就キテハ廢棄又ハ改良等必要ノ處分ヲ命スルコトアルヘシ

第二十三條 圖書ノ翻刻發行及保管ニ要スル工場、倉庫其ノ他ノ設備不完全ナリト認ムルトキハ文部大臣ハ之カ増設又ハ改良ヲ命スルコトアルヘシ

第二十四條 圖書ノ供給ニ關スル施設ニシテ供給上不便ト認メタルトキハ文部大臣ハ之カ改良ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條 (削除)

第二十六條 左ノ事項ハ總テ文部大臣ノ承認ヲ受タヘシ

一 會社ノ取締役、監査役或代表者ノ選任

二 株式ノ譲渡

三 定款

四 各種積立金ノ使用

五 用紙ノ購入契約

六 公債以外ノ有價證券ノ取得

第二十七條 各會社ハ他ノ會社ノ株式ノ引受又ハ譲受ヲナスコトヲ得ス

第二十八條 公債證書ノ價格ハ額面ニ債券ノ價格ハ額面ニシテ供給上不便ト認メタルトキハ

第三十七條 前條ノ寄託通知書ヲ受領シタルトキハ該通知書記載ノ金庫ニ公債證書又ハ債券ヲ提供シ保管證書ヲ受ケ第三號書式ノ質權設定證書及記名公債證書(記名國債證書ヲ除ク)記名債券ノ場合ハ民法第三百六十四條ノ規定ニ依リタル書類ト共ニ第二號書式ノ保證金納付書ニ添付シ文部大臣官房會計課長ニ提出スヘシ

附則

第三十八條 印紙ノ種類及用紙ノ標準ニシテ既ニ告示シタルモノハ其ノ告示ニ依ル

明治三十八年文部省告示第六十八號小學校教科用圖書翻刻發行規則第十條及第四十二條第二項ニ依リ定メタル圖書ノ定價ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第三十九條 明治三十八年文部省告示第六十八號小學校教科用圖書翻刻發行規則ハ之ヲ廢止ス

第四十條 明治四十三年度所用分圖書ハ各會社ハ其ノ發行册數ヲ指定スルマテハ從來ノ規則ニ依リ從來ノ翻刻發行者之ヲ發行スヘシ但シ證明料ニ關シテハ第十七條ノ規定ニ依ルモノトス

第四十一條 共同販賣所ニ對シ從來文部大臣ニ於テ命令又ハ承認シタル事項ニシテ此ノ規程ト抵觸セサルモノハ仍其ノ效力ヲ有ス

○大正三年文部省告示第三十四號附則

本規程施行以前ニ指定ヲ受ケタル册數中證明料未納ニ係ルモノハ本規程施行ノ日ニ指定ヲ受ケタルモノト看做ス

○大正四年三月文部省告示第六二號附則

大正四年度所用分圖書ニ關スル翻刻發行及販賣ニ就キテハ仍從來ノ規定ニ依ル舊第二十五條ニ依ル積立金ノ使用ニ就キ亦同シ

(第一號書式)

保證金種類屆

ルトキハ之ヲ再配當ニ充ツルコトヲ得但シ配當ハ通シテ一年一割二分ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十八條 文部大臣ハ必要ニ應シ吏員ヲ派シテ圖書ノ製造販賣及會計其ノ他業務ノ實況ヲ検査シ又帳簿及書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ翻刻發行者又ハ販賣者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十九條 文部大臣ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ此ノ規程ノ條項ニ修正ヲ加フルコトアルヘシ

第三十條 第二條第一項但書第三條第二十二條第二十三條第二十四條第二十九條第三十二條ノ場合ニ於テ發行者又ハ販賣者カ損害ヲ受クルモ文部省ハ其ノ賠償ノ責ニ任セス

第三十一條 翻刻發行者ハ其ノ發行ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ公債證書、勳業債券、興業債券若ハ北海道拓殖銀行債券ヲ以テ保證金ヲ納付スヘシ

保證金ハ總額ヲ十二万五千圓トシ各翻刻發行者ノ納付額ハ文部大臣之ヲ指定ス

第三十二條 翻刻發行者ニ於テ期限内ニ保證金ノ納付ヲ爲サ、ルトキハ翻刻發行ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第三十三條 翻刻發行者ニ於テ翻刻發行ノ事業ヲ止メタルトキハ納付ノ保證金ハ請求ノ日ヨリ三箇月以内ニ拂戻ヲ爲スヘシ

第三十四條 翻刻發行者ニ於テ此ノ規程又ハ此ノ規程ニ依リ發スル文部大臣ノ命令ニ違背シタルトキハ違約金ヲ徵收スルコトアルヘシ

違約金ハ保證金額ノ範圍内ニ於テ文部大臣之ヲ定ム

第三十五條 翻刻發行者ニ於テ前條ノ違約金ヲ文部大臣ノ指定シタル期限内ニ納付セサルトキハ保證金ヲ以テ辨済ニ充ツヘシ

第三十六條 保證金ヲ納付セントスルトキハ第一號書式ニ依リ公債證書又ハ債券ノ種類ヲ届出テ寄託通知書ノ交付ヲ受クヘシ



第十一章 教科用圖書

一金何圓也 保證金額

何圓券何々公債證書 何枚  
 何第何番 自何第何番至何第何番 無記名 掛者所有ノ分  
 何圓券何々公債證書 何枚 時價何圓(又ハ發行最  
 何第何番 自何第何番至何第何番 無記名 何某所有ノ分  
 何圓券何々公債證書 何枚 時價何圓(又ハ發行最  
 何第何番 自何第何番至何第何番 無記名 何某所有ノ分  
 何圓券何々公債證書 何枚 時價何圓(又ハ發行最  
 何第何番 自何第何番至何第何番 無記名 何某所有ノ分  
 何圓券何々公債證書 何枚 時價何圓(又ハ發行最  
 何第何番 自何第何番至何第何番 無記名 何某所有ノ分

右納付致度候ニ付寄託通知書交付相成度候也

住 所

教科用圖書翻刻發行人 何 某 印

(第二號書式)

三 錢 保證金納付書 保證金額

一金何圓也 保證金額  
 但シ何々金庫第何號保管證書ノ通

外ニ

一 實額設定證書  
 一 第三債務者へ通知ノ請書(又ハ承諾書)  
 一 何々(實額設定ニ關シ必要ナル書類アルトキ)  
 右納付候也

年 月 日

住 所

何 通  
 何 通

三五四

教科用圖書翻刻發行人 何 某 印

(第三者ヨリ實額ノ設定ヲナシタルトキハ連署ヲ要ス)

(第三號書式)

應金高 實額設定證書 印紙

(無記名ノ例)  
 何圓券何々公債證書 何枚  
 何第何番 自何第何番至何第何番

右ハ掛者ノ所有ニ有之候處教科用圖書翻刻發行人ノ保證金トシテ納付候ニ付實額設定候也

又ハ 右ハ掛者ノ所有ニ有之候處何縣何郡何市何町何村何番地何某ノ爲ニ教科用圖書翻刻發行人ノ保證金トシテ納付シ實額設定候也

(記名ノ例)  
 何圓券何々公債證書 何枚  
 何第何番 自何第何番至何第何番

右ハ掛者ノ所有ニ有之候處教科用圖書翻刻發行人ノ保證金トシテ納付候ニ付實額ヲ設定シ第三債務者へ通知ノ證(又ハ承諾書)添付候也

又ハ 右ハ掛者ノ所有ニ有之候處何縣何郡何市何町何村何番地何某ノ爲ニ教科用圖書翻刻發行人ノ保證金トシテ納付候ニ付實額ヲ設定シ第三債務者へ通知ノ證(又ハ承諾書)添付候也

年 月 日

住 所

教科用圖書翻刻發行人(又ハ第三者) 何 某 印

● 翻刻發行許可小學校教科用圖書 定價

備考 文部大臣官房會計課長宛

一 公債證書ノ種類、券面額毎ニ區分列記スルモノトス  
 一 記名ト無記名及實額設定者ノ異ナル毎ニ別紙ニ調製スルモノトス

書 目	定 價	告 示
尋常小學校 尋常小學修身書 卷一教師用	四 〇七〇大	二 一〇七
尋常小學校 卷二教師用	〇七〇大	二 一〇七
尋常小學校 卷三教師用	〇八〇明	四 一〇七
尋常小學校 卷四教師用	〇九〇大	二 一〇七
尋常小學校 卷五教師用	一〇〇明	四 二〇八
尋常小學校 卷六教師用	一〇〇明	四 二〇八
尋常小學校 複式編制學校教師用甲	一五〇明	四 二六二
尋常小學校 複式編制學校教師用乙	一五〇明	四 二六二
尋常小學校 乃至第四學年教師用	一一〇大	三 一六三
尋常小學校 卷一兒童用	〇三〇大	二 一四七
尋常小學校 卷二兒童用	〇四〇大	二 一〇七
尋常小學校 卷三兒童用	〇五〇明	四 一〇七

第十一章 教科用圖書

同 卷四兒童用	〇六〇明	四 一〇七
同 卷五兒童用	〇六〇明	四 一〇七
同 卷六兒童用	〇六〇大	二 一〇七
同 複式編制學校兒童用甲	〇六〇明	三 一六三
同 複式編制學校兒童用乙	〇三〇大	一 四四
同 學年兒童用乙	〇四〇大	一 四四
同 第二學年	〇四〇大	一 四四
同 第三、四學年	〇六〇大	一 四五
同 修身掛圖	二、〇〇〇明	一 一一
同 第二學年用第十八天皇陛下	〇八〇大	三 二
同 第二學年用	二、〇〇〇明	四 一四
同 複式編制學校用甲	一、八〇〇明	三 一六三
同 複式編制學校用乙	一、九〇〇大	四 一四八
同 同讀本	〇六〇明	四 二八九
同 卷一	〇七〇明	四 二一〇
同 卷二	〇七〇明	四 二一〇
同 卷三	〇七〇大	二 一〇七
同 卷四	〇八〇明	四 二一〇
同 卷五	〇八〇明	四 二一〇
同 卷六	〇八〇明	四 二一〇
同 卷七	〇八〇大	二 一〇七
同 卷八	〇八〇大	二 一〇七

三五五



第十一章 教科用圖書

同	卷九	〇八〇大	四	六三
同	卷十	〇八〇大	四	六三
同	卷十一	〇九〇大	四	六三
同	卷十二	〇九〇大	四	六三
同	秋季尋常小學讀本卷一	〇六〇明	四二	二三〇
同	卷二	〇七〇明	四三	一一一
同	卷三	〇七〇明	四三	一一一
同	卷四	〇八〇明	四四	一〇七
同	第二尋常小學讀本第一學年用上	〇六〇大	二	一八三
同	第一學年用下	〇七〇大	二	一八三
同	第二學年用上	〇七〇大	二	一八三
同	第二學年用下	〇八〇大	二	一八三
同	第三學年用上	〇八〇大	三	一一〇
同	同下	〇八〇大	三	一一〇
同	第四學年用上	〇八〇大	三	一四五
同	同下	〇八〇大	三	一四五
同	尋常小學書キ方	〇三〇明	四二	二八九
同	秋季尋常小學書キ方	〇三〇明	四三	一一一

同	第二學年用上下	〇三〇明	四三	二一〇
同	第一學年用	〇三〇大	三	一八三
同	第二學年用	〇三〇大	三	一八三
同	第三學年用	〇三〇大	三	一八三
同	第四學年用	〇三〇大	三	一八三
同	第五學年用	〇三〇大	三	一八三
同	第六學年用	〇三〇大	三	一八三
同	尋常小學日本歷史卷一教師用	一五〇大	二	一〇七
同	卷一兒童用	〇八〇大	二	一〇七
同	卷二教師用	二二〇大	三	一五三
同	卷二兒童用	〇九〇明	四四	二四四
同	卷一兒童用	〇七〇明	四三	一一一
同	卷二兒童用	〇六〇大	二	一〇七
同	附圖	一九〇大	四	六三
同	第一學年教師用	〇七〇明	四三	一一一
同	第二學年教師用	〇七〇明	四三	一一一
同	第三學年教師用	〇八〇明	四三	一一一
同	第四學年教師用	〇八〇明	四三	一一一
同	第五學年教師用	〇八〇明	四三	一一一
同	第六學年教師用	〇八〇明	四三	一一一
同	第三學年兒童用	〇七〇明	四三	一一一
同	第四學年兒童用	〇七〇明	四三	一一一
同	第五學年兒童用	〇七〇明	四三	一一一
同	第六學年兒童用	〇七〇明	四三	一一一

同	第六學年兒童用	〇六〇大	二	一〇七
同	第五學年兒童用	〇五〇大	四	六三
同	第六學年兒童用	〇五〇大	二	一〇七
同	教師用	〇八〇明	四三	一一一
同	第三學年兒童用	〇六〇明	四三	一一一
同	第四學年兒童用	〇六〇大	四	六三
同	第五學年兒童用	〇六〇大	四	六三
同	第五學年男生用	〇七〇大	四	六三
同	第五學年女生用	〇六〇明	四三	一一一
同	第六學年男生用	〇八〇大	四	六三
同	第六學年女生用	〇八〇明	四三	一一一
同	教師用	〇八〇大	四	六三
同	第三學年兒童用	〇六〇大	四	六三
同	第四學年兒童用	〇六〇大	四	六三
同	第五學年兒童用	〇七〇大	四	六三
同	第五學年女生用	〇六〇明	四三	一一一
同	第六學年男生用	〇八〇大	四	六三
同	第六學年女生用	〇七〇大	四	六三
同	第一學年教師用	二二〇明	四三	一一一
同	第二學年教師用	二二〇明	四三	一一一
同	第三學年教師用	二二〇明	四三	一一一

第十一章 教科用圖書

同	第四學年教師用	一八〇明	四三	一一一
同	第五學年教師用	二八〇明	四三	一一一
同	第六學年教師用	二二〇明	四三	一一一
同	第三學年兒童用	〇七〇明	四三	一一一
同	第四學年兒童用	〇六〇大	四	六三
同	第五學年兒童用	〇九〇明	四三	一一一
同	第五學年男生用	〇七〇明	四三	一一一
同	第五學年女生用	〇七〇明	四三	一一一
同	第六學年男生用	〇八〇明	四三	一一一
同	第六學年女生用	〇六〇明	四三	一一一
同	高等小學修身書	〇九〇明	三六	二〇三
同	第二學年教師用	〇八五明	三六	二二七
同	第三學年教師用	〇九〇明	三六	二二七
同	第四學年教師用	〇九〇明	三六	二二七
同	卷一兒童用	〇七〇大	四	六三
同	卷二兒童用	〇八〇大	二	一八三
同	新制第三學年用	〇八〇明	四三	一一一
同	卷一女子用	一一〇明	四四	二五六
同	卷二女子用	一一〇明	四五	一六〇
同	卷三女子用	一一〇明	四五	一六〇
同	卷四女子用	一一〇大	二	一三五







### ● 小學校教科用圖書用紙標準

文部省告示第七號(明治三十六年五月二十七日)

(沿革) 明治三十七年六月文部省告示第一三四號、同年一〇月同第一八四號、

四一年八月同第二一七號改正

〔小學校教科用圖書用紙規則〕ニ依リ翻刻發行ヲ許可スヘキ圖書ノ用紙ニ關シ標準ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校教科用圖書用紙標準

第一條 小學校教員用又ハ兒童用教科書ニ機械澱紙ヲ用フルトキハ左ノ標準ニ依ルヘシ

一 用紙ノ原料ハ木綿襍、藁、化學的木材纖維ノ内ヲ擇フヘシ摺潰木材質ハ用フヘカラス

二 用紙中ニ混入スル白土等ハ其ノ重量ノ百分ノ十五ヲ超過スヘカラス

三 用紙ハ松脂糊(ロジンサイズ)ヲ十分ニ施セルモノタルヘシ

四 用紙ノ重量ハ一平方尺ニツキ兩面摺用紙ハ一匁九分以上、片面摺用紙ハ一匁一分以上タルヘシ

五 紙力ハ幅一寸長七寸五分ニテ兩面摺用紙ハ十七ボンド以上、片面摺用紙ハ十四ボンド以上タルヘシ

第二條 小學校教員用又ハ兒童用教科書ニ手漉紙ヲ用フルトキハ左ノ標準ニ依ルヘシ

一 用紙原料ハ楮皮、三椏皮、藁、化學的木材纖維ノ内ヲ擇フヘシ摺潰木材質ハ用フヘカラス

第二項第三項ノ用紙ハ紙面緻密ニシテ印刷ニ必要ナル光澤ヲ備フルコトヲ要ス

第五條 小學校教科用圖書ノ表紙ハ左ノ標準ニ依ルヘシ  
一 用紙ノ原料ハ楮皮、三椏皮、藁、化學的木材纖維(用紙全體ニ對シテ)ノ内ヲ擇フヘシ但シ手漉貼合紙ノ内部ニ用フルモノハ此限ニアラス

二 用紙ノ厚ハ機械澱紙ハ一厘六毛以上、手漉紙ハ一厘二毛以上タルヘシ

三 紙力ハ幅四分五厘長六寸五分ニテ機械澱紙ハ三十ボンド以上、手漉紙ハ三十五ボンド以上タルヘシ

四 用紙ハ松脂糊(ロジンサイズ)ヲ十分ニ施セルモノタルヘシ但シ手漉貼合紙ハ此限ニアラスト雖モ澱粉糊ヲ十分ニ施シ剝離ノ虞ナキモノタルヘシ

五 用紙ハ堅實ニシテ折目ヨリ脆裂ヲ生セス表面緻密ニシテ纖維ノ剝脫セサルモノタルヘシ

六 用紙ニ厚六厘以上ノ堅實ナル板紙ヲ用フルトキハ前各條ニ依ラサルコトヲ得但シ其表裏ニ貼合スヘキ用紙ノ原料ハ仍第一號規定ノモノタルヘシ

○明治四十一年文部省告示第二百十七號附則

本標準ハ明治四十二年度用圖書ノ新ニ翻刻發行スヘキ分ヨリ施行ス但シ既ニ製造準備中ニ係ルモノハ明治四十二年度用ニ限リ從來ノ標準ニ依ルモ妨ナシ

### ● 採定小學校教科用圖書紙質印刷等ノ標準ニ供用ノ爲檢印付與

文部省告示第二百十一號(明治三十四年十二月八日)

地方廳ニ於テ小學校令第二十四條ノ審査用ニ供シ又ハ既ニ採定セル小學校

第十一章 教科用圖書

二 用紙中ニ白土等ヲ混入スヘカラス  
三 用紙ノ重量ハ一平方尺ニツキ五分以上タルヘシ  
四 紙力ハ幅一寸長七寸五分ニテ十三ボンド以上タルヘシ

第三條 小學校教授用掛圖ニ機械澱紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ二匁五分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十七ボンド以上トスル外第一條ニ準ス

小學校圖書教科書ニ機械澱紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ二匁二分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十七ボンド以上トスル外第一條ニ準ス但シ幾何畫教科書說明ノ部ハ用紙ノ重量及紙力ニ關シテモ仍第一條ニ準ス

小學校地理附圖ノ地圖用紙ニ機械澱紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ二匁二分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十七ボンド以上、白土ヲ百分ノ二十五以下トスル外第一條ニ準ス

第二項第三項ノ用紙ハ紙面緻密ニシテ印刷ニ必要ナル光澤ヲ備フルコトヲ要ス

第四條 小學校教授用掛圖ニ手漉紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ九分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十七ボンド以上トスル外第二條ニ準ス

小學校圖書教科書ニ手漉紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ一匁二分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十五ボンド以上トスル外第二條ニ準ス但シ幾何畫教科書說明ノ部ハ用紙ノ重量及紙力ニ關シテモ仍第二條ニ準ス

小學校地理附圖ノ地圖用紙ニ手漉紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ一匁七分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十五ボンド以上トスル外第二條ニ準ス但シ幾何畫教科書說明ノ部ハ用紙ノ重量及紙力ニ關シテモ仍第二條ニ準ス

教科用圖書ノ紙質印刷等ノ標準ニ供センカ爲地方廳又ハ圖書發行者ノ請求アリタルトキハ本省ニ於テ其圖書ニ檢印ヲ與フヘシ

### ● 小學校教科用圖書供給上取締方

文部省令第四號(明治三十五年二月十四日)

小學校教科用圖書ノ發行者ニ於テ採定セラレタル圖書ノ供給ヲ怠リ又ハ之ヲ拒否シタル事實アルトキハ其ノ情狀ニ依リ文部大臣ハ該圖書又ハ該發行者ノ發行ニ係ル小學校教科用圖書ノ全部ノ檢定ヲ無效トシ又其ノ發行ニ係ル小學校教科用圖書ヲ檢定セサルコトアルヘシ

### ● 教科用圖書檢定規則

文部省令第二號(明治二十年五月七日)

(沿革) 明治二五年三月文部省令第三號、同年四月同第五號、二八年五月同第三號、二九年四月同第五號、三〇年一〇月同第一八號、三二年四月同第二三號、同年一月同第四〇號、三九年七月同第一二號、四〇年一〇月同第三一號改正

明治十九年五月文部省令第七號教科用圖書檢定條例ヲ廢シ師範學校小學校及中學校教科用圖書ノ檢定ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

教科用圖書檢定規則

第一條 教科用圖書ノ檢定ハ(師範學校令)中學校令高等女學校令小學校令及教則ノ旨趣ニ合シ教科用ニ適スルコトヲ認定スルモノトス

本規則ニ於テ教科用圖書ト稱スルハ師範學校中學校高等女學校ニ關シテハ生徒用圖書トシ小學校ニ關シテハ教師用圖書及兒童用圖書トス

前項ノ教師用圖書トハ教授スヘキ事項教授上ノ注意及應用ニ關スル事項等ヲ記載シタル圖書又ハ該圖書ニ附屬シテ兒童ニ示スヲ目的トスル掛圖類ヲ云フ

第二條 圖書ノ發行者ハ該圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得



外國ニ於テ發行シタル圖書ハ左ノ各號ノ一ニ當ルモノニ限リ發行者ニ於テ其圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得

一 師範學校中學校又ハ高等女學校ニ於ケル英語、佛語ノ教科用ヲ目的トスルモノ

二 小學校ニ於ケル英語ノ教科用ヲ目的トスルモノ

第三條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ圖書一種ニ付其目的トスル所ノ學校一種毎ニ第一條第二項ノ掛圖類ハ二部ノ定價其ノ他ハ二十部ノ定價ニ等シキ手数料及該圖書二部ヲ檢定願書ニ添ヘ文部省ニ納ムヘシ但檢定ヲ得タル後定價ヲ増加シタルトキハ本文ノ例ニ準シ其差額ヲ追納スヘシ

第四條 第二條ニ依リ檢定ヲ請ヒタル圖書中項少ノ修正ヲ加フレハ檢定ヲ與フルコトヲ得ヘシト認ムルモノアルトキハ其廉ヲ檢定出願者ニ指示スルコトアルヘシ

第五條 檢定シタル圖書ハ文部省ヨリ官報ヲ以テ其名稱、冊數、定價、目的トスル學校或學科ノ種類、版權免許又ハ發行ノ年月日該圖書ニ記載スル所ノ著譯者及發行者ノ族籍住所姓名等ヲ廣告スヘシ

第六條 檢定ノ效力ハ檢定ヲ得タル後修正ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトス

第七條 第五條ニ依リ廣告シタル定價、發行ノ年月日該著譯者及發行者ノ族籍住所姓名等ニ異動ヲ生シ圖書中其記載方ヲ變更シタルトキ又ハ同條ニ依リ廣告シタル冊數ヲ變更シタルトキハ更ニ官報ヲ以テ其旨ヲ廣告スルニアラサレハ檢定ノ效力該圖書ニ及ハサルモノトス

第八條 檢定出願者ニシテ檢定ヲ得ザリシ事由ノ大要ヲ知ラントスルトキハ指令到達ノ日ヨリ六十日以内ニ願出ツヘシ

第九條 檢定出願中ノ圖書若クハ檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ更ニ第三條ノ手数料ノ半額ヲ納ムヘシ但第四條ノ指示ヲ受ケテ修

正ヲ加フル場合ハ此限ニアラス

第十條 圖書ノ發行者ハ其檢定ヲ得タル圖書ニシテ第七條ノ變更アルニ會スルトキハ其事項ノ廣告ヲ文部省ニ請フヘシ

第十一條 檢定ヲ請ヒタル後ハ其願下ヲナストキ又ハ其他何等ノ事由アリトモ既ニ納メタル手数料ハ之ヲ還付セサルモノトス

第十二條 本規則ニ於テ修正ト稱スルハ圖書ノ名稱ヲ變更シ文章字句圖畫ヲ増減若クハ校訂シ又ハ枚數行數字體畫形ヲ變更シ又ハ檢定願書ニ添ヘ差出シタル圖書ニ比シ紙質印刷ヲ粗惡ニシ又ハ註解附錄序跋ヲ加除若クハ變更スル場合ヲ包含スルモノトス

第十三條 第四條ニ依リ圖書中修正スヘキ廉ヲ指示シタルトキハ一箇年間内ニ其廉ヲ修正シテ該圖書ノ檢定ヲ追願スヘシ此期限内ニ修正追願セザルトキハ該圖書ハ檢定ヲ與ヘス

第十四條 檢定ヲ得タル圖書ハ每冊見易キ所ニ明治何年何月何日文部省檢定濟何學校何學科用ノ文字ヲ記載スヘシ但小學校教科用圖書ニ在リテハ仍兒童用教師用ノ別ヲ附記スヘシ

第十五條 檢定ヲ得サル圖書若クハ第六條第七條ニ依リ檢定ノ效力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定濟其他之ニ類スル文字ヲ記載シテ販賣シタルトキハ其檢定ノ效力ヲ取消スルコトアルヘシ

第十六條 第十五條ニ違背シタル者ハ二十五日以内ノ罰金又ハ二十五日以下ノ禁錮ニ處ス

第十七條 圖書ハ其全部補ヒタルモノニアラサレハ檢定セズ

第十八條 第六條第七條ニ依リ檢定ノ效力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定濟其他之ニ類スル文字ヲ記載シテ販賣シタルトキハ其檢定ノ效力ヲ取消スルコトアルヘシ

第十九條 第二條第二項ニ依リ檢定ヲ請フ者ニシテ帝國内ニ住所ヲ有セザルトキハ檢定ニ關スル一切ノ事項ヲ代理セシメンカ爲ニ帝國内ニ住所ヲ

有スル者ニ就キ代理人ヲ定ムヘシ

第二十條 代理人ヲ置ク場合ニ於テハ檢定出願ノ際委任狀寫ヲ差出スヘシ其外國語ヲ以テ認メタルモノニハ譯文ヲ添附スヘシ

第二十一條 第三條第一項及第九條ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ

第二十二條 檢定ヲ得タル圖書ノ出版ヲ止ムルカ爲ニ需要者ニ對シ大學年ニ供給スル能ハサル事情アルトキハ發行竝ニ檢定濟年月日ヲ具シ其ノ前年十月末日迄ニ文部省ニ届出ツヘシ

前項本文ノ届出ナクシテ圖書ノ供給ヲ怠ル者ハ供給スヘキ學年ノ始ヨリ起算シ五箇年間其ノ者ニ係ル圖書ノ檢定ヲ行ハサルコトアルヘシ

第二十三條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ甲號書式ニ依リ第十三條ニ依リ追願スル者ハ乙號書式ニ依リ又檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ丙號書式ニ依リ願出ツヘシ

○明治四十年文部省令第三十一號附則

第二十二條ハ明治三十三年三月末日前ニ檢定ヲ受ケタル圖書ニハ之ヲ適用セズ

(甲號書式)

檢定願			
(印紙貼附ノ場所)			
圖書ノ名稱	卷冊ノ記	著譯者ノ族籍氏名	發行者ノ發行ノ目的トスル學校
裁員數	族籍氏名	族籍氏名	年月日
年月日	學科ノ種類	種別	

右ノ圖書御檢定相成度該圖書……部及手数料金……相添ヘ此段相願候也

年 月 日 住 所 氏 名 印

文部大臣宛

(乙號書式)

檢定追願			
(印紙貼附ノ場所)			
圖書ノ名稱	卷冊ノ記	著譯者ノ族籍氏名	發行者ノ修正發行ノ目的トスル學校
裁員數	族籍氏名	族籍氏名	年月日
年月日	學科ノ種類	種別	

右ハ年月日附檢定願出候處年月日ノ御指示ニ基キ今般修正發行致候間御檢定相成度該圖書……部相添ヘ此段相願候也

年 月 日 住 所 氏 名 印

文部大臣宛

(丙號書式)

修正檢定願			
右ハ年月日檢定濟ノ處修正發行致候間御檢定相成度該圖書……部及手数料金……相添ヘ此段相願候也			
年 月 日	住 所	氏 名	印

文部大臣宛

教科用圖書檢定規則中改正ノ件

文部省令第二十六號(明治三十二年四月五日)  
明治三十年文部省令第十八號(同令施行前ニ發行シタル教科用圖書ニ關シテモ之ヲ適用ス但此省令ハ明治三十三年一月一日ヨリ施行ス)



教科用圖書ノ紙質印刷ハ檢定出願ノモノヲ以テ標準トスヘキハ當然ノ事項ナルニ拘ラス之ヲ供給販賣スルニ當リ紙質印刷ヲ粗惡ナラシムルコト益々甚シキヲ加フルカ故ニ明治三十年文部省令第十八號ヲ以テ是等弊害ノ取締ニ關シ嚴重ナル制裁法(罰金禁錮等)ヲ設ケタリ然ルニ尙同令施行前ノ檢定ニ係ル教科用圖書ノ紙質印刷ヲ粗惡ニシ檢定出願ノ圖書ニ比シ殆ト別本ノ觀アルモノヲ供給販賣セルモノ少カラス是レ蓋シ同令カ既往ニ廻リテ效力ヲ有セサルカ爲ナラン而シテ今日府縣ニ於テ採用セル小學校教科用圖書ハ省令第十八號施行前ニ檢定ヲ得タルモノ其大半ヲ占メ紙質印刷等ニ對スル苦情益々多キニ際シ斯ル不正ノ所業ヲ防遏シ依テ以テ教科用圖書ノ改良ヲ圖ルコトヲ得サルハ法令ノ效用ヲ完カラシムル所以ニアラス是レ此省令ヲ發布スルノ已ムコトヲ得サル所以ナリ然レトモ一朝俄ニ此弊害ヲ除カントセハ爲ニ供給ノ不足ヲ來シ却テ弊害ヲ著大ナラシムルノ憂ナシトセス即チ適當ノ猶豫ヲ與ヘテ此省令ヲ施行スル所以ナリ

●檢定出願教科用圖書定價標準

文部省告示第二十五號(明治四十四年八月二十四日)  
自今檢定出願教科用圖書ノ定價ハ凡ソ左ノ標準ニ從フヘシ  
小口一枚ニ付菊列金四厘以内四六列金參厘五毛以内但シ地圖圖書帖ハ小口一枚ニ付菊列金壹錢以内四六倍列金壹錢五厘以内  
前記ノ標準ニ依リ難キ場合ニハ豫メ見本ヲ文部省圖書局ニ差出シ許可ヲ受ケテ定價ヲ定ムヘシ

●檢定出願教科用圖書ノ文字印刷等ニ關スル標準

文部省告示第六十一號(明治三十一年十月十四日)  
學生生徒ノ近視眼ヲ患フル者次第ニ増加スルハ教育上看過スヘカラサル所

ナリ而シテ其原因多カルヘシト雖モ日常誦讀スル圖書ノ文字印刷等衛生上不適當ナルモノアルコト其原因タラスンハアラス依テ今同學校衛生顧問ニ諮詢シ檢定出願ノ教科用圖書ニ關シ左ノ標準ヲ定ム其他參考用圖書等ニ關シテモ教師又ハ父兄ニ於テ十分ニ監督アランコトヲ望ム  
檢定出願ノ教科用圖書ノ文字印刷等ニ關シテハ明治三十二年四月一日以後左ノ標準ニ從フヘシ

一文字

甲 漢字及假名

師範學校中學校用ノモノ 凡明朝活字 四號(十四ポイント)ノ六

乙 歐字

師範學校中學校用ノモノ 凡「バイカ、オールドスタイル」(十二ポイント)ノ大サ以上

師範學校中學校教科用圖書中ニ用フル註解例題參照若クハ之ニ類スルモノハ凡明朝活字五號(十一ポイント)ヲ用フルコトヲ得

地圖挿畫表圖等ニ用フル文字ハ師範學校中學校用ノモノニアリテハ凡明朝活字七號(五ポイント半)著色部ニハ六號マテヲ用フルコトヲ得

例

師範學校中學校用ノモノ 凡「バイカ、オールドスタイル」(十二ポイント)ノ大サ以上

師範學校中學校歐文教科用圖書中註解例題參照若クハ之ニ類スルモノ、文字ハ凡「ロングブリマー、オールドスタイル」(十ポイント)マテヲ用フルコトヲ得

師範學校中學校歐文教科用圖書中地圖挿畫表圖等ノ文字ハ凡「ミニオン、オールドスタイル」(七ポイント)著色部ニハ「プレビア、オールドスタイル」(八ポイント)マテヲ用フルコトヲ得

二教科用圖書ハ習字科用ノモノヲ除キ文字ト文字トノ間ニ凡當該文字ノ四分ノ一以上ノ字間ヲ存スルヲ要ス

三教科用圖書ハ習字科用ノモノヲ除キ行ト行トノ間ニ凡當該文字ノ大サ以

文法上許容スベキ事項

一 「居リ」根ム「死ヌ」ヲ四段活用ノ動詞トシテ用キルモ妨ナシ

二 「シク・シキ」活用ノ終止言ヲ「アシシ」「イサマシシ」ナド用キル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

三 過去ノ助動詞「キ」ノ連體言「シ」ヲ終止言ニ用キルモ妨ナシ

例 火災ハ二時間ノ長キニ互リテ鎮火セザリシ

金融ノ靜謐ナリシ割合ニハ金利ノ引弛ヲ見ザリシ

四 「コトナリ」(異)ヲ「コトナレリ」「コトナリテ」「コトナリタリ」ト用キルモ妨ナシ

五 「ハ、セサス」トイフベキ場合ニ「セ」ヲ略スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例 手習サス

周旋サス

寶買サス

六 「ハ、セラル」トイフベキ場合ニ「ハ、サル」ト用キル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例 罪サル

評サル

七 「得シム」トイフベキ場合ニ「得セシム」ト用キルモ妨ナシ

例 最優等者ニノミ褒賞ヲ得セシム

上下貴賤ノ別ナク各其地位ニ安ズルコトヲ得セシムベシ

上ノ行間ヲ存スルヲ要ス  
歐文ニアリテハ師範學校中學校用ノモノハ凡曲尺一分以上ノ行間ヲ存スルヲ要ス  
四教科用圖書中各行ノ長サ(輪廓アルモノハ其輪廓トモ)ハ習字科用ノモノヲ除キ縱行ノモノニアリテハ小學校用ノモノハ凡曲尺五寸五分以下其他ノモノハ凡曲尺五寸以下橫行ノモノ若クハ歐文ノモノニアリテハ凡曲尺三寸三分以下タルヲ要ス  
五教科用圖書ノ用紙ハ白色ニシテ光澤ナク其質強靱ナルヲ要ス且成ルヘク裏面ノ文字若クハ圖書ノ表面ニ透ラサルモノヲ選フヘシ  
六印刷ハ其墨色眞黒ナルヘキハ勿論著色ノ部分ト雖モ區畫整正ニシテ鮮明ナルヲ要ス  
七掛圖ハ凡五間ノ距離ニ於テ其記載ノ事物ヲ明瞭ニ識別シ得ルヲ要ス  
八高等女學校教科用圖書ハ之ヲ用フヘキ學年ニ應シ師範學校中學校ノ例ニ準スヘシ

●檢定條例ニ依リ檢定ヲ得タル教科用圖書有效ノ件

文部省令第三號(明治二十年五月七日)  
明治十九年五月文部省令第七號教科用圖書檢定條例ニ依リ檢定ヲ得タル教科用圖書ハ本年五月文部省令第二號教科用圖書檢定規則ニ依リ檢定シタルモノト同一ノ效ヲ有スルモノトス

●教科書ノ檢定又ハ編纂ニ關シ文法上許容スヘキ事項

文部省告示第五十八號(明治三十八年十二月二日)  
教科書ノ檢定又ハ編纂ニ關シ文法上許容スヘキ事項ヲ定ムルコト左ノ如シ



八 佐行四段活用ノ動詞ヲ助動詞ノ「シ・シカ」ニ連ネテ「暮シシ時」過シシカバ「ナドイフベキ場合ヲ「暮セシ時」過セシカバ「ナドトスルモ妨ナシ

例

唯一遍ノ通告ヲ爲セシニ止マレリ

九 攻撃開始ヨリ陥落マテ僅ニ五箇月ヲ費セシノミ

十 疑ノてにをば「ト」ハ動詞、助動詞ノ連體言ヲ受ケテ名詞ニ連續スルモ妨ナシ

例

花ヲ見ルノ記

學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ

十一 疑ノてにをば「ト」ハ動詞、形容詞、助動詞ノ連體言ニ連續スルモ妨ナシ

例

有ルヤ

面白キヤ

父ニ似タルヤ母ニ似タルヤ

十二 疑ノてにをば「ト」ハ動詞、使役ノ助動詞、及、受身ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

數百年ヲ經ルトモ

如何ニ批評セラルトモ

十三 疑ノてにをば「ト」ハ動詞、使役ノ助動詞、受身ノ助動詞、及、時ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

如何ニ批評セラルトモ

如何ニ批評セラルトモ

十四 疑ノてにをば「ト」ハ動詞、使役ノ助動詞、受身ノ助動詞、及、時ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

如何ニ批評セラルトモ

十五 疑ノてにをば「ト」ハ動詞、使役ノ助動詞、受身ノ助動詞、及、時ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

如何ニ批評セラルトモ

十六 疑ノてにをば「ト」ハ動詞、使役ノ助動詞、受身ノ助動詞、及、時ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

如何ニ批評セラルトモ

十七 疑ノてにをば「ト」ハ動詞、使役ノ助動詞、受身ノ助動詞、及、時ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

如何ニ批評セラルトモ

十八 疑ノてにをば「ト」ハ動詞、使役ノ助動詞、受身ノ助動詞、及、時ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

如何ニ批評セラルトモ

十九 疑ノてにをば「ト」ハ動詞、使役ノ助動詞、受身ノ助動詞、及、時ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

如何ニ批評セラルトモ

二十 疑ノてにをば「ト」ハ動詞、使役ノ助動詞、受身ノ助動詞、及、時ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

如何ニ批評セラルトモ

二十一 疑ノてにをば「ト」ハ動詞、使役ノ助動詞、受身ノ助動詞、及、時ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

如何ニ批評セラルトモ

二十二 疑ノてにをば「ト」ハ動詞、使役ノ助動詞、受身ノ助動詞、及、時ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

如何ニ批評セラルトモ

二十三 疑ノてにをば「ト」ハ動詞、使役ノ助動詞、受身ノ助動詞、及、時ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

例

如何ニ批評セラルトモ

師範學校中學校高等女學校教科用圖書檢定方

文部省告示第五十九號(明治三十一年十月七日) 師範學校(尋常)中學校高等女學校教科用圖書ノ檢定ハ自今其圖書ノ組織程度分量記事ノ性質誤謬ノ多少等ニツキ大體ノ調査ヲ爲スニ止ムルモノトス

檢定ヲ行ハサル教科用圖書

第十一章 教科用圖書

例

月出ヅルト見エテ

嘲弄セラルト思ヒテ

終日業務ヲ取扱ハシムルトイフ

十三 語句ヲ列擧スル場合ニ用キルてにをば「ト」ハ誤解ヲ生ゼザルトキニ限り最終ノ語句ノ下ニ之ヲ省クモ妨ナシ

例

月ト花

宗教ト道徳ノ關係

京都ト神戸ト長崎ヘ行ク

十四 上ニ疑ノ語アルトキニ下ニ疑ノてにをば「ヤ」ヲ置クモ妨ナシ

例

誰ニヤ問ハン

幾何ナルヤ

如何ナル故ニヤ

十五 疑ノてにをば「ト」ハ誤解ヲ生ゼザル限リニ於テ「トモ」或ハ「ドモ」ノ如ク用キルモ妨ナシ

例

何等ノ事由アルモ(アリトモ)議論ニ入ルコトヲ許サズ

期限ハ今日ニ迫リタルモ(ダレドモ)準備ハ未ダ成ラズ

經過ハ頗ル良好ナリシモ(シカドモ)昨日ヨリ聊カ疲勞ノ狀アリ

●文部省告示第二百一十一號(明治三十三年十月十三日) 郷土史談及郷土地理ニ關シテハ自今教科用圖書ノ檢定ヲ行ハス但シ一地方ノ地理ニシテ教員用若ハ教授用ヲ目的トスル圖書ハ此ノ限ニアラス

●文部省告示第六十二號(明治三十七年八月二十六日) 師範學校高等女學校國語科中學校國語漢文科ノ作文ニ關シテハ自今出願ノ教科用圖書ニ對シ檢定ヲ行ハス

●文部省告示第十一號(明治三十八年一月十四日) 師範學校高等女學校修身科ノ作法ニ關シテハ自今其教科用ヲ目的トスル圖書ニ對シ檢定ヲ行ハス

中學校及高等女學校教科書ニ付 稟申方

文部省訓令第三號(明治三十二年四月一日)

北海道廳 府縣

中學校及高等女學校教科書ニシテ明治三十二年勅令第二十八號中學校令第十二條第一項但書及同年勅令第三十一號高等女學校令第十三條第一項但書ニ依ルノ必要アルトキハ地方長官ハ該教科書ノ名稱、著作者及發行者ノ氏名、發行年月日、卷冊ノ記載ヲ記載シ文部大臣ニ稟申スヘシ但稟申ノ際該圖書一部ヲ納付セシムルコトアルヘシ

文部省版權所有ノ圖書翻刻出版ニ關スル規定

文部省令第二十二號(明治二十七年八月十一日)

文部省版權所有ノ圖書ノ翻刻出版ニ關シ規定スルコト左ノ如シ

第一條 文部省版權所有ノ圖書ハ其ノ種類ニ依リ明治二十七年十二月十一日以後此ノ省令ノ規定ニ依リ廣ク翻刻出版ヲ許可スヘシ但翻刻出版ヲ許



可スヘキ圖書ノ名目ハ官報ヲ以テ公告スヘシ

第二條 翻刻出版ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ其圖書ノ名目及翻刻出版シテ發賣スヘキ定價ヲ具シ文部大臣ニ願出ヘシ

前項及法ノ他此ノ省令ノ條項ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

第三條 翻刻出版ノ圖書ハ紙質脆弱又ハ粗惡ナルヘカラス印刷鮮明ニシテ製本堅固ナルヲ要ス

第四條 翻刻出版ノ圖書ハ文字ノ大小字體圖畫冊數枚數及每行ノ字數ハ原本ト異ナルヘカラス但圖書ノ種類又ハ部分ニ依リ本文ノ制限ニ依ラサントスルトキハ見本ヲ添ヘテ際々文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 翻刻出版ノ圖書ハ每冊ニ翻刻出版許可ノ年月日ヲ明記スヘシ

第六條 翻刻出版ノ許可ヲ得タル後定價ヲ變更セントスルトキハ際々文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 翻刻出版ノ圖書ハ見本三部ヲ文部省ニ差出シ検査ヲ受クヘシ其ノ検査ヲ經タル後ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス改版シタルトキモ亦同シ

第八條 翻刻出版ノ許可ヲ得タル後三箇月ヲ經テ出版セサルトキハ翻刻出版許可ノ效ヲ失フ

第九條 翻刻出版者ニ於テ定價ヲ超エタル價格ヲ以テ其ノ圖書ヲ發賣シ又ハ文部省ノ検査ヲ經タル見本ト異ナルモノヲ發行シ其ノ他前條ノ規定ニ背クトキハ文部大臣ハ何時ニテモ翻刻出版ノ許可ヲ取消スヘシ

第十條 前條ニ依ルノ外文部大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ翻刻出版者ヲシテ特ニ契約書ヲ差出サシメ相當ノ保證金ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第十一條 地方長官ハ其ノ管内ニ行ハル、翻刻出版ノ圖書ヲ監視シ若シ此ノ省令ノ規定ニ背クモノアルトキハ文部大臣ニ報告スヘシ

第十二章 學校ノ認定、指定

公立私立學校認定ニ關スル規則

文部省令第三十四號(明治三十二年六月二十八日)

(沿革) 明治三十四年三月文部省令第五號、三十八年八月同第三〇號、三十七年三月同第一號、四〇年十一月同第三三號、四三年六月同第一五號、大正二年三月同第七號、同年八月同第二五號改正

公立私立學校認定ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ  
公立私立學校認定ニ關スル規則

第一條 公立私立學校ニシテ徵兵令第十三條又ハ文官任用令第六條ニ關シ中學校ト同等以上トシテ文部大臣ノ認定ヲ受ケントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理者、私立學校ニ在リテハ其設立者ニ於テ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ申請スヘシ但特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ開申シ若クハ其認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

- 一 名稱
- 二 位置
- 三 學校ノ沿革
- 四 學則
- 五 學校長、學校長ナキトキハ其設立者ノ履歷
- 六 教員ノ氏名、資格、學業經歷分擔學科及專任兼任ノ區別
- 七 生徒定員、現在生徒學年及學級別員數
- 八 卒業生ノ員數及卒業後ノ情況
- 九 校地、校舍及寄宿舎ノ圖面
- 十 經費及維持ノ方法
- 十一 教科書目錄
- 十二 教科用器具、器械及標本目錄



第十二章 學校ノ認定、指定

特別ノ規定アル場合ヲ除外學則ニ規定スヘキ事項ニ關シテハ中學校令施行規則第五十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二條 前條ノ申請ニ基キ文部大臣ニ於テ認定ヲ爲スヘキ學校ハ其管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具ヘ左號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一 專門學校(別科ヲ除ク)及實業專門學校(別科ヲ除ク)ニ在リテハ其ノ入學者ハ中學校ヲ卒業シタル者、專門學校令第五條ノ檢定ニ合格シタル者、又ハ當該學校ノ豫科ヲ修了シタル者タルコト

二 實業學校ニ在リテハ甲種實業學校若ハ之ト同等以上ノ學科程度ヲ具ヘ修業年限三箇年以上ノモノ

三 其ノ他ノ學校ニ在リテハ其ノ學科程度、入學規則、編制及設備等中學校ノ規定ニ準スルモノ

前項第三號ノ學校ニ在リテハ其ノ教員全數ノ三分ノ一以上ハ專任タルヘク且中學校ノ程度ニ準シ中學校ト同種ノ學科目ヲ教授スル教員ニ就キテハ中學校ノ教員免許狀ヲ有セサル者ノ數之ヲ有スル者ノ數ヲ超過スルヲ得ス

專門學校及實業專門學校ニ於テ中學校ト同等程度ノ豫科ヲ置キタル場合ハ前項ノ要件ニ適合スルモノタルヘシ

第三條 文部大臣又ハ地方長官ハ必要ト認メタルトキハ主務官吏ヲシテ認定ヲ受ケタル學校ノ入學試験ニ立會ハシメ又ハ入學試験問題及其答按ヲ査閲セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ試験ノ問題又ハ方法中不適當ト認メタルモノアルトキハ當該官吏ハ其變更ヲ命スルコトヲ得

第四條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ名稱、位置、學則、生徒定員、校地、校舍及學校維持ノ方法ヲ變更セントスルトキ若ハ特別ノ事情ニ依リ第二條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ難キトキハ公立學校ニ在リテハ其管理

●文官任用令上學校認定ニ關スル件

文部省令第二號(大正四年二月八日)

文官任用令上學校認定ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 大正三年十二月一日以前ニ於テ徵兵令ニ依リ認定ヲ受ケタル學校ニシテ未タ文官任用令ニ依リ認定ヲ受ケサルモノハ本令施行ノ日ニ於テ文官任用令ニ依リ之ヲ認定ス

前項ニ依リ認定ノ效力ハ徵兵令ニ依リ認定ヲ受ケタル時ニ遡ル

第二條 大正三年十二月一日以前ニ於テ文官任用令ニ依リ認定ヲ受ケタル學校ニシテ其ノ認定前既ニ徵兵令ニ依リ認定ヲ受ケタルモノニ在リテハ文官任用令ニ依リ認定ノ效力ハ徵兵令ニ依リ認定ヲ受ケタル時ニ遡ル

第三條 前二條ニ依リ認定ノ效力ハ徵兵令ニ依リ認定ニ於テ除外シタルモノニ及ハス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

者私立學校ニ在リテハ其設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但特別ノ規定ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ又ハ文部大臣ニ届出ツヘキ事項ニ關シテハ各々其規定ニ依ルヘシ

設立者變更ノ場合ニ於テモ前項ノ規定ニ依ルヘシ

第五條 中學校令施行規則第三十四條、第三十九條第二項、第四十八條、第五十一條及第五十二條ノ規定ハ認定ヲ受ケタル學校ニ關シ之ヲ準用ス

第六條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ第二條ノ規定ニ該當セサル生徒ヲ入學セシムルトキハ其生徒ニ特別ノ名稱ヲ附シ且其學籍簿ヲ別冊トナスヘシ但認定ノ效力ハ本文ノ生徒ニ及ハス

前項ノ生徒ニ關シテハ第五條ノ表簿ヲ便宜省略スルコトヲ得

第七條 (削除)

第八條 認定ヲ受ケタル學校ニシテ此規則ニ違背シ又ハ其成績不長ナリト認メタルトキハ文部大臣ハ將來ニ向テ其認定ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 此規則ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルヲ要ス

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ其書類及實況ヲ精査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

附則

第十條 本令ハ明治三十二年七月十五日ヨリ施行ス

第十一條 明治二十六年文部省令第十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 本令施行前ニ爲シタル認定ハ尙其效力ヲ有ス但本令ニ牴觸スル事項アルトキハ當該學校ニ於テ本令施行ノ日ヨリ六箇月内ニ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ修正スヘシ

○明治四十三年文部省令第十五號附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ既ニ認定ヲ受ケタル學校ニ對シテモ之ヲ適用ス











私立

加ス三十七年四月告示第七十二號ヲ以テ三十三年告示第百八十三號中但書ヲ「但シ認定ノ效力ハ特科生、振修科生、補習科生、聴講生、外國語専修部生ニ及ハス」ト改ム三十九年一月告示第十號ヲ以テ認定ノ效力ハ大學部商科附屬殖民科生ニ及ハス」ヲ加フ四十年四月告示第百五號ヲ以テ認定ノ效力ハ專門科附屬科生ニ及ハス」ヲ加フ

元淨土宗高等學院 但シ認定ノ效力ハ高等正科第二部生ニ及ハス又三十四年九月以後入學ニ一及高等學科生ニ一ヲ加フ

△元私立淨土宗教大學院 三十七年五月告示第百七號ヲ以テ淨土宗高等學院ヲ改稱京都市教大學院專修部ト稱スル分設ヲ設置ス又同年同月告示第百八號ヲ以テ但シ認定ノ效力ハ豫科生及別科生ニ及ハス」ト改ム

△元私立淨土宗大學 三十七年十月告示第百八十八號ヲ以テ私立淨土宗教大學院ヲ改稱京都市專門科一東京市芝區ニ設置セル私立淨土宗教大學院專門科ヲ一私立淨土宗大學士宗大學部道部ト改稱三十八年三月私立淨土宗教大學院專門科ヲ廢止

△私立宗教大學 四十年三月告示第百八號ヲ以テ三十七年告示第百八號中「豫科生」ヲ創ル四十五年五月告示第百四十六號ヲ以テ但シ認定ノ效力ハ豫科第二部生ニ及ハス」ト加フ

元私立國學院 但シ認定ノ效力ハ普通本科生及普通預科生ニ及ハス三十四年十一月告示第百九十一號ヲ以テ但書中「研究科」種生ニ及ハス」ト追加三十七年四月告示第九十九號ヲ以テ三十四年告示第二種中但書ヲ「但シ認定ノ效力ハ研究科乙種生、師範部國語漢文歴史科乙種生、專修部乙種生」ニ改ム

△私立國學院大學 三十九年六月告示第百三十五號ヲ以テ國學院ヲ改稱四十年九月告示第百五十三號ヲ以テ認定ノ效力ハ乙種生及預科生ニ及ハス」ト加フ

元臺灣協會專門學校 三十七年二月告示第三十三號ヲ以テ臺灣協會專門學校ト爲ス

△元私立臺灣協會專門學校 三十七年四月告示第百二十一號ヲ以テ臺灣協會專門學校ト爲ス

△私立東洋協會專門學校 四十年二月告示第百二十一號ヲ以テ東洋協會專門學校ト爲ス

私立曉星中學校 協會專門學校ト改稱

私立青山學院中等科

私立青山學院高等科 但シ認定ノ效力ハ乙種生ニ及ハス三十七年二月告示第百三十一號ヲ以テ認定ノ效力ハ豫科第二種生及別科生ニ及ハス」ト加フ

△私立青山學院神學科 但シ認定ノ效力ハ別科生及聴講生ニ及ハス四十五年五月告示第百五十九號ヲ以テ神學部ヲ改稱同月告示第百五十九號ヲ以テ「但シ認定ノ效力ハ研究科生ニ及ハス」ト加フ

元私立佛敎高等中學 但シ認定ノ效力ハ第二部生ニ及ハス三十四年四月以後入學シタル生徒ニ限リ效力ヲ有スルモノトス三十五年五月「私立高輪佛敎大學」ト爲ス

△元私立高輪佛敎大學 三十五年五月告示第百六十一號ヲ以テ三十七年三月十五日限廢止

私立大倉商業學校本科

元新鶴眞言宗豐山派高等中學林 三十六年十一月告示第百二十二號

△私立豐山中學校 宗豐山派高等中學林ト改稱

私立東京開成中學校

私立高輪中學校 「私立佛敎中學」ヲ三十五年五月ヨリ「私立第一佛敎中學」ト改稱三十九年四月ヨリ組織ヲ變更シテ中學校令ニ依リ改稱

私立早稲田實業學校 四十五年三月告示第七十九號ヲ以テ「但シ認定ノ效力ハ夜學部生ニ及ハス」ト加フ

私立京華商業學校 初「私立京華商業學校本科」ニ對シテ認定三十七年告示第百六十九號ヲ以テ「本科」ノ二字ヲ削ル

私立東京慈惠會醫院醫學專門學校 三十六年十月告示第百八十七號但書追加「但シ認定ノ效力ハ東京慈惠會醫院」ヲ改稱

△私立東京農業大學 四十一年二月告示第四十一號ヲ以テ「大日本農會附屬私立東京高等農學校」ヲ改稱四十四年十一月十六日告示第百五十四號ヲ以テ認定ノ效力ハ選科生及聴講生ニ及ハス」ト加フ

私立曹洞宗第一中學校 但シ認定ノ效力ハ三十六年十二月十日以前ニ入學シタル生徒ニ及ハス

三四	九	二一	一七三
三四	六	二八	一三七
三四	一一	一八	二一〇
三四	一一	二九	二二四
三五	二	一九	二一
三五	三	二七	五七
三五	八	二	一三七
三六	八	一五	一四一
三六	一一	一一	二一八
三六	一一	二二	二三四
三六	一一	二二	二四四
三六	一一	二二	二四四



私立天台宗中學	但シ認定ノ效力ハ三十九年十一月二十六日ヨリ「天台宗東部中學」ヲ改稱	三六	一一	二二六
私立天台宗大學	但シ認定ノ效力ハ三十九年十一月二十六日ヨリ「天台宗東部中學」ヲ改稱	三七	六	一一二七
私立日蓮宗大學	初「日蓮宗大學林事門科、高等科、中學校」ニ對シテ認定但シ認定ノ效力同年同月告示第百八號ヲ以テ「認定ノ效力ハ研究院生及別科生ニ及ハス」ト改ム	三七	六	一一二八
私立曹洞宗大學	但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十八年一月「曹洞宗大學林」ヲ改稱	三七	六	一一二九
元東洋商業專門學校	但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十八年一月「曹洞宗大學林」ヲ改稱	三七	七	一一五六
私立中央商業學校	但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十八年一月「曹洞宗大學林」ヲ改稱	三七	八	一一五六
私立順天中學校	但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十八年三月卒業スヘキ生徒	三八	一	一一九
私立麻布歐醫畜産學校	但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十八年三月卒業スヘキ生徒	三八	一	一一九
私立聖門學校東京三一神學校	但シ認定ノ效力ハ別科生及傍聽生ニ及ハス三十九年八月「私立東京三一神學校」ヲ改稱ス	三八	三	一〇四
元淨土宗第一教區宗教學校	但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十九年四月ヨリ移轉セシム	三九	三	一一四
△私立芝中學校	淨土宗第一教區宗教學校ニ對スル認定	三九	三	一一四
△私立聖公會神學院	但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十九年四月ヨリ移轉セシム	三九	三	一一四
△私立聖公會神學院	以テ「別科生」ヲ「撰科生」ト改ム四十四年七月「私立聖公會神學院」ヲ改稱	三九	一〇	一一八
私立立教學院立教大學	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス四十一年十一月告示第百二十五號ヲ以テ但シ認定ノ效力ハ撰科生及第二種生ニ及ハス	四一	三	七三
私立明治學院神學部	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四一	五	一六一
私立慶應義塾商工學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四一	二	二〇六
私立聖學院中學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四〇	〇	二六七
私立東京齒科醫學專門學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四〇	〇	二六七

私立日本體育會在原中學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四〇	一	二七八
私立海城中學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四〇	一	二七八
私立豐山大學	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四一	四	一五三
私立錦城商業學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四二	二	一六一
私立東洋商業學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四二	二	一六一
私立東京歐醫學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四二	二	一六一
私立日本齒科醫學專門學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四二	二	一六一
私立北實業學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四二	二	一六一
私立白中學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四二	二	一六一
私立日本濟美學校中學部	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四二	二	一六一
私立日本體育會體操學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四二	二	一六一
私立高千穂中學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四四	九	一一六
私立日本歐醫學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四四	九	一一六
私立東京神學社神學專門學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四四	九	一一六
私立日本醫學專門學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四四	九	一一六
私立上智大學	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四四	九	一一六
私立明治大學附屬明治中學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	四四	九	一一六
京都府立醫學專門學校	京都府立醫學專門學校「改稱」四十年三月告示第百九十八號ヲ以テ「認定ノ效力ハ研究生ニ及ハス」ト加フ	四四	九	一一六
京都府立農林學校	三十四年四月以後ノ入學生ニ限ル三十四年二月告示第百二十九號ヲ以テ「認定ノ效力ハ研究生ニ及ハス」ト加フ	四四	九	一一六
京都市立第一商業學校	三十四年四月府立「京都府商業學校」ニ變更改稱四十二年三月告示第百二十九號ヲ以テ「認定ノ效力ハ研究生ニ及ハス」ト加フ	四四	九	一一六
京都市立美術工業學校	二十三年五月府立「京都府美術學校」ヲ市立ニ變更認定「京都市立美術工業學校」ト改稱同年告示第百二十九號ヲ以テ認定ノ效力繼續二十四年八月	四四	九	一一六















第十二章 學校ノ認定、指定

立 元嶽島郡立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十七年三月限廢止

立 栃木縣中學校元農業專修科 三十二年三月

立 栃木縣立工業學校(別科ヲ)

立 栃木縣立農學校本科

立 栃木縣立商業學校

立 栃木縣下都賀郡立栃木農學校

立 私立下野中學校

立 私立鳥山中學校

立 奈良縣立工業學校 初「本科」ニ對シテ認定三十八年告示第四十七號ヲ以テ

立 奈良縣立農林學校 三十八年告示第四十八號ヲ以テ但シ認定ノ效力ハ別科ニ及ハスヲ加フ

立 私立中學文武館

立 私立天理中學校

立 三重縣立工業學校

立 三重縣立四日市商業學校 初「本科」ニ對シテ認定三十七年四月告示第七十五號ヲ以テ「四日市」本

立 立商業學校 同前年四月

立 三重縣立農林學校 初「別科」ニ對シテ認定但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハスヲ加フ

立 三重縣立鳥羽商船學校 但シ認定ノ效力ハ專修科生ニ及ハス

立 元神宮皇學館(本) 元(理科) 三十二年五月告示第三十

立 私立眞宗勸學院 初「愛知縣立醫學專門學校」ニ對シテ認定三十六年七月告示第百三十七號ヲ以テ認定

立 愛知縣立工業學校 四十年三月告示第六十一號ヲ以テ認定

立 愛知縣立農林學校 三十九年三月告示第五十九號ヲ以テ認定

立 愛知縣立農林學校 三十九年三月告示第五十九號ヲ以テ認定

立 市立名古屋商業學校 二十三年四月

立 元豐橋中學時習館 三十二年四月

立 私立明倫中學校

立 私立曹洞宗第三中學校 前ニ入學シタル生徒ニ及ハス

立 私立豐橋商業學校

立 元私立第四區區宗學教校 但シ現ニ在學セル第四、第五年生ニ及ハ

立 私立東海中學校

立 私立名古屋中學校

立 私立尾張中學校 但シ認定ノ效力ハ現ニ在學セ

立 靜岡縣立農學校 本科 三十三年四月組合立靜岡縣中

立 元龍山尋常中學校 三十二年七月組合立ニ變更改稱

立 靜岡縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科

立 靜岡縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科

立 靜岡縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科

立 靜岡縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科

立 靜岡縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科

立 靜岡縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科

立 靜岡縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科

立 靜岡縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科

立 靜岡縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科

立 靜岡縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科

立 靜岡縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科

立 靜岡縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科

第十二章 學校ノ認定、指定

愛知縣 市 立 愛知縣立工業學校 四十年三月告示第六十一號ヲ以テ認定

Table with 3 columns of numbers: 36, 35, 34, 33, 32, 31, 30, 29, 28, 27, 26, 25, 24, 23, 22, 21, 20, 19, 18, 17, 16, 15, 14, 13, 12, 11, 10, 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1



山梨縣

山梨縣立農林學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十九年六月山梨縣立山梨農林學校ヲ改稱  
 元山梨縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年十一月「郡立南都留學堂」ヲ改稱三十八年四月ヨリ  
 月更ニ改稱四十二年四月ヨリ「山梨縣工業學校」ト改稱三十九年六月  
 郡立山梨農林學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス  
 市立甲府商業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十八年告示第四十六號ヲ以テ専修科ヲ速成科ニ改ム

滋賀縣

滋賀縣立八幡商業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス  
 滋賀縣立長濱農學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス  
 滋賀縣立水口農林學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス

岐阜縣

私立天台宗尋常中學校 但シ現在第四學年第五學年  
 岐阜縣立農林學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス  
 岐阜市立岐阜商業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス  
 大垣市立大垣商業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス

長野縣

長野縣立上伊那農業學校 三十五年告示第百十九號ヲ以テ「正科」ヲ創リ但書「但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス」ト追加三十七年二月告示第二十  
 一號ヲ以テ「長野縣立上伊那農業學校」ヲ改稱  
 四月十一號「長野縣立上伊那農業學校」ヲ改稱  
 長野縣立小縣農業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス又三十四年四月ヨリ郡立ニ變更改稱四十四年十一月「長野縣立小縣農業學校」ヲ改稱  
 長野縣立水谷山林學校 三十九年四月ヨリ「郡立水谷山林學校」ヲ設立ニ變更改稱  
 元山梨縣立水谷山林學校 三十九年四月ヨリ「郡立水谷山林學校」ヲ設立ニ變更改稱

宮城縣

市立長野商業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 私立本校商業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 宮城縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 宮城縣立水產學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 宮城縣立小牛田農林學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 元郡立遠田郡甲種農學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 元刈田郡立刈田中學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 元宮城縣郡立牡鹿水產學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 元宮城縣郡立立石中學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 元宮城縣郡立立石中學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 元宮城縣郡立立石中學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱

福島縣

市立仙臺商業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 私立東北學院普通科 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 私立東北學院專門部 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 私立東北學院專門部 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 私立曹洞宗第二中學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 福島縣立農業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 福島縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 私立石川中學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月改稱

巖手縣

巖手縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年六月改稱三十五年  
 巖手縣立水產學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年六月改稱三十五年  
 巖手縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年六月改稱三十五年  
 巖手縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年六月改稱三十五年



青森縣

青森縣立海産學校 初「青森縣農學校農學科、獸醫學科」ニ對シテ認  
 定三十四年四月ヨリ改稱「農科、海産科」ト改ム  
 青森縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ「木工  
 科及漆工科」ニ及ハス  
 青森縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ「別科生」ニ及ハス  
 元青森縣南津輕郡立農學校 四十二年四月ヨリ縣立ニ變更改稱  
 元弘前市立弘前中學東奥義塾 四十二年四月ヨリ縣立ニ變更改稱  
 森縣立弘前中學東奥義塾ト爲ル

山形縣

山形縣中學校元農業專修科 三十三年  
 三月廢止  
 山形縣立工業學校本科 三十一年四月  
 市立米澤市工業學校ヲ縣立ニ變更改稱三十二年三  
 月告示第四十二號ヲ以テ「本科」トアルヲ「本科及專攻科」ニ改ム  
 山形縣立村山農學校 三十四年三月  
 縣立ニ變更改稱  
 山形縣立庄内農學校 但シ認定ノ效力ハ農科  
 限ル  
 山形縣立置賜農學校 但シ認定ノ效力ハ  
 農科、蠶科ニ限ル  
 元山形縣西村山郡立西村山中學校 四十一年  
 十月廢止

秋田縣

秋田縣中學校元農業專修科 二十七年  
 四月廢止  
 秋田縣立秋田農學校 初「本科」ニ對シテ認定三十八年三月告示第六十號ヲ以テ校名ノ  
 下「本科」ヲ削リ「認定ノ效力ハ養蠶別科生ニ及ハス」ヲ加フ  
 秋田縣立工業學校 別科生ニ及ハス  
 福井縣立福井農學校 初「福井縣農學校本科」ニ對シテ認定三十六年四月告示第七十  
 號ヲ以テ「本科」トアルヲ「本科及補習科」ニ改ム四十二年三  
 月改稱

福井縣

福井縣立小濱水産學校 但シ認定ノ效力ハ別科生及三十五年度ニ入  
 學シタル第二學年、第三學年生ニ及ハス  
 福井市立福井商業學校  
 敦賀市立商業學校

石川縣

元私立第二傳教中學 四十三年四月ヨリ私  
 立北陸中學校ト爲ル  
 石川縣立工業學校 本科  
 石川縣立農學校 獸醫學科  
 石川縣立工業學校 補習科  
 石川縣立金澤商業學校 初「市立金澤商業學校」ニ對シテ  
 認定四十二年二月縣立ニ變更改稱  
 元大谷中學 二十六年  
 六月廢止  
 富山縣立工業學校 初「富山縣工業學校本科」ニ對シテ認定但シ認定ノ效力ハ別科生元速成  
 科生及元預科生ニ及ハス三十二年四月告示第七號ヲ以テ「本科」ノ二  
 字削除但書追加  
 富山縣立農學校 初「富山縣農學校本科」ニ對シテ認定但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三  
 十三年四月告示第三十四號ヲ以テ「本科」ノ二字削除但書追加三十四年  
 九月改稱

富山縣

富山縣立蠶業學校 但シ認定ノ效力ハ  
 富山縣立商船學校 專修生ニ及ハス  
 富山縣立藥學專門學校 但シ認定ノ效力ハ  
 市立富山商業學校 簡易科ニ及ハス  
 市立高岡商業學校 初「高岡甲種商業學校」ニ對シテ認定但シ認定  
 市立高岡商業學校ノ效力ハ專修科生ニ及ハス三十四年四月改稱  
 元富山縣射水郡新湊町立新湊甲種商船學校 但シ認定ノ效力ハ專修科ニ及  
 元鳥取縣農學校(獸醫學科)  
 元鳥取縣農學校 獸醫學科以上二校二十八九月簡易農  
 鳥取縣立農學校 三十四年三月鳥取縣農學校ヲ改稱三十五年五月告示第九十八號ヲ  
 鳥取縣立商業學校

第十二章 學校ノ認定、指定







和歌山縣

和歌山縣立農林學校 認定ノ效力ハ別  
 和歌山市立和歌山商業學校  
 私立耐久中學校 初「私立耐久學舎」ニ對シテ認定四十年十二月告示第二九二號ヲ以テ  
 私立古義眞言宗聯合高野中學林 認定ノ效力ハ明治四十一年一月一日ヨリ移轉  
 私立眞言宗聯合高野大學 認定ノ效力ハ別科  
 德島縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ別科ニ及ハス 四十四年三月二十一日告示  
 德島縣立農業學校 但シ認定ノ效力ハ別科ニ及ハス  
 德島縣立商業學校 認定ノ效力ハ別科ニ及ハス  
 元德島縣三好郡立三好農林學校 初「德島縣三好郡立三好農學校」ニ對シテ認定但シ認定ノ  
 四月ヨリ德島縣立農業  
 學校三好分校ト爲ル  
 德島縣板野郡立農業學校 但シ認定ノ效力ハ  
 別科ニ及ハス

德島縣

德島縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ別科ニ及ハス 四十四年三月二十一日告示  
 德島縣立農業學校 但シ認定ノ效力ハ別科ニ及ハス  
 德島縣立商業學校 認定ノ效力ハ別科ニ及ハス  
 元德島縣三好郡立三好農林學校 初「德島縣三好郡立三好農學校」ニ對シテ認定但シ認定ノ  
 四月ヨリ德島縣立農業  
 學校三好分校ト爲ル  
 德島縣板野郡立農業學校 但シ認定ノ效力ハ  
 別科ニ及ハス

香川縣

香川縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ別科ニ及ハス 三十三  
 香川縣立商業學校 但シ認定ノ效力ハ別科ニ及ハス  
 香川縣立農林學校 初「三豐郡立栗島航海學校」ニ對シテ認定但シ認定ノ效力ハ別科生  
 改ム三十九年四月ヨ  
 香川縣立農林學校 以テ認定ノ效力ハ養蠶別科生ニ及ハス  
 元市立高松商業學校 四月十五年  
 愛媛縣立農業學校 但シ認定ノ效力  
 愛媛縣立松山商業學校 三十九年四月ヨリ「愛媛  
 縣立商業學校」ヲ改稱

愛媛縣

愛媛縣立八幡濱商業學校 初「四市和郡立八幡濱商業學校」ニ對シテ  
 愛媛縣立引創商船學校 初「愛媛縣立引創商船學校」ニ對シテ認定四十年三月告示第五十七號ヲ  
 愛媛縣立宇摩郡立農林學校 認定ノ效力ハ別科ニ及ハス  
 愛媛縣立東宇和郡立農林學校  
 周桑郡立周桑農林學校  
 私立北原中學校

高知縣

高知縣立農林學校 初「高知縣立農學校本科」ニ對シテ認定三十六年三月告示第五十七號ヲ  
 四月  
 市立高知商業學校本科  
 高知縣立福岡工業學校 但シ認定ノ效力ハ  
 福岡縣立福岡農學校  
 元福岡縣立久留米工業學校 四十年三月三  
 福岡縣立小倉工業學校

福岡縣

元嘉穂郡立嘉穂中學校 四十年四月  
 久留米市立久留米商業學校 本科  
 福岡市立福岡商業學校 甲種商業科本科  
 私立三井工業學校  
 私立明治專門學校

大分縣

大分縣立農林學校 除ク  
 大分縣立農林學校ノ效力ハ養蠶別科ニ及ハスヲ加フ  
 大分縣南海部郡立佐伯中學校







私立醫學專門學校指定規則

文部省令第十二號(明治三十八年七月一日)
(沿革)明治三十九年一〇月文部省令第一六號、四〇年一二月同第三四號改正

私立醫學專門學校指定規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

私立醫學專門學校指定規則

第一條 私立醫學專門學校ニシテ醫師法第一條第一號ニ依リ文部大臣ノ指定ヲ受ケントスルトキハ其ノ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ既ニ文部大臣ニ開申シタル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 現在生徒ノ學年及學級別人員

二 卒業生ノ員數及卒業後ノ情況

三 教員ノ氏名、資格、擔當學科目及專任兼任ノ區別

四 教授用並實驗及實習用ノ器具、器械、標本及模型目錄

五 實習用患者ノ入院外來別現在人員並最近一箇年間各月ニ於ケル入院外來新來再來別日々平均人員

六 實習用解剖屍體ノ最近一箇年間實數

第二條 指定ヲ爲スヘキ學校ハ左ノ各號ニ該當シ文部大臣ニ於テ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ其ノ成績佳良ト認ムルモノニ限ル

一 生徒ノ定員ニ對シ相當ナル校地、校舍、校具、病院其ノ他ノ設備アルコト

二 必修學科目トシテ少クトモ解剖學、實習、生理學、病理學、藥物學、內科學、臨床講、外科學、臨床講、眼科學、臨床講、產科學、臨床講、衛生學、法醫學ヲ教授シ修業年限四箇年以上ナルコト

三 前條各學科目毎ニ少クトモ公立私立專門學校規程第七條第一項ノ實

二 前年中卒業生員數並卒業後ノ情況
第八條 指定學校ニシテ本令ニ違背シ若ハ第二條ノ要件ノ一ヲ失ヒ其ノ他成績不長ナリト認メタルトキハ文部大臣ハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 此ノ規則ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書類及實況ヲ精査シ意見ヲ付シテ進達スヘシ

○明治四十年文部省令第三十四號附則
明治十六年十月第三十五號布告醫師免許規則第三條ニ依リ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校ハ醫師法第一條第一號ニ依リ指定シタルモノト看做ス

公立私立齒科醫學學校指定規則

文部省令第十七號(明治三十九年十月三十日)

(沿革)明治四〇年三月文部省令第五號改正

公立私立齒科醫學學校指定規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

公立私立齒科醫學學校指定規則

第一條 公立私立齒科醫學學校ニシテ齒科醫師法第一條第一號ニ依リ文部大臣ノ指定ヲ受ケントスルトキハ其ノ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニヨリ既ニ文部大臣ニ開申シタル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 學校ノ沿革

二 位置

三 學則

四 教員ノ氏名、資格、學業經歷、擔當學科目及專任兼任ノ區別

第十二章 學校ノ認定、指定

格ヲ有スル教員一人ヲ採用セルコト

四 專門學校トシテ認可ヲ受ケタル學則ヲ實施シタル後二箇年ヲ經過シタルコト

五 實習用患者ノ數ハ每學年ノ平均生徒數(本科生共)百人以内ノ學校ニ於テハ入院患者二十五人以上外來患者三十人以上トシ以上生徒十人ヲ増ス毎ニ入院患者外來患者各二人ヲ増スコト

六 實習用解剖屍體ノ數ハ每學年ノ平均生徒數(本科生共)百人以内ノ學校ニ於テハ毎年二十體以上トシ以上生徒十人ヲ増ス毎ニ一體ヲ増スコト

第三條 指定學校ニ於テ別科生等ヲ入學セシムルトキハ其ノ學籍簿ヲ別冊トナスヘシ

指定ノ效力ハ前項ノ生徒ニ及ハス

第四條 指定學校ニ於テハ學則所定ノ授業時數中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及フ生徒ハ進級若ハ卒業セシムルコトヲ得ス

第五條 指定學校ニ於テ學年試驗若ハ卒業試驗ヲ施行セントスルトキハ三十日前ニ文部大臣ニ開申スヘシ

第六條 文部大臣ハ醫術開業試驗委員若ハ其ノ他ノ吏員ヲシテ試驗ニ立會ハシムルコトアルヘシ

前項委員若ハ其ノ他ノ吏員ニ於テ試驗問題若ハ試驗ノ方法不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更シ若ハ變更セシムルコトアルヘシ

第六條ノ二 指定學校ハ本科ノ卒業試驗合格者ノ旗籍、氏名、生年月及各學科目點數ヲ具シ試験後遲滞ナク文部大臣ニ開申スヘシ

第七條 指定學校ハ毎年六月三十日ノ調査ニ依リ翌月中ニ第一條第一號第三號第五號第六號並左ニ掲グル事項ヲ具シ文部大臣ニ申報スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ申報スヘキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 當該年度經費決算ノ細目

五 生徒定員、現在生徒學年及學級別員數

六 卒業生ノ員數及卒業後ノ情況

七 校地校舍ノ圖面並其ノ所有ノ區別

八 經費及維持ノ方法

九 教授用並實習用ノ器具、器械、標本及模型目錄

十 最近一箇年間各月ニ於ケル實習用患者日々平均人員

第二條 指定ヲ爲スヘキ學校ハ左ノ各號ニ該當シ文部大臣ニ於テ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ其ノ成績佳良ト認ムルモノニ限ル

一 生徒ノ定員ニ對シ相當ナル教室、圖書室、標本室、藥品室、器械室、實習室其ノ他ノ設備アルコト

二 本科生徒ノ入學資格ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ專門學校入學者檢定期程ニ依リ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラルル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムルコト

三 必修學科目トシテ少クトモ(一)解剖學(二)生理學(三)病理學總論、診斷學大意(四)藥物學(五)細菌學(六)外科學總論(七)齒科學ヲ教授シ修業年限三箇年以上ナルコト

四 齒科學ノ科目ハ少クトモ(一)齒科病理學(二)口腔外科學(三)齒科治療學(實習及臨床)齒科技工學(實習)(五)矯正齒科學(實習)ヲ備フルコト

五 第三號ノ各學科目ニ對シ公立私立專門學校規程第七條第一項ノ資格ヲ有スル教員齒科學ニ少クトモ三人其ノ他ノ各學科目毎ニ少クトモ一人ヲ採用セルコト

六 開校以後二箇年以上ヲ經過シタルコト

七 實習用患者ノ數ハ每學年ノ平均生徒數(本科生共)五十人以上ノ學校ニ於テハ外來患者二十人以上トシ以上生徒十人ヲ増ス毎ニ外來患者四人ヲ増スコト



第十二章 學校ノ認定、指定

第三條 指定學校ニ於テ名稱、位置、學則、生徒定員、校地、校舍ヲ變更セントスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 公立私立專門學校規程第六條、第十二條及第十三條並私立醫學專門學校指定規程第三條乃至第六條及第八條ノ規定ハ指定ヲ受ケタル醫科醫學科ニ關シテ之ヲ準用ス

第五條 指定學校ハ本科ノ卒業試驗合格者ノ族籍、氏名、生年月及各學科目點數ヲ具シ試驗後運送ナク文部大臣ニ開申スヘシ

第六條 指定學校ハ毎年六月三十日ノ調査ニ依リ翌月中ニ第一條第四號、第九條第十號並左ニ掲ケル事項ヲ具シ文部大臣ニ開申スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ開申スヘキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 現在生徒學年及學級別員數

二 當該學年ニ於ケル入學生徒數

三 當該年度經費豫算ノ細目

前項第一號及第二號ニ規定セル事項ハ指定ノ效力ヲ享ケルモノト享ケサルモノトニ區別シテ記載スヘシ

第七條 此ノ規則ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書類及實況ヲ精査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

●私立藥學專門學校指定規則

文部省令第十九號(明治四十三年七月一日)

私立藥學專門學校指定規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 私立藥學專門學校ニシテ藥品製造藥品取扱規則第四十六條第一

項ニ依リ文部大臣ノ指定ヲ受ケントスルトキハ其ノ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ既ニ文部大臣ニ開申シタル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 現在生徒ノ學年及學級別人員

二 卒業生ノ員數及卒業後ノ情況

三 教授用實驗及實習用ノ器具、器械、標本ノ目錄

四 教授ヲ爲スヘキ學校ハ左ノ各號ニ該當シ文部大臣ニ於テ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ其ノ成績優良ト認ムルモノニ限ル

一 生徒ノ定員ニ對シ相當ナル教室、圖書室、標本室、藥品室、製煉室、器械室、實驗室、實習室、其ノ他ノ設備アルコト

二 必修科目トシテ少クトモ(一)外國語英語又ハ(二)化學理論及(三)植物學(四)藥用植物學(五)分析學(六)衛生化學(七)細菌學(八)裁判化學(九)生藥學(十)藥局方(十一)調劑學(十二)製藥化學(十三)藥品鑑定實習ヲ要ス

三 前號各學科目毎ニ少クトモ公立私立專門學校規程第七條第一項ノ資格ヲ有スル教員一人ヲ採用セルコト

四 專門學校トシテ認可ヲ受ケタル學則ヲ實施シタル後二箇年ヲ經過シタルコト

第三條 指定學校ニ於テ別科生等ヲ入學セシムルトキハ其ノ學籍簿ヲ別冊トナスヘシ

第四條 指定學校ニ於テハ學則所定ノ授業日數中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及ブ生徒ハ進級若クハ卒業セシムルコトヲ得ス

第五條 指定學校ニ於テ學年試驗若クハ卒業試驗ヲ施行セントスルトキハ

第一條 在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ在外指定學校職員選任料及遣送扶助料法第一條ニ關シ指定ヲ受ケントスルトキハ學校ノ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ外務文部兩大臣ニ申請スヘシ

一 學校ノ名稱

二 學校ノ沿革

三 學則

四 職員ノ氏名及其ノ履歷書

五 現在生徒學年別及學級別人員

六 校地校舍及附屬舍等ノ平面圖

七 經費及維持ノ方法

前項第一號第三號ノ變更ハ外務文部兩大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 學則ニ規定スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一 修業年限、學年、學期、休日ニ關スル事項

二 學科課程教授時數ニ關スル事項

三 生徒ノ入學、退學、課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四 授業料入學料等ヲ徵收スルトキハ之ニ關スル事項

五 寄宿舍ヲ設ケタルトキハ之ニ關スル事項

第三條 第一條ノ申請ニ基キ外務文部兩大臣ニ於テ指定ヲ爲スヘキ學校ハ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具フルモノニ限ル

第四條 第一條ニ依リ指定セラレタル學校ヲ廢止セントスルトキハ其ノ事由並ニ生徒ノ處分方法ヲ具シ外務文部兩大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 小學校ノ教科ヲ授ケル在外指定學校ノ訓導ニハ小學校ノ正教員タルヲ得ヘキ免狀ヲ有スル者ヲ採用スヘシ

●在外指定學校ニ關スル規程

文部省令第二十號(明治三十八年十一月八日)

(沿革)大正三年三月文部省令第六號改正

在外指定學校ニ關スル規程左ノ通相定ム

在外指定學校ニ關スル規程

第十二章 學校ノ認定、指定

三九八



第六條 中學校、高等女學校ノ教科ヲ授クル在外指定學校ノ教諭、助教諭

ニハ中學校ノ教員免許狀又ハ高等女學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ採川  
スヘシ但シ高等女學校ノ教科ヲ授クル學校ニ於テハ第二學年以下ノ教授  
ヲ擔任セシムル爲小學校本科正教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者ヲ採  
用スルコトヲ得

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ何等ノ名稱ヲ以テスルモ在外指定學  
校ノ職員ニ採用スルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限りノ處分ヲ  
受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサルモノ

三 懲戒ニ依リ免官若ハ免職ニ處セラレタル時二箇年ヲ經過セサル者

四 教員免許狀被奪ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經過セサル者

五 明治二十九年法律第八十號ニ依リ在留禁止ノ處分ヲ受ケタル者ニシ  
テ解禁後二箇年ヲ經過セサル者

六 性行不長ト認ムヘキ者

第八條 在外指定學校職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然其ノ  
職ヲ解カレタルモノトス

一 教員免許狀被奪ノ處分ヲ受ケタルトキ

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第九條 文官ト同一ノ待遇ヲ受ケサル在外指定學校職員ノ進退ニ關シテハ  
學校ノ管理者又ハ設立者ニ於テ所管領事官ノ認可ヲ受クヘシ但シ第十九  
條ノ命令ニ基キ解職スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル在外指定學校職員ニシテ左ノ各號ノ一  
ニ該當スルトキハ所管領事官ハ之ニ依リ職ヲ命スルコトヲ得但シ奏任文官  
ト同一ノ待遇ヲ受ケタル者ニ該當スルハ外務文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

其ノ解職ヲ命スルコトヲ得

第二十條 領事官ハ第十四條又ハ前條ニ依リ免職又ハ解職セラレタル者ア  
ルトキハ其ノ氏名、職名及事由ヲ具シ外務文部大臣ニ報告スヘシ但シ  
免職又ハ解職セラレタル者ニシテ教員免許狀ヲ有スルモノナルトキハ其  
ノ免許狀ノ寫ヲ添付スヘシ

第二十一條 在外指定學校職員ノ職務並ニ服務及俸給ニ關スル規程ハ所管  
領事官之ヲ定メ外務文部大臣ニ報告スヘシ

第二十二條 在外指定學校職員ノ旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ學校ノ  
管理者又ハ設立者之ヲ定メ所管領事官ニ報告スヘシ

第二十三條 在外指定學校ハ居留民團法ニ依ル監督ノ外所管領事官及外務  
文部大臣ノ監督ヲ受クヘキモノトス

第二十四條 在外指定學校ニシテ第三號ノ要件ヲ失ヒ又ハ學校ノ管理者又  
ハ設立者ニ於テ外務文部大臣又ハ所管領事官ノ爲ス命令ニ違背スルト  
キハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第二十五條 本令ニ依リ學校ノ管理者又ハ設立者ヨリ外務文部大臣ニ提  
出スヘキ書類ハ總テ所管領事官ヲ經由スヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

一 學校編制ノ變更事務ノ伸縮等ニ依リ其ノ人ヲ要セサルトキ

二 傷痍若ハ疾病ニ罹リ職務ヲ行フニ妨ケアルトキ

三 支那人ヲ教育スル爲ニ設置シタル學校ノ教員トナルトキ

四 刑事事件ニ關シテ告訴若ハ告發セラレタルトキ

第十一條 文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル在外指定學校職員ニシテ戰時又ハ事  
變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルトキハ當然休職者トス

第十二條 休職ノ期間ハ第十條第一號乃至第三號ノ場合ニ在リテハ一箇年  
トシ同條第四號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ第十一  
條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月トス但シ第十條第三號  
ノ場合ニ在リテハ所管領事官ハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

休職ノ期間滿チタルトキハ當然退職者トス

第十三條 休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレ又ハ全ク之ヲ受ケサ  
ルノ外總テ本職者ト異ルコトナシ

第十四條 文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル在外指定學校ノ職員ニシテ服務上ノ  
職務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚  
辱スルノ所爲アリタルトキハ所管領事官ハ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ罰  
責、減俸及免職トス

第十五條 懲戒ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ  
懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第十六條 文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル在外指定學校職員ニ對シ懲戒處分ヲ  
行フトキハ本人ニ處分書ヲ交付スヘシ

第十七條 減俸ハ一箇月以上一箇年以下俸給月額三分ノ一以下ヲ減ス

第十八條 第十四條乃至第十七條ノ規定ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル  
在外指定學校ノ職員ニハ之ヲ適用セス

第十九條 第十四條規定以外ノ在外指定學校ノ職員ニシテ同條ニ該當セル  
所爲アリト認メタルトキハ所管領事官ハ學校ノ管理者又ハ設立者ニ對シ



第十三章 學校衛生

●學校清潔方法

文部省訓令第一號、明治三十年一月十一日

北海道廳 府縣

學校ノ清潔ハ衛生上ニ至ルニ至ルニシテ、學校衛生顧問ニ諮詢シ、左ノ清潔方法ノ標準ヲ定ム。依テ各學校ヲシテ之ニ準據シ、其清潔ヲ保タシムルコトヲ務ムヘシ。

●學校清潔方法

清潔方法ヲ分チテ、日常清潔方法及定期清潔方法及浸水後清潔方法トス。

甲 日常清潔方法

- 一、教室及寄宿舎ハ毎日人ナキ時ニ於テ先ツ窓戸ヲ開キ、如露ヲ以テ少シク、林板及階段ヲ潤ホシ、掃出シタル後、濕布ヲ以テ、建具、校具等ヲ拭フヘシ。但掃除ノ爲メニ室内ヲ潤ホスハ生徒ノ再ヒ之ニ入ルマテニ充分乾燥シ了ルヲ度トスヘシ。
- 二、教室及寄宿舎ニハ其人員ニ應ジ紙屑、少量ノ水ヲ盛レル唾壺トシ、備ヘ片紙其他棄却物ハ必ス紙屑籠ニ投入シ、痰唾ハ必ス唾壺ニ於テシ、決シテ室内廊下等ニ放下セシムヘカラス。
- 三、寄宿舎内ニ於テハ戶外ニ於テ用キル履物ヲ禁スヘシ。但止ムヲ得サル事情アリテ特ニ之ヲ許ストキハ、適宜ノ方法ヲ設ケテ室内ノ不潔ニ陥ラサルコトヲ務ムヘシ。
- 四、履ノ塵屑、校舎ノ出入口ニハ人員ニ應ジ靴拭ヲ備フヘシ。
- 五、履具ハ毎月少クトモ一回之ヲ日光ニ曬シ、被覆履衣等ハ務メテ洗濯セシムヘシ。

ラス

室ハ掃除後五日間以上窓戸ヲ開キテ空氣及日光ヲ通セシムヘシ。  
十六、牀板、壁面等ニ虧隙アルモノハ此際之ヲ填塞シ、風抜穴、煙突等ノ塵煤ハ之ヲ除去スヘシ。

乙 浸水後清潔法

- 十七、浴室、洗面所、食堂、炊事場、生徒控所、雨中體操場、便所、下水、芥葉場等ニシテ破損アルモノハ此際盡ク修理ヲ加ヘ、且大掃除ヲ行フヘシ。
- 十八、洪水ノタメ水害ヲ被リタル學校ハ開校前左ノ清潔方法ヲ施行スヘシ。  
十九、水ニ浸サレタル校舎殊ニ寄宿舎ノ建具、牀板等ハ、取外シテ空氣ヲ通シ、且牀下ノ汚物泥土ヲ除去シ、場合ニ於テハ焚火、火鉢等ヲ用キテ充分ニ乾燥セシムヘシ。
- 二十、建具、牀板、校具、腰張等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以テ洗拭シタル後、可成之ヲ日光ニ曬シ、充分ニ乾燥セシムヘシ。
- 二十一、浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ必ス數回之ヲ浚滌シテ、汚物ヲ除キ、井戸側ハ清水ヲ以テ洗ヒ、能ク水ノ澄ミタル後ニ之ヲ使用スヘシ。但附校後一箇月間ハ必ス其水ヲ煮沸シテ飲用スヘシ。
- 二十二、右ノ外定期清潔方法ニ掲ケタル各項ヲ適宜應用スヘシ。

●學校傳染病豫防及消毒方法

文部省令第二十號(明治三十一年九月二十八日)

(沿革) 明治三十二年一月文部省令第四四號、三十九年六月同第一號、四年一月同第二號改正

學校傳染病豫防及消毒方法ヲ定ムルコト左ノ如シ  
學校傳染病豫防及消毒方法

第一條 豫防方法

學校ニ於テ特ニ豫防スヘキ傳染病ノ種類左ノ如シ

第十三章 學校衛生

- 六、便所ノ尿溝及注水等ハ毎日一回水ヲ以テ洗ヒ、便所ハ濕布ヲ以テ拭フヘシ。桶箱ニハ成ルヘク蓋ヲ設ケヘシ。
- 七、糞蓋内ニハ防臭藥トシテ粗製過錳酸加里、粗製格魯兒亞(以上百三) 硫磺、泥炭末、木炭末、乾燥土粉、灰等ヲ撒布シ、期ヲ短クシテ取ラシムヘシ。
- 八、食堂、炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ時々窓戸ヲ開キテ空氣ヲ通シ、惡臭、煙氣又ハ湯氣ノ體積ナキヲ務メ、且掃除ヲ怠ルヘカラス。殊ニ食堂ニ於テハ毎食前如露ヲ以テ牀面ヲ潤ホシ、食後ニハ濕布ヲ以テ其食卓ヲ拭フヘシ。
- 九、芥葉場ノ不潔物ハ期ヲ短クシテ搬送セシムヘシ。
- 十、下水ハ常ニ疏通セシメ、炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ノ下水ハ毎月少クトモ一回大掃除ヲ行フヘシ。
- 十一、庭園、體操場、遊藝場、簷下、樓下等モ亦常ニ清潔ヲ保タシムヘシ。
- 十二、定期清潔方法ハ、毎年少クトモ一回夏休又ハ其他ノ長休ニ際シ之ヲ行フモノトス。

乙 定期清潔方法

- 一、先ツ教室、寄宿舎内等ニ在ル机、腰掛、寢臺、戸欄等ヲ室外ニ出シ、戸、障子、窓懸等ヲ外シ、敷物ヲ割キタル後、如露ヲ以テ、牀板及廊下ヲ潤ホシ、天井、四壁、牀板、廊下等盡ク之ヲ掃ヒ、然ル後清水ヲ以テ洗拭スヘシ。但汚染殊ニ甚シキ部分及器具等ハ熱湯汁若クハ石鹼水ヲ以テ洗拭スヘシ。
- 二、簷下、牀下等モ手ノ届ク限リ之ヲ掃ヒ、外部ノ羽目及簷廻リハ龍吐水等ヲ以テ洗滌スヘシ。
- 三、履具、窓懸、敷物等ニシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ洗濯シ、其洗濯シ得ヘカラスモノハ先ツ其塵ヲ掃ヒ、書籍文具等ト共ニ數日之ヲ日光ニ曬シ、刷掃スヘシ。
- 四、器具等ハ、履具等ハ、靴等ニ於テハ、乾燥キタル後ニアラサレハ室内ニ持込ムヘカラス。

第一類

甲 痘毒及假痘 實布痘利亞 猩紅熱 發疹霍亂 傷寒 百日咳 麻疹 流行性感冒 流行性耳下腺炎 風疹 水痘 肺結核 癩病

第二類

赤痢 虎列刺 腸室扶斯 巴拉チフス

第三類

傳染性皮膚病 傳染性眼炎

第四類

第一條 第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒ハ昇校スルコトヲ得ス。

第二條

前項ノ職員生徒等其傳染病治癒シタル後昇校セントスルトキハ先ツ全身浴ヲ行ヒテ衣服ヲ更メ、且ツ醫師ニ於テ傳染ノ虞ナキコトヲ證明スルコトヲ要ス。

第三條

第一條 第一類乙又ハ第三類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒等ハ其病況ニ依リ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ、傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタルモノニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス。

第四條

職員生徒等ニシテ家族又ハ同居人中ニ第一類第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタル者アルトキ又ハ學校内ニ傳染病發生シタル場合ニ於テ其患者、屍體又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ觸接シタルトキハ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ、傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス。

第五條

教員會監等學校内ニ於テ第一條ノ傳染病者若クハ其疑アル者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ當該學校長ニ申告スヘシ。學校長ハ醫師ヲシテ診斷セシムル相當ノ處置ヲナスヘシ。

第六條

學校内、學校所在地及其近傍若クハ生徒通學區域内ニ於テ第一條ノ傳染病發生シタルトキハ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ全校若クハ



第十三章 學校衛生

其一部ヲ閉鎖スヘシ

第七條 學校所在地若クハ其近傍ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ明治三十年文部省訓令第一號ニ從ヒ充分ノ清潔方法ヲ施行スヘシ但第一條第二類ノ傳染病發生シタルトキハ校舍内ニ於テ使用スル飲料水ハ煮沸シタルモノヲ用フヘシ

第八條 生徒通學區域内ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ其局部ヨリ通學スル生徒ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得此場合ニ於テハ當該學校長ヨリ二十四時間以内ニ其旨ヲ管理者ニ届出ツヘシ

第九條 傳染病ノ爲ニ閉鎖シタル學校若クハ其舍室ハ再ヒ之ヲ使用スルニ先チ明治三十年文部省訓令第一號定期清潔方法ノ各項ヲ施行スヘシ

其二 消毒方法

第十條 學校ニ於テ第一條第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其屍體、排泄物又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ對シ左ノ區別ニ依リ消毒方法ヲ施行スヘシ但第一條第三類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適宜本條ノ消毒方法ヲ應用スヘシ

一 第一條第一類及第二類ノ傳染病患者ノ屍體、第一類ノ傳染病患者ノ用ヒタル唾壺、第二類ノ傳染病患者ノ上リタル廚房其他器、牀、疊、建具、敷蓋、器具等ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

二 第一條第二類ノ傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物ハ生石灰ヲ以テ消毒シ強亞爾加里反應ヲ呈スルニ至ルヘシ

三 食器、被服、寝具等ハ煮沸又ハ蒸汽消毒ニ附スヘシ

四 消毒困難ニシテ廉價ナルモノハ之ヲ焼却スヘシ

五 前各條ノ消毒ニ適セサルモノハ「フオルムアルデヒド」ニ依リ消毒スルカ又ハ別當シテ數日間日光ニ曝スヘシ

第十一條 消毒ニ供スル藥劑其他用ハ左ノ如シ

四〇四

一 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸五分鹽酸一分水九十

本品ハ屍體、吐瀉物其他ノ排泄物、器具、居室、手足等ノ消毒ニ用フ又衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘサルモノヲ用フヘシ

二 生石灰末 生石灰少量ノ水ヲ混キ崩壊セシメ本品ヲ以テ吐瀉物其他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ其分量ノ五十分ノ一ヲ用フヘシ又溝渠、芥溜、牀下等ヲ消毒スルニ用フ

三 格魯兒石灰水(二十倍) 格魯兒石灰五分ニ水九十

格魯兒石灰水ノ應用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スヘシ

四 「フオルムアルデヒド」 「フオルムアルデヒド」ニ依リ消毒スルニハ消毒劑又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付日本藥局方「フオルマリ」四十瓦以上ヲ噴霧スルカ又ハ適當ノ裝置ニ依リ「フオルムアルデヒド」瓦斯十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ但消毒劑又ハ室ハ使用前約十二時間寒冷ニ保持スルコトヲ要ス若シ室ニ罅隙アルトキハ昇水液中ニ浸漬セル綿ヲ以テ之ヲ栓塞スヘシ

種痘法

第十二條 此省令ハ幼稚園ニ適用ス

法律第三十五號(明治四十二年四月十四日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル種痘法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

種痘法

ケシムルコト能ハサル場合ニ於テハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ其ノ事由ヲ具シ市町村長ニ猶豫ヲ申請スルコトヲ得

第八條 市町村長ハ第一期種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルニ至リタル者ヲ戶籍吏ニ通知シ戶籍吏ハ戶籍簿ノ欄外ニ符號ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

第九條 市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケス其ノ他種痘ヲ怠リ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル未成年者アルトキハ市町村長ハ更ニ期日ヲ指定シテ種痘ヲ受ケシメ又ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第十條 種痘ヲ怠リタル者又ハ種痘ヲ受ケタル證據不明ナル者ノ定期外ニ受ケタル種痘ハ第一條第二項ノ場合ヲ除ク外其ノ定期種痘ト看做ス

第十一條 第五條ノ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ市町村長ノ指定シタル期日ニ於テ檢診ヲ受ケシムヘシ但シ其ノ期日ニ檢診ヲ受ケシムルコト能ハサル事由アルトキハ市町村長ニ届出ツヘシ

第十二條 醫師定期種痘ヲ施シタル者ヲ檢診シタルトキハ種痘證ヲ交付スヘシ

第十三條 醫師ハ其ノ診療ニ係ル痘瘡患者全治シタルトキ之ニ痘瘡經過證ヲ交付スヘシ

第十四條 當該吏員ノ請求アルトキハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ種痘證又ハ種痘證ヲ提示セシムヘシ但シ命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 地方長官ハ痘瘡預防上必要ト認ムルトキハ種痘ヲ受クヘキ者ノ

第十三章 學校衛生

前條第二項ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 市町村ハ種痘ヲ施行スヘシ

第六條 市町村長ハ種痘定期ニ在ル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ

第七條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リテ市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受

第一條 種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ但シ痘瘡ヲ經過シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 第一期 出生ヨリ翌年六月ニ至ル間但シ不善感ナルトキハ翌年六月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ

二 第二期 數ハ歳十歳但シ不善感ナルトキハ翌年十二月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ

定期前二年以内ニ善感シタル種痘ハ第二期ノ種痘ト看做ス

第二條 保護者ハ未成年者ヲシテ種痘ヲ受ケシムルノ義務ヲ負フ

第三條 左ニ掲クル者ハ未成年ノ生徒、院生若ハ之ニ準スヘキ者又ハ未成年ノ寄寓者ヲシテ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ

一 學校、育兒院又ハ之ニ準スヘキ場所ノ校長、院長其ノ他首長

二 教育、監護又ハ備使ノ目的ヲ以テ人ヲ寄寓セシムル者

前項各條ニ掲クル者ノ法定代理人アルトキハ法定代理人ニ前項ノ規定ヲ適用ス

第四條 新ニ保護者ト爲リ又ハ新ニ關係ヲ生シタルトキハ種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル未成年者ヲシテ六月以内ニ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ



範圍及期日ヲ指定シテ臨時種痘ヲ命スルコトヲ得

臨時種痘ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十六條 醫師虛偽ノ種痘證ヲ交付シ又ハ檢診セスシテ種痘證ヲ交付シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 左ニ掲クル者ハ科料ニ處ス

一 第四條又ハ第十一條第一項ニ違反シタル者

二 保護者又ハ第三條ノ義務者ニシテ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ種痘ヲ受ケシメサル者

第十八條 第十二條又ハ第十四條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第十九條 官廳公署及官立公立ノ學校等ニ於テハ第三條第一項及第四條第一項乃至第三項ノ規定ニ準シ其ノ措置ヲ爲スヘシ

第二十條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戶主、戶主未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ戶主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ謂フ

本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

附則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

種痘規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前數ヘ歳七歳以前ニ種痘ヲ受ケタル者又ハ種痘ヲ受ケタルモ其ノ時期不明ナル者ハ本法ニ依リ第一期ノ種痘、數ヘ歳八歳以後ニ種痘ヲ受ケタル者ハ第二期ノ種痘ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行前第一條第一項ノ種痘定期ヲ經過シタル未成年者ニ付テハ第四條ノ規定ハ生來種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル者ニ關シテ之ヲ適用ス

前項指定ノ期日迄ニ種痘ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第七條 檢診期日ハ種痘ヲ施シタル日ヨリ第六日乃至第八日ノ間ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第八條 種痘證、種痘證及種痘猶豫證ハ附録様式ニ據ルヘシ

第九條 左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ種痘證交付後又ハ届出ヲ受ケタル後二月以内ニ其ノ本籍地ノ戶籍吏ニ通知スヘシ

一 第一期種痘善感シタル者

二 第一期第二回ノ種痘不善感ナル者

三 第一期種痘施行前種痘ヲ經過シタル者

第十條 市町村長ハ戶籍吏ヨリ前年中出生ノ本籍人ニシテ種痘法第八條ニ依リ符號ノ記入ナキ者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ若シ其ノ者カ本籍地外ニ在ルトキハ直ニ之ヲ其ノ寄留地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第十一條 種痘法第十二條第二項ノ届出ハ種痘證ヲ提示シ又ハ醫師ノ證明書ヲ得テ現住地ノ市町村長ニ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十二條 種痘法第十四條ニ依リ警察官吏又ハ市町村吏員ノ請求アル場合ニ於テ左記各號ノ一ニ依リ種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルコトヲ證明スル者ハ種痘證又ハ種痘證ヲ提示スルコトヲ要セス

一 痘瘡經過證

二 種痘猶豫證

三 小學校、之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證書、修業證書又ハ保育證書ニ種痘ニ關スル事項ヲ記入シタルモノ

四 第一期種痘ニ付テハ種痘法第八條ニ依レル符號ノ記入アル戶籍原本又ハ抄本

五 市町村長ノ證明書

第十三章 學校衛生

種痘法施行規則

內務省令第二十六號(明治四十二年十二月二十一日)

種痘法施行規則左ノ通定ム

第一條 市町村長ハ區長ヲ以テ戶籍吏ニ充ツル市ニ於テハ區長、市制町村制ニ依リハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ現住人中左記各號ニ該當スル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ

一 前年中出生ノ者

二 數ヘ歳十歳ノ者

三 前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者

地方長官(東京府ハ警視廳、以下之ニ依リハ必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラスル者)種痘期日ヲ指定セシムルコトヲ得

本條ノ指定ハ之ヲ公告スヘシ

第二條 市町村長ハ市町村ニ於テ施行スル種痘ノ場所ヲ公告スヘシ

第三條 保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ種痘定期ニ在ル未成年者ヲシテ第一條ノ期日迄ニ醫師ニ就キ又ハ前條ノ種痘所ニ於テ種痘ヲ受ケシムヘシ

第四條 市町村長ハ痘瘡、猩紅熱、實布症、丹毒、麻疹、百日咳ノ患者アル家ノ未成年者ニ付テ必要ト認ムルトキハ別ニ期日ヲ指定シ又ハ別ニ定メタル場所ニ於テ種痘ヲ行フヘシ

第五條 種痘ヲ猶豫セラレタル者ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ事故ノ消滅シ又ハ猶豫期間ノ經過シタル日ヨリ三十日以内ニ種痘ヲ受ケシムヘシ

第六條 種痘法第九條ノ未成年者アルトキハ市町村長ハ連クモ次回ノ種痘施行期ニ於テ種痘期日ヲ指定スヘシ

附則

本則ハ明治四十二年法律第三十五號種痘法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治四十三年一月一日ヨリ施行)

模式略ス

肺結核豫防ニ關スル件

內務省令第一號(明治三十七年二月四日)

肺結核豫防ニ關スル件

第一條 學校、病院、製造所、船舶發着待合所、劇場、寄席、旅店其ノ他地方長官ノ指示スル場所ニハ適當箇數ノ唾壺ヲ配置スヘシ

警察官署ハ前項配置ノ唾壺不適當ナルカ若ハ其ノ箇數充分ナラスト認ムルトキハ期間ヲ定メテ唾壺ノ變更ヲ命シ若ハ箇數ヲ指定シテ之ヲ増置セシムルコトヲ得

前項ノ唾壺ニハ唾痰ノ乾燥飛散ヲ防ク爲少量ノ消毒藥液又ハ水ヲ入レ置キ唾壺内ノ唾痰ハ第六條ノ方法ニ依リ消毒スルニアラサレハ投棄スヘカラス

第二條 前條ノ場所ニ於テハ何人ト雖モ唾壺以外ニ唾痰ヲ略出スルコトヲ得ス

第三條 地方長官ノ指定シタル噴泉場、海水浴場、轉地燒養所ニ於ケル旅店ハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スヘシ

一 營業用ニ供スル器具ハ白布ヲ以テ被包スルコト

二 前條ノ白布及貸浴衣ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト

四〇七



















一學年間患者一人平均治療日數	
一學年間在校生徒每千平均一日患者	
一學年間無病生徒	
一學年間治療費	
備考	

樣式說明

- 一 每年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一學年度間ニ於ケル表式ノ事項ヲ調査シ各校各學年ニ分チ調製スルモノトス
- 二 男生徒及女生徒ヲ教授スル學校ニ在リテハ男女ニ分チ調製スルモノトス
- 三 患者ハ醫師ノ治療ヲ受ケタルモノトス但シ輕症ニシテ三日以内ニ治癒シ若ハ一日以上ノ學課休ミヲナサ、ル者ハ之ヲ算スヘカラス
- 四 舊患者ハ前學年ノ後遺患者ヲ新患者ハ學年中新ニ疾病ニ罹リタル者ヲ指ケ併發病、繼續病ニシテ原症ヨリ重症トナリ病名ヲ改メタル場合ニ於テハ原症ノ轉歸ヲ事故トシ併發病繼續病ヲ新ニ一患者トナスモノトス
- 五 「其他」ノ欄ニハ各病類ノ當該欄ニ明示ナキモノヲ記入スルモノトス
- 六 各病類ノ計數ハ朱書スルモノトス
- 七 校内治療ヨリ校外治療ニ又校外治療ヨリ校内治療ニ移リタル者ハ各一人トシテ掲ケルモノトス故ニ校内及校外治療人員ノ計數ハ舊新患者ノ合計ト符合セサルコトアルヘシ但シ校外治療ハ學校ヨリ之ヲナサシメタル者ノミヲ掲ケヘシ
- 八 平均一日患者ハ在校日數ヲ以テ患者延人員ヲ除シタル商ヲ掲ケルモノトス
- 九 在校日數ハ生徒ノ在校日數ヲ以テ在校生徒及校外治療生徒ヲ積算シテ掲ケルモノトス
- 十 在校生徒延人員ハ在校日數中日々ノ在校生徒及校外治療生徒ヲ積算シテ掲ケルモノトス
- 十一 平均一日在校生徒ハ在校日數ヲ以テ在校生徒延人員ヲ除シタル商ヲ掲ケルモノトス
- 十二 一學年間患者一人平均治療日數ハ其學年間ノ患者人員ヲ以テ其治療日數ヲ除シタル商ヲ掲ケルモノトス
- 十三 一學年間在校生徒每千平均一日患者ハ其學年間在校生徒延人員ニ對シ患者延人員ノ比例シ掲ケルモノトス
- 十四 一學年間無病生徒ハ其學年間全ク醫師ノ治療ヲ受ケサル者ノ數ヲ掲ケルモノトス但シ學年ノ中途ニ於テ入學シタル生徒ニシテ無病ノ者モ亦之ヲ算入スヘシ

公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件

- 一 勅令第二號(明治三十一年一月十二日)
- 一 公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件ヲ裁可シ技ニ之ヲ公布セシム
- 一 北海道廳府縣郡市町村ノ設置ニ係ル學校ニ學校醫ヲ置ク
- 一 地方長官ハ特別ノ事情アルトキハ村立學校及人口五千未満ノ町立學校ニハ當分ノ內學校醫ヲ置カサルコトヲ得
- 一 學校醫ハ地方長官ノ囑託ス
- 一 學校衛生事務ニ關シ學校醫ハ地方長官郡市町村長ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ述フヘク又之ニ建議スルコトヲ得
- 一 學校醫ニハ其ノ學校經費ヨリ相當ノ手當ヲ給スヘシ
- 一 學校醫ノ囑託執務及其ノ他ニ關シ必要ナル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

學校醫ノ資格

文部省令第七號(明治三十一年二月二十六日)

第十三章 學校衛生

學校醫職務規程

文部省令第六號(明治三十一年二月二十六日)

(沿革)明治三十三年三月文部省令第五號改正

明治三十一年勅令第二號第五條ニ基キ學校醫職務規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 帝國大學醫科大學醫學科卒業ノ者
- 二 元東京大學醫學部醫學科本科又ハ別課卒業ノ者
- 三 高等學校醫學部醫學科卒業ノ者
- 四 元高等中學校醫學部醫學科卒業ノ者
- 五 大阪府京都府愛知縣醫學學校醫學科卒業ノ者
- 六 元府縣立甲種醫學學校卒業ノ者
- 七 試驗ヲ經テ帝國大學醫學科大學國家醫學講習科ニ入學シ同科ヲ修了シタル者



第十三章 學校衛生

學校醫職務規程

- 第一條 學校醫ハ本令ニ規程アルモノノ外地方長官ノ命ヲ受ケ學校衛生ニ關スル職務ニ從事ス
- 第二條 學校醫ハ毎月少クトモ一回教授時間内ニ於テ當該學校ニ到リ衛生上ノ事項ヲ觀察スヘシ學年ノ終及學期ノ始ニ於テハ特ニ當該學校ニ到リ觀察スルコトヲ要ス
- 第三條 學校醫ハ學校觀察ノ際左ノ事項ヲ調査シ之ヲ觀察簿ニ記入スヘシ
  - 一 換氣ノ良否
  - 二 採光ノ適否
  - 三 机腰掛ノ適否
  - 四 前列及最後列ノ机ト黑板トノ距離
  - 五 暖爐ノ有無及暖爐ト最近生徒トノ距離
  - 六 室内ノ溫度
  - 七 圖書掛圖黑板ノ衛生上ノ適否
  - 八 學校清潔方法實行ノ情況
  - 九 飲料水ノ良否
  - 十 其ノ他衛生上必要ナル事項
- 第四條 學校醫ハ學校觀察ノ際疾病ニ罹レル生徒ヲ發見シタルトキハ其病症ニ依リ缺課休學又ハ療治ヲ爲サシムヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ
- 第五條 學校醫ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢査規程ニ依リ生徒ノ身體ヲ檢査シ身體檢査票ヲ調製スヘシ
- 第六條 學校醫ハ生徒ノ入學退學等ニ際シ學校長ノ請求ニ應ジ其ノ生徒ノ身體ヲ檢査スヘシ
- 第七條 學校醫ハ學校ノ近傍若クハ學校内ニ於テ傳染病ノ發生シタルトキハ數次學校ニ到リ必要ナル豫防消毒方法ヲ施行シ尙其情況ニ依リ學校ノ全部若クハ一部分ノ閉鎖ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ管理若及學校長ニ申請スヘシ

四一六ノ二

- 告スヘシ通學生徒ノ所在地ニ傳染病ノ發生シタル場合ニ於テ其通學生徒ノ昇校ヲ禁スヘキ必要ヲ認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スヘシ
- 第七條 學校醫ハ衛生上必要ト認メタル事項ニ就テハ管理者及學校長ニ申告スヘシ
- 第八條 此規程施行ノ爲メ必要ナル細則ハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得

第十四章 圖書館

圖書館令

勅令第四百二十九號(明治三十二年十一月十一日)

(沿革)明治三十九年一〇月勅令第二七四號、四三年六月同第二七八號改正

朕圖書館令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

圖書館令

- 第一條 北海道府縣郡市町村北海道及沖繩ニ於テハ圖書ヲ蒐集シ公衆ノ閱覽ニ供セムカ爲メ圖書館ヲ設置スルコトヲ得
- 第二條 明治二十六年勅令第三十三號ノ規定ハ圖書館ニ關シ之ヲ準用ス
- 第三條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ圖書館ヲ設置スルコトヲ得
- 第四條 圖書館ハ公立學校又ハ私立學校ニ附設スルコトヲ得
- 第五條 圖書館ノ設置廢止ハ其ノ道府縣立ニ係ルモノハ文部大臣、其ノ他ノ公立ニ係ルモノハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ私立ニ係ルモノハ地方長官ニ開申スヘシ
- 第六條 公立圖書館ニ館長、司書及書記ヲ置クコトヲ得  
館長及司書ハ委任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケ書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケ
- 第六條ノ二 委任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル館長及司書ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス
  - 一 高等文官ト爲ルノ資格ヲ有スル者
  - 二 學位ヲ有シ又ハ官立學校ヲ卒業シ學士ノ稱號ヲ有スル者ニシテ一年以上教育又ハ圖書ニ關スル公務ニ從事シタル者
  - 三 三年以上教育又ハ圖書ニ關スル公務ニ從事シ月額四十圓以上ノ俸給ヲ受ケル判任文官以上又ハ判任文官待遇以上ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

第十四章 圖書館

第六條ノ三 判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル館長、司書及書記ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

- 一 判任文官ト爲ルノ資格ヲ有スル者
- 二 三年以上教育又ハ圖書ニ關スル公務ニ從事シタル者
- 第六條ノ四 委任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル館長及司書ノ任免奏薦及宣行ハ高等官官等俸給令第四條及第五條ノ例ニ依リ之ヲ行ヒ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル館長、司書及書記ノ任免ハ地方長官之ヲ行フ
- 第六條ノ五 館長又ハ司書ニシテ委任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル者ノ官等配當ハ明治二十五年勅令第三十九號中委任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル中學校教諭ノ例ニ依リ館長、司書又ハ書記ニシテ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル者ノ等級配當ハ同令中學校助教諭ノ例ニ依ル
- 第七條 公立圖書館ニ於テハ圖書閱覽料ヲ徵收スルコトヲ得
- 附則
- 第八條 諸學校通則第三條中及小學校令中書籍館及圖書館ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス



圖書館令施行規則

文部省令第十八號(明治四十三年六月三十日) 圖書館令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

圖書館令施行規則

第一條 圖書館令第五條ニ依リ公立圖書館ヲ設置セントスルトキハ管理者ヨリ左ノ事項ヲ具シ道府縣立圖書館ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ公立圖書館ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

一 名稱

二 位置

三 經費及維持ノ方法

四 敷地建物ノ坪數及圖面

五 開館年月日

六 館則

私立圖書館ニ在リテハ設立者ヨリ前項ノ事項ヲ地方長官ニ開申スヘシ

第二條 名稱、位置、敷地、建物又ハ館則ノ變更ハ道府縣立圖書館ニ在リテハ文部大臣ニ其ノ他ノ圖書館ニ在リテハ地方長官ニ開申スヘシ

第三條 道府縣立圖書館ノ經費豫算ハ文部大臣ニ其ノ他ノ公立圖書館ノ經費豫算ハ地方長官ニ毎會計年度開始前ニ開申スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年文部省令第十九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

ノ書目ヲ調製スヘシ 數箇ノ圖書館ヲ有スル地方ニ於テハ成ルヘク毎年各圖書館主任者ノ會

議ヲ開キ其ノ閱覽ニ供スヘキ圖書ノ種目ニ關シ標準ヲ議定スルヲ可トス

一 圖書館ハ單ニ其ノ地方ニ古來存在セル古書類ヲ收容シ又ハ寄贈ヲ受ケ

テ之ヲ閱覽セシムルニ止マラス常ニ有益ナル新刊圖書ノ増加ヲ圖リ館

内ニ於テ閱覽ニ供スルハ勿論廣ク館外ニ貸出シ稍々規模ノ大ナル圖書

館ニアリテハ或ハ分館ヲ設ケ或ハ巡回文庫ノ制ヲ立ツル等成ルヘク地

方一般ニ書籍ノ供給ヲ圖ランコトヲ要ス

一 圖書館ハ一般公眾ノ智識ヲ進メ修養ニ資スヘキハ勿論ナリト雖特ニ學

校及家庭ト相待テ教育ノ效果ヲ收ムルコトニ務メ或ハ學校ト聯絡シテ

教員ノ學科教授上ニ於ケル參考ニ供シ或ハ家庭ニ對シテ其ノ子弟ノ閱

讀スヘキ健全ナル長書ノ標準ヲ示シ以テ子弟ヲシテ幼時ヨリ陋劣ナル

書籍ヲ手ニセサルノ習慣ヲ養成セシムヘシ

一 圖書館ハ土地ノ情況及讀者ノ種類ニ應シ適切ナル圖書ノ選擇ヲ爲ササ

ルヘカラス例ヘハ工業地ニハ工業ニ商業地ニハ商業ニ農業地ニハ農業

ニ關シ各必要ナル圖書ヲ供給スルカ如シ又其ノ所在地方ニ關スル圖書

記錄類並其ノ地方人士ノ著述ヲ蒐集スルコト最肝要ナリトス

一 圖書館ヲ建設セントスルニ方リテ府縣廳所在地其ノ他稍々大ナル市街

地ニ在リテハ其ノ敷地ハ主トシテ交通、風致、衛生ノ諸方面ヨリ觀察

シテ最適當ナル場所ヲ撰ヒ其ノ建築ハ閱覽、管理、衛生上ノ便ヲ圖リ

力メテ外觀ノ虛飾ヲ去リ質素堅牢ヲ旨トスヘシ而シテ土地ノ情況ニ依

リ圖書館ノ敷地ヲ交通ノ便ナル所ニ求メ難キトキハ分館又ハ巡回文庫

ノ制ニ依リ其ノ缺點ヲ補足スルヲ可トス

一 圖書館ノ設備ハ概ネ左ノ各號ニ依ルヘシ但簡易ナル圖書館並小學校等

ニ附設スルモノハ此ノ例ニ依ルコトヲ要セス

第十四章 圖書館

圖書館設立ニ關スル注意事項

文部大臣訓令(明治四十三年二月三日) 各地方長官

竊ニ圖書館令ノ發布セラレシヨリ以來公立私立圖書館ノ設置漸ク多キヲ加

フルノ狀アルハ洵ニ喜フヘキ現象ナリトス然レトモ此等圖書館ノ内容ヲ觀

察スレハ往々施設未タ其ノ宜シキヲ得サルモノナキニアラズ依テ茲ニ圖書

館ノ施設ニ關シ特ニ注意ヲ要スル事項ヲ掲ケ以テ大體ノ標準ヲ示サント

ス

圖書館ノ施設ハ規模ノ大小ニ應シテ取捨斟酌宜シキヲ得サルヘカラス近時

各地方ニ於テ設立セラレタル通俗圖書館又ハ小學校ニ附設スル圖書館ノ類ハ

施設其ノ宜シキヲ得ルトキハ小學校及家庭ノ教育ヲ裨補スル上ニ於テ其ノ

效益尠少ニ非サルヘシ而シテ此ノ類ノ圖書館ニ在テハ健全有益ノ圖書ヲ選

擇スルコト最肝要ナリトス故ニ成ルヘク其ノ施設ヲ簡易ニシ主トシテ力ヲ

有益ナル圖書ノ蒐集ニ用ヒシメンコトヲ要ス若シ夫レ相當ノ實力ヲ有シ完

全ナル圖書館ヲ設立セントスルモノニ在リテハ地方ノ實況ニ應シテ成ルヘ

ク此標準ニ準據シテ適當ノ施設ヲ爲サシメ以テ十分ノ效果ヲ收メンコトヲ

期セシムヘシ

右訓令ス

圖書館設立ニ關スル注意事項

一 圖書館ハ學術研究ニ資スルト共ニ一般公眾ノ讀書趣味ヲ涵養シ其ノ風

尙ヲ高メ其ノ智識ヲ進ムルノ用ニ供スルモノナレハ圖書館ノ種類目的

ニ應シ適當ニシテ有益ナル書籍ヲ選擇蒐集センコトヲ要ス通俗圖書館

ニ在リテハ殊ニ然リトス依テ其ノ蒐集スヘキ書籍ハ勿論其ノ寄贈ニ係

ルモノノ加キモ一般公眾殊ニ青年兒童ノ閱覽ニ供スヘキ雜誌類ニ就キ

テハ十分取捨選擇ニ注意シ最健全ニシテ有益ナルモノヲ選ミテ閱覽用

一 圖書館ハ閱覽室、書庫及事務室ヲ區分スルヲ可トス其ノ他地方ノ必

要ト經費ノ多少トニ應シ成ルヘク兒童室、婦人室、特別閱覽室、休

憩室、製本室、使丁室等ヲ設クルヲ便トス

二 閱覽室ノ構造ハ主トシテ通風及採光ニ注意スヘク書庫ハ成ルヘク煉

瓦造又ハ土藏造トシ廊下ヲ以テ閱覽室ニ接續セシメ點燈其ノ他必要

已ムコトヲ得サル場合ノ外火氣ヲ其ノ内ニ入レサルヲ可トス書庫ノ

天井ト床トノ距離ハ九尺乃至十尺トシ書函ト側壁トノ間隔及書函ト

書函トノ間隔ハ共ニ約二尺五寸トシテ之ヲ通路ニ充ツルヲ可トス

三 器具ハ閱覽室用卓子、椅子、圖書出納臺、牌子目錄函、辭書臺、貸

出目錄函ノ類ニシテ實際ノ必要ニ應シ成ルヘク之ヲ具備スルヲ可ト

ス

四 帳簿目錄類ハ事務用トシテ圖書原簿、兩架目錄、事務用牌子目錄、

貸出牌子目錄等ニシテ閱覽用トシテ件名目錄、洋書著者目錄、同分

類、和洋書書名錄、同分類等ニシテ實際ノ必要ニ應シ成ルヘク之ヲ

具備スルヲ可トス而シテ目錄類ハ原簿、兩架目錄ノ類ヲ除クノ外成

ルヘク一般ニ牌子式ニ依リ帳簿記入式ニ依ラサルヲ便トス

文部省達第七號(明治十七年七月十九日) 府縣

書籍館圖書目錄ノ儀府縣立町村立私立書籍館ノ分トモ當明治十七年末ノ調

査ヲ以テ編製シタルモノヲ取纏メ來ル十八年六月迄ニ差出スヘシ且爾後ハ

來ル十八年一月ヨリ起算シ該館ノ設置年月ニ拘ラス毎三年末調査ノモノヲ

取纏メ翌年六月迄ニ差出スヘシ此旨相達候事

但本文圖書目錄ハ學科ニ據リ分類シ書名著譯者ノ氏名出版ノ年月及部冊

數等ヲ記載シタル科引目錄ノ儀ト可心得候事



第十五章 教育費

●教育基金特別會計法

法律第八十號(明治三十二年三月二十二日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル教育基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教育基金特別會計法

第一條 教育基金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般會計ト区分シ特別會計ヲ設置ス

第二條 價金特別會計資金ノ内千萬圓ハ教育基金ニ組入ルヘシ

第三條 教育基金ハ普通教育費ニ使用ス

第四條 教育基金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ拂出スヘシ但シ元資金千萬圓ハ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第五條 教育基金ハ大藏省預金ニ寄託シ其ノ利子ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

第六條 政府ハ毎年教育基金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

●教育基金令

勅令第二百五十九號(大正三年十二月十二日)

朕教育基金令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教育基金令

第一條 教育基金ハ本令ニ依リ之ヲ使用ス

第二條 教育基金ハ文部大臣ニ於テ其ノ一部ヲ前前年度末現在ノ學齡兒童數ニ應ジテ北海道及府縣ニ配付シ他ノ一部ヲ普通教育ノ普及改善ニ關シ

必要ト認ムル費用ニ使用ス

第三條 北海道及府縣ハ前條ノ配付金ヲ以テ教育資金ト爲シ特別會計ヲ設置スヘシ

教育資金ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第四條 教育資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第五條 教育資金ハ左ノ各號ノ用途ニ之ヲ用ウルモノトス

一 公立小學校設備費ノ貸付又ハ補助

二 公立小學校教員ノ疾病療治料

三 公立小學校教員ノ獎勵其ノ他地方長官ニ於テ普通教育ノ普及改善ニ關シ必要ト認ムル費用

第六條 前條第一號ノ規定ニ依リ使用スル教育資金ハ特別ノ必要アル場合ニ於テ公立尋常小學校ノ校地校舍ノ設備費ニ充ツル爲之ヲ市町村又ハ之ニ準スヘキ公共團體ニ貸付シ市制又ハ町村制若ハ之ニ代ハルヘキ制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ之ヲ小學校設置區域ニ補助ス

公立高等小學校ノ校地校舍ニシテ變災ニ罹リ設備ノ復舊ヲ要スル場合ニ在リテハ前項ノ規定ヲ準用ス

前二項ノ貸付金ニ對シテハ一年百分ノ五ノ利子ヲ附セシムヘシ

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ補助金額ハ設備ニ要スル費用ノ十分ノ五以内トス

第七條 地方長官ハ教育資金使用ニ關スル規程ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受ケルヘシ

●市町村立小學校教育費國庫補助法

市町村立小學校教育費國庫補助法第三條ノ市町村立小學校ノ本科正教員數及市町村立小學校ノ本科正教員ニシテ五年以上同一府縣内ニ勤続スル者ノ數ハ補助金ヲ配賦スヘキ年ノ前年三月末日ニ於ケル現在數ニ依ルモノトス

附則 本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市町村立小學校教育費ヲ補助セシムル爲北海道地方費及府縣費支出ノ件

勅令第二百七十七號(明治四十年五月二十七日)

朕市町村立小學校教育費ヲ補助セシムル爲北海道地方費及府縣費支出ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 北海道地方費及府縣ハ市町村立小學校教育費ヲ補助スル爲市町村立小學校教育費國庫補助法ニ依リ配賦スル金額ト同額ノ金額ヲ支出スヘシ但シ沖繩縣ニ於テハ同額ヨリ之ヲ支出ス

第二條 前條ノ金額ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケケ地方ノ情況ニ應シテ之ヲ市町村立小學校教員加俸ノ支出ニ充テ又ハ市町村立小學校教員住宅費ノ補助ニ充ツヘシ

前項補助ノ方法ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附則 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

特別ノ事情ニ依リ本令ノ支出ヲ爲シ難キ場合ニ於テハ期間ヲ定メテ文部大臣ノ認可ヲ受ケ當分ノ内支出金額ヲ減少スルコトヲ得

●市町村立尋常小學校設置及七教

市町村立尋常小學校設置及七教

文部省令第九號(明治四十二年三月十八日)

第十五章 教育費

●市町村立小學校教育費國庫補助法ニ依ル本科正教員數調査ノ件

前項ニ依リ支給スル金額ハ第三條ノ配賦金ヨリ支出ス

第六條 本法施行ノ際市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ニ依リ現ニ年功加俸ヲ受クル者ニハ同一學校ニ勤続スル間仍其ノ加俸ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ本法ニ依リ年功加俸ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法及小學校教育費國庫補助法ハ之ヲ廢止ス

第四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

附則 市町村立小學校教育費國庫補助法第三條ノ市町村立小學校ノ本科正教員數及市町村立小學校ノ本科正教員ニシテ五年以上同一府縣内ニ勤続スル者ノ數ハ補助金ヲ配賦スヘキ年ノ前年三月末日ニ於ケル現在數ニ依ルモノトス



員俸給ニ就キ補助ノ件

文部省訓令第二號(明治三十年二月十六日)

北海道廳 府縣

尋常小學校ノ設置上市町村ノ資力其負擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣郡ヨリ補助ヲ與フヘキコトハ小學校令(第四十六條乃至第四十九條)ノ規定スル所ナルヲ以テ必要ニ應シ之ヲ適用スルコトヲ忘ラサルヘキハ勿論ナリト雖モ殊ニ今般勅令第二號ヲ以テ市町村立小學校教員俸給ニ關スル件ヲ發布セラレタルニ付テハ此規定ニ基キ負擔スヘキ適當ノ俸給額ヲ支出スルニ堪ヘスト認定スルトキハ市小學校令ノ規定ニ依リ相當ノ補助ヲ與フルコトヲ勉ムヘシ

實業教育費國庫補助法

法律第九號(大正三年三月二十三日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル實業教育費國庫補助法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

實業教育費國庫補助法

- 第一條 實業教育ヲ獎勵スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス
- 第二條 主務大臣ハ前條金額ノ範圍内ニ於テ獎勵上必要アリト認ムル私立ノ實業學校ニ對シ補助金ヲ交付ス
- 第三條 補助金ノ交付ハ用途ヲ指定シテ臨時ニ補助スル場合ヲ除クノ外三年ヲ以テ一期トス
- 第四條 補助金ノ年額ハ補助ヲ受クル學校ノ設立者ノ負擔額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ用途ヲ指定シテ臨時ニ交付スル補助金及實業補習學校ニ對シ交付スル補助金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 第五條 補助ヲ受クル學校ノ設立者ハ補助期間其ノ學校經費ヲ繼續支出ス

ル義務アルモノトス

- 第六條 主務大臣補助ヲ受クル學校ノ管理不適當ナリト認メタルトキ又ハ其ノ學校主務大臣ノ定ムル規程ニ違背シ第五條ノ義務ヲ盡サス若ハ補助ノ條件ニ違反シタルトキハ補助ヲ廢止シ若ハ停止シ又ハ補助金額ヲ減少スルコトヲ得
- 第七條 主務大臣ハ第二條ノ補助金ノ外公立私立ノ實業學校教員ノ養成費其ノ他實業教育獎勵上必要ト認ムル費用ニ充ツル爲第一條ノ豫算定額ノ八分ノ一以內ヲ支出スルコトヲ得
- 第八條 補助金ノ交付ニ關シ必要ナル規程ハ主務大臣之ヲ定ム

附則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本法施行ノ際現ニ存スル補助ノ期間ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

實業教育費國庫補助法施行規則

文部省令第十三號(大正三年四月二十二日)

- 第一條 實業教育費國庫補助法施行規則
- 第二條 實業學校ニシテ補助ヲ受ケントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其ノ管理若シ私立學校ニ在リテハ其ノ設立者ヨリ收支豫算ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ但シ實業補習學校ニ在リテハ實業學校設置廢止規則第一條第一項第一號乃至第五號第八號及第十號ノ事項ヲ併セシム
- 第三條 補助ヲ受クル私立學校ノ設立者ハ其ノ學校經費ニ關シ政府ノ會計會計帳簿ヲ備フヘシ
- 第四條 補助ヲ受クル學校ノ收支豫算ハ毎年會計年度前之ヲ文部大臣ニ報告ス

スヘシ

前項ノ收支豫算書ニハ前年度豫算額及之ニ對スル比較増減ヲ示シ且ツ其ノ細目ニ就キ説明ヲ付スヘシ

設立者ノ負擔額ヲ減額シタル場合ノ更正豫算ハ其ノ都度之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ其ノ他ノ場合ニ於ケル更正豫算又ハ追加豫算ハ收支決算ノ報告ト共ニ之ヲ報告スヘシ

第四條 補助ヲ受クル學校ノ收支決算ハ遲滞ナク之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

前項ノ收支決算書ニハ同年度豫算額及之ニ對スル比較増減ヲ示シ且ツ其ノ増減ニ就キ説明ヲ付スヘシ

第五條 實業學校ニシテ器具、器械、船舶、圖書、標本其ノ他教授上必要ナル物品ヲ設備スル爲臨時ニ補助ヲ受ケントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其ノ管理者私立學校ニ在リテハ其ノ設立者ヨリ左ノ書類ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ但シ現ニ補助ヲ受クル學校ニ在リテハ第二號ノ書類ヲ添付スルヲ要セス

一 品目、數量、價格並用途ヲ記載セル説明書

二 當該年度ニ於ケル其ノ學校ノ收支豫算書

現ニ補助ヲ受ケタル實業補習學校ニ於テハ實業學校設置廢止規則第一條第一項第一號乃至第五號第八號及第十號ノ事項ヲ併セシム

第六條 前條ニ依リ補助ヲ受ケタルトキハ直ニ追加豫算ヲ調製シ文部大臣ニ報告スヘシ決算ニ關シテハ第四條第一項ノ規定ニ依ル

第七條 補助金ハ補助ヲ與フル月ヨリ月割計算ヲ以テ之ヲ交付ス

第八條 補助金ハ會計年度ノ二期ニ區分シ當該年度ノ四月十月ニ各一期分ヲ交付ス但シ新ニ補助ヲ與フル場合ニ於テ其ノ期ニ屬スル補助金並臨時ニ補助ヲ與フル場合ノ補助金ハ本文ノ期月ニ拘ラス之ヲ交付ス

第九條 實業學校設置廢止規則第一條第二項第二條乃至第四條ノ規定ハ補助

第十五章 教育費

助ヲ受クル實業補習學校ニ之ヲ準用ス

第十條 道府縣立ニテアツタル實業學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官第一條及第五條ノ申請書ヲ送達スル場合ニ於テハ特査ノ上詳細ナル意見ヲ付スヘシ

第十一條 文部大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ官吏ヲシテ補助ヲ受クル學校ニ就キ其ノ書類帳簿並物品ノ檢閲ヲ行ハシムルコトアルヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年文部省令第二十一號ハ之ヲ廢止ス

府縣郡ニ於テ學校圖書館ノ爲ニ設クル基本財産又ハ積立金ニ關スル件

勅令第四十二號(大正三年三月二十八日)

朕府縣郡ニ於テ學校圖書館ノ爲ニ設クル基本財産又ハ積立金ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方學事通則第九條ノ規定ニ依ル府縣郡ノ基本財産又ハ積立金ハ特定ノ一若ハ二以上ノ學校圖書館ノ爲ニ之ヲ設ケ又ハ府縣郡若ハ其ノ一部ニ於ケル學校圖書館ヲ通シテ之ヲ設クルコトヲ得

附則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



### 第十六章 統計、報告

#### ●學事年報取調條項及諸表樣式

文部省訓令第二號(明治四十四年三月三十一日)

北海道廳 府縣

學事年報取調條項及諸表樣式別冊ノ通知正ス其ノ取調條項中甲款ニ係ルモノ及諸表樣式中甲號並乙號ニ係ルモノハ每統計年度ノ調査ニ依リ翌年度六月十五日限其ノ乙款ニ係ルモノ及諸表樣式中丙號ニ係ルモノハ每統計年度ノ調査ニ依リ翌年度十月三十一日限進達スヘシ

本令ニ統計年度トアルハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテヲ云フ(別冊)

#### 學事年報取調條項

##### 甲款

##### 一管内學事ノ狀況

學事施設ノ要領及學事ノ現狀等ヲ記述スヘシ

##### 一學齡兒童

就學ニ關スル規則施行ノ狀況、就學督勵ニ關スル特種施設事項、就學猶豫又ハ免除ニ關スル事由等ヲ記述スヘシ

##### 一小學校

學校ノ設置、廢合及設備ノ狀況、學級編制、二部教授ノ狀況、公立學校ノ配置適否ノ狀況、私立學校ノ狀況、補習科及加設科目ニ關スル狀況、九月一日ニ始マル學年ヲ置ク學校ニ關スル狀況、授業料ニ關スル狀況、教員ノ需要供給、勤續轉免、俸給、加俸其ノ他待遇上ニ關スル狀況等ヲ記述スヘシ

##### 一幼稚園

幼稚園ノ設置、廢止及設備ノ狀況、幼兒保育ノ狀況等ヲ記述スヘシ

##### 一各種學校

學校ノ設置、廢止及設備ノ狀況、學校維持ニ關スル狀況、授業ノ狀況等ヲ記述スヘシ

##### 一學校衛生

學校清潔方法施行ノ狀況、學校醫視察ノ狀況、學校醫資格別、生徒又ハ兒童健康ノ狀況、傳染病豫防及消毒ニ關スル施行ノ狀況、校舎内ニ於ケル傳染病罹病者及死亡者ノ數並其ノ處置等ヲ學校ノ種類ニ依リ區別シテ記述スヘシ

##### 一學校園、學林及樹栽

學校園、學林等ノ施設ニ關スル狀況、生徒及兒童樹栽ニ關スル狀況等ヲ記述スヘシ

##### 一教員檢定及免許狀授與

小學校教員檢定及小學校教員府縣免許狀授與ニ關スル狀況ヲ記述スヘシ

##### 一教員講習

道府縣、郡、市、町村及教育會等ニ於テ開催シタル教員講習會ノ種類、開會回数、日數、講習員ノ種類及其ノ數、其ノ他講習ニ關スル狀況ヲ記述スヘシ

##### 一教科用圖書

教科用圖書ノ適否、需要供給ノ關係、其ノ他教科用圖書ニ係ル狀況ヲ學校ノ種類ニ依リ區別シテ記述スヘシ

##### 一圖書館

圖書館ノ設置、廢止及設備ノ狀況、閱覽人ノ狀況、閱覽圖書ノ種類別、

##### 一盲啞學校

學校ノ設置、廢止及設備ノ狀況、生徒卒業後ノ狀況、生徒失官原因ニ關スル調査等ヲ記述スヘシ

##### 一師範學校

學校ノ設置、廢合及設備ノ狀況、有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由別、生徒訓育ノ狀況、生徒學業ノ進否、生徒修學旅行ノ狀況、本科、豫備科入學者ノ父兄ノ職業別、卒業者就職ノ狀況、附屬小學校及幼稚園ノ狀況、講習科及其ノ他臨時施設事項ニ關スル狀況等ヲ記述スヘシ

##### 一中學校

學校ノ設置、廢合及設備ノ狀況、有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由別、生徒訓育ノ狀況、生徒學業ノ進否、生徒修學旅行ノ狀況、入學志願者ニ關スル狀況、入學者父兄ノ職業別、補習科ニ關スル狀況等ヲ記述スヘシ

##### 一高等女學校

學校ノ設置、廢合及設備ノ狀況、有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由別、生徒訓育ノ狀況、生徒學業ノ進否、本科、實科入學者父兄ノ職業別、選科、補習科、專攻科ニ關スル狀況等ヲ記述スヘシ

##### 一專門學校

學校ノ設置、廢合及設備ノ狀況、教員ノ資格別、生徒訓育ノ狀況、生徒學業ノ進否等ヲ各校各別ニ記述スヘシ又醫學專門學校ニ在リテハ外來、入院ニ係ル學用患者ノ内科、外科、眼科、產科、婦人科等ノ區別人員及屍體解剖數ヲモ記述スヘシ

##### 一實業學校

學校ノ設置、廢合及設備ノ狀況、教員ノ資格別、生徒訓育ノ狀況、生徒學業ノ進否、生徒實習及修學旅行ニ關スル狀況、學校ト實業界トノ

##### 一巡回圖書館ノ狀況等ヲ記述スヘシ

巡回圖書館ノ設置、廢止及設備ノ狀況、觀覽人ノ狀況、陳列品ノ種類等ヲ記述スヘシ

##### 一教育品展覽會

教育品展覽會開催回数及開會日數、觀覽人ノ狀況、陳列品ノ種類及開設ノ效果ヲ記述スヘシ

##### 一教育會

教育會ノ組織、現在數及會員數、其ノ他事業ノ概況等ヲ記述スヘシ

##### 一青年團體

青年會、夜學會等ノ教育ニ關スル施設ヲ記述スヘシ

##### 一教育ニ關スル法人

文部大臣ノ主管ニ屬スル社團法人、財團法人ノ狀況ヲ記述スヘシ

##### 一府縣會、郡會及市町村會

學事ニ關スル議事ノ概況ヲ記述スヘシ

##### 一學事關係職員及學事視察

北海道廳、府縣廳、郡、市役所ニ於ケル學事關係職員ノ種類別人員、學事視察ニ關スル狀況、市町村學務委員職務ノ狀況等ヲ記述スヘシ

##### 一學事獎勵

學事獎勵ニ關シ施行シタル事項ノ狀況及效果等ヲ記述スヘシ

##### 一將來學事施設上須要ノ件

學事施設上將來須要ト認ムヘキ事項ニ關スル意見、計畫等ヲ記述スヘシ

##### 一公學費及公學資產

以上ノ外學事ニ關シ特ニ申報スヘキ事項アルトキハ適宜記述スヘシ

##### 乙款



公立學校等ノ歲出入ノ狀況、學校基本財産及積立金蓄積、其ノ他維持ニ關スル狀況ヲ記述スヘシ  
 一教育資金  
 教育資金貸付、戻入等ノ狀況、獎勵金支出ニ係ル種別金額等ヲ記述スヘシ  
 一市町村立小學校教員加俸資金  
 學事年報諸表様式  
 甲 號

市町村立小學校教員加俸令ニ依リ加俸ヲ給與シタル狀況等ヲ記述スヘシ  
 以上ノ外學事經濟上ニ關シ特ニ申報スヘキ事項アルトキハ適宜記述スヘシ  
 本取調條項中別ニ表式アルモノニ關シテハ表式ニ示ス事項ノ計數ニ就キ著シキ増減ノ事由等ヲ各別ニ記述スヘシ

甲號表一 學齡兒童表

種別	既學											
	尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者						尋常小學校ノ教科ヲ卒ヘタル者					
	計		修業年限四箇年ノ尋常小學校卒業者		修業年限六箇年ノ尋常小學校卒業者		計		修業年限四箇年ノ尋常小學校卒業者		修業年限六箇年ノ尋常小學校卒業者	
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
市												
市												
市												
市												
市												
市												
町												
村												
計												

種別	學齡兒童												
	就學						不就學						
	計		尋常小學校第一學年ノ者		尋常小學校第二學年ノ者		尋常小學校第三學年ノ者		尋常小學校第四學年ノ者		尋常小學校第五學年ノ者		尋常小學校第六學年ノ者
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
市													
市													
市													
市													
市													
市													
町													
村													
計													







第十六章 統計、報告

四三〇

一 治四十三年度末調査ニ於テハ明治三十七年四月二日生ヨリ同三十八年三月三十一日生マテノ現員ヲ掲ケルカ如シ  
 一 小學校令第三十三條ニ依ル者ニシテ年度内其ノ處分ヲ了セサル者アルトキハ其ノ事項ニ應シテ學籍簿又ハ就學免除ノ部當該欄内ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲ケヘシ  
 一 學齡兒童ノ居所一箇年以上分明ナラサルトキハ之ヲ除キ一箇年未滿分明ナラサルトキハ既ニ就學ノ始期ニ達シタル者ニ在リテハ就學籍簿ノ部當該欄内ニ於テ未ダ就學ノ始期ニ達セサル者ニアリテハ其ノ欄内ニ於テ各適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲ケヘシ  
 一 就學歩合ノ計算ハ單位ノ下二位ニ止メ四捨五入スヘシ  
 一 學齡兒童中年度内四月一日ニ於テ未ダ就學ノ始期ニ達セサル者ニシテ小學校令施行規則第二十五條第二項ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置キタル市町村ニ居住スル者ニ就キテハ本條ニ準シ別表ニ記載スヘシ但シ本表ニハ別表ニ掲載シタル者ハ之ヲ計入スヘカラス  
 一 備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ尙年度内ニ於テ小學校令施行規則第八十一條第三項第三號ニ依リ學齡簿ヲ抹消セラレタル兒童ノ男女別人員ヲモ記載スヘシ

甲號表二 市町村立小學校表

種別	市		町		村		合計		
	市	立	町	立	村	立	計		
	市	立	市	立	市	立	計		
學	本	校		校		校		校	
		場	分	場	分	場	分	場	分
級	正	教		教		教		教	
		場	分	場	分	場	分	場	分
補	習	科		科		科		科	
		科	科	科	科	科	科	科	科
本	科	正		正		正		正	
		教	員	教	員	教	員	教	員
教	員	女		女		女		女	
		男	女	男	女	男	女	男	女

科	小										常								
	兒										員								
	正										代		准		專				
第	五	第	四	第	三	第	二	第	一	學	年	女	男	女	男	女	男	女	男
第	五	第	四	第	三	第	二	第	一	學	年	女	男	女	男	女	男	女	男
六	學	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	女	男	女	男	女	男	女	男
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	女	男	女	男	女	男	女	男

四三一







































一 本科學年成績ハ年度内ニ於ケル學年ノ成績ニ就キ掲クヘシ  
 一 私費ニ係ル生徒、募集人員、入學志願者、入學者、卒業者、退學者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ  
 一 外國人ニ係ルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ  
 一 附屬小學校ニ係ルモノハ甲號表ニ市町村立私立小學校表ノ例ニ準シテ掲クヘシ  
 一 附屬幼稚園ニ係ルモノハ甲號表三公立私立幼稚園表ノ例ニ準シテ掲クヘシ  
 一 備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ尙小學校教員講習科及幼稚園保母講習科ニ係ル講習期間ヲモ記載スヘシ但シ小學校教員講習科ニ係ルモノハ小學校教員免許狀ヲ有スル者ノ爲ニ設クルモノト尋常小學校正教員養成ノ爲ニ設クルモノト尋常小學校准教員養成ノ爲ニ設クルモノトヲ分チ記載スルコトヲ要ス

種別	學級		教員		生徒					
	本	補	有	無	本					
	科	科	格	格	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	
計										

甲號表五 公立私立中學校表

(學校名稱)

入學	入學志願者					募集人員		生徒
	本					本	補	
	第一學年					第一學年	第二學年	
	前ノ教育年							
平均	最少	最大	計	尋常小學校卒業者				







額總出支度年本			額總入收度年本				況狀ノ末度年本ノ							
臨時費	經常費	其他	計	其他	基本財産ヨリ生スル收入	寄附金	補助金	授業料	計	死亡	不詳	兵	一年志願兵	海軍諸學校生徒

者業卒科本度年前							績成年學科本										
陸軍主計候補生	陸軍士官候補生	實業專門學校生徒	專門學校生徒	高等學校生徒	官吏等	學校職員	第五學年		第四學年		第三學年		第二學年		第一學年		
							落第	及第	落第	及第	落第	及第	落第	及第	落第	及第	



備考	合	計
----	---	---

甲表五樣式說明

- 一本表ハ年度末現在ノ學校ニ就キ各校各別ニ調製スヘシ但シ分校ハ本校ニ準シ別ニ調製スヘシ
- 一學級ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ
- 一教員ハ年度末ノ現員ヲ掲クヘシ但シ公立學校ニ在リテハ休職者ハ之ヲ計入スヘカラス
- 一教員中學校教員タル教員免許狀ヲ有スル者ハ有資格ノ謂ニ其ノ他ノ教員ハ無資格ノ謂ニ掲クヘシ
- 一教員中公立學校教員ニ在リテハ其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼ヌル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲クヘシ
- 一生徒ハ年度内三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ
- 一生徒定員ハ年度内ニ於ケル本科生徒ノ定員ヲ掲クヘシ
- 一募集人員ハ年度内ニ入學セシムル爲募集シタル人員ヲ掲クヘシ
- 一入學志願者ハ前項ノ募集ニ應シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一入學者ハ年度内ニ入學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一本科入學者年齡ハ入學ヲ許可シタル月ニ於ケル年齡ニ依リ何年何月ト記載スヘシ平均年齡ハ入學者總員ヲ以テ入學者ノ年齡ノ總數ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ但シ臨時入學ニ係ル者ハ計入スヘカラス
- 一卒業業者ハ年度内ニ卒業シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一本科卒業業者ノ年齡ハ卒業證書ヲ授與シタル月ニ於ケル年齡ニ依リ何年何月ト記載スヘシ平均年齡ハ卒業業者總員ヲ以テ卒業業者ノ年齡ノ總數ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ
- 一退學者ハ年度内ニ退學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一本科學年成績ハ年度内ニ於ケル各學年ノ成績ニ就キ掲クヘシ
- 一前年度卒業業者ノ本年度末ノ狀況中二種以上ノ事項ニ涉ル者アルトキハ其ノ重ナルモノニ就キ掲クヘシ
- 一外國人ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲ケ尙備考ノ欄ニ於テ表式ノ種別ニ依リ各其ノ國名別人員ヲ掲クヘシ
- 一本年度收入總額ハ其ノ年度ニ屬スル收入總額ヲ掲クヘシ但シ私立學校ニ係ルモノノミ之ヲ掲クヘシ
- 一本年度支出總額ハ其ノ年度ニ屬スル支出總額ヲ掲クヘシ但シ私立學校ニ係ルモノノミ之ヲ掲クヘシ

全員ノ計算ハ各項ニ於テ四捨五入シ單位ニ止ムヘシ  
備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

甲表六 公立私立高等女學校  
公立私立實科高等女學校表 (學校名稱)

種別	修業年限										人員	等
	本		同		實		同		本			
	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科		
種別	本	同	實	同	本	同	實	同	本	同	人員	等
	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科		
人員	補	補	放	補	補	放	補	補	補	補	人員	等
	習	習	習	習	習	習	習	習	習	習		
資格	有	有	無	有	有	無	有	有	無	有	人員	等
	格	格	格	格	格	格	格	格	格	格		
員	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	人員	等







			者 業 卒				者														
			同	同	實	專	同	本	同	科			年 學								
學 一 第			同	同					同	同	第	第	第	年 學							
學	一	第	補	選	習	科	生	科	科	科	補	選	科	學	年	年	年	年 學			
																		齡	年	育	
戒	學	病	科	生	科	科	科	科	科	科	補	選	科	學	年	年	年	平	最	最	

			學 入										同										
			實	專	同	科				本			同	同									
學 一 第			實	專	同	第	第	第	第	年 學 一 第			同	同									
數	ノ	前	從	尋	常	小	學	校	卒	業	者	科	科	年	年	年	年	年 學 一 第			補	選	
																		齡	年	育			
戒	學	病	科	生	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科



學																	
第	實										專	同	年學五第				
	年學二第					年學一第								其	死	懲	轉
	轉	疾	其	死	懲	轉	疾	其	死	懲							
學	病	他	亡	戒	學	病	他	亡	戒	學	病	科	科	他	亡	戒	學

退																	
科	本										年						
	年學四第					年學三第						年學二第					
	疾	其	死	懲	轉	疾	其	死	懲	轉		疾	其	死	懲	轉	疾
病	他	亡	戒	學	病	他	亡	戒	學	病	他	亡	戒	學	病	他	亡



本年	額 入 度 本					績 成 年 學 科 實								續		
	常 經	其 計	基 本 財 產 ヨ リ 生 ス ル 收 入	寄 附 金	補 助 金	授 業 料	第 四 學 年		第 三 學 年		第 二 學 年		第 一 學 年		第 五 學 年	
							落 第	及 第	落 第	及 第	落 第	及 第	落 第			及 第
他 給																

成 年 學 科 本								者								
第 四 學 年	第 三 學 年	第 二 學 年	第 一 學 年	同 補 習 科	同 選 科	科						年 學 三				
						年 學 四 第			年 學 三			其 他	死 亡	懲 戒		
						其	死	懲	轉	疾	其				死	懲
落 第	及 第	落 第	及 第	落 第	及 第	落 第	及 第	落 第	及 第	落 第	及 第	科 生	他 亡	戒 學 病	他 亡	戒



備考	度支	計
	出費	計
	臨時	計
	合計	計

甲號表六樣式說明

- 一本表ハ年度末現在ノ學校ニ就キ各校各別ニ調製スヘシ
- 一學校ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ
- 一教員ハ年度末ノ現員ヲ掲クヘシ但シ公立學校ニ在リテハ休職者ハ之ヲ計入スヘカラス
- 一教員中高等女學校教員タル教員免許狀ヲ有スル者ハ有資格ノ欄ニ其ノ他ノ教員ハ無資格ノ欄ニ掲クヘシ
- 一教員中小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有シ第二學年以下ノ教授ヲ擔任スル者ハ無資格ノ欄ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一教員中公立學校教員ニ在リテハ其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼ヌル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲クヘシ
- 一生徒ハ年度内三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ
- 一生徒定員ハ年度内ニ於ケル定員ヲ掲クヘシ
- 一募集人員ハ年度内ニ入學セシムル爲募集シタル人員ヲ掲クヘシ
- 一入學志願者ハ前項ノ募集ニ應ジタル者ノ數ヲ掲クヘシ但シ補習科、專攻科、實科ニ係ル選科、同補習科中第二學年以上ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一入學者ハ年度内ニ入學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ但シ補習科、專攻科、實科ニ係ル選科、同補習科中第二學年以上ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一入學者年齡ハ入學ヲ許可シタル月ニ於ケル年齡ニ依リ何年何月ト記載スヘシ平均年齡ハ入學者總員ヲ以テ入學者ノ年齡ノ總數ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ但シ臨時入學ニ係ル者ハ計入スヘカラス
- 一卒業生ハ年度内ニ卒業シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一退學者ハ年度内ニ退學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ

甲號表七

公立私立專門學校表  
公立私立實業專門學校表

(學校名稱)

種別	學科	學科	學科	學科	學科	教員數		限年	業修	生
						有	無			
本	別	學	科	學	科	格	格	科	科	年
第一	學	年	資	資	究	格	格	科	科	年
第二	學	年	資	資	究	格	格	科	科	年
第三	學	年	資	資	究	格	格	科	科	年

- 一學年成績ハ年度内ニ於ケル各學年ノ成績ニ就キ掲クヘシ
- 一外國人ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ尙備考ノ欄ニ於テ表式ノ種別ニ依リ各其ノ國名別人員ヲ掲クヘシ
- 一明治四十三年勅令第四百二十四號附則第二項ニ依リ存置セル技藝專修科ニ係ルモノハ實科ノ欄ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一明治四十三年學事年報ニ於テハ實科ノ欄ヲ技藝專修科ト爲シ各其ノ事實ヲ記入スヘシ
- 一本年度收入總額ハ其ノ年度ニ屬スル收入總額ヲ掲クヘシ但シ私立學校ニ係ルモノノミ之ヲ掲クヘシ
- 一本年度支出總額ハ其ノ年度ニ屬スル支出總額ヲ掲クヘシ但シ私立學校ニ係ルモノノミ之ヲ掲クヘシ
- 一金員ノ計算ハ各項ニ於テ四捨五入シ四ニ止ムヘシ
- 一備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ尙專攻科ニ係ル生徒、卒業生ノ學科別人員ヲモ記載スヘシ



學 科	退					業 卒					者						
	本					本 科 卒 業 者 年 齡	研 究 別	豫 本	研 別	豫 本	研 別	豫 本	研 別	豫 本	研 別	豫 本	
	其	死	懲	釋	疾												平
科	他	亡	戒	學	病	均	少	大	科	科	科	科	科	科	科	均	少

學 科	入					者 願 志 學 入					徒						
	本					研 別	豫 本	研 別	豫 本	研 別	豫 本	研 別	豫 本	計	科		
	育	教	ノ	前	從											計	科
年	計	育	教	ノ	前	從	計	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科
最	計	育	教	ノ	前	從	計	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科
大	計	育	教	ノ	前	從	計	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科







- 一 限科ニ保ルモノ、中本科ニ進入スル者ノ爲ニ設クルモノト別科ニ進入スル者ノ爲ニ設クルモノトヲ分チ各適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一 教員ハ年度末ノ現員ヲ掲クヘシ但シ公立學校ニ在リテハ休職者ハ之ヲ計入スヘカラス
- 一 教員中學位ヲ有スル者、帝國大學分科大學卒業者又ハ官立學校ノ卒業者ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者、文部大臣ノ指定シタル者、文部大臣ノ認可シタル者ハ有資格ノ欄ニ代用トシテ認可シタル者ハ無資格ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 教員中公立學校教員ニ在リテハ其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼ヌル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲クヘシ
- 一 教員中限科ノミヲ擔任スル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一 教員中一人ニシテ二學科以上ヲ擔任スル者ハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 生徒ハ年度内三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ
- 一 生徒中一人ニシテ二學科以上ヲ兼修スル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 生徒中本科、限科ニ保ル者ハ入學資格ニ依リ中學校卒業者ト試験檢定合格者ト無試験檢定ニ依ル者トヲ分チ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一 入學志願者ハ年度内ニ入學セシムル爲行ヒタル募集ニ應ジタル者ノ數ヲ掲クヘシ但シ第二學年以上ニ保ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一 入學志願者中一人ニシテ二學科以上ニ涉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 入學者ハ年度内ニ入學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ但シ第二學年以上ニ保ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一 入學者中一人ニシテ二學科以上ニ涉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 本科入學者從前ノ教育ノ欄專門學校入學者檢定規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタル者ノ中甲種程度ノ實業學校卒業者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一 本科入學者年齡ハ入學ヲ許可シタル月ニ於ケル年齡ニ依リ何年何月ト記載スヘシ平均年齡ハ入學者總員ヲ以テ入學者ノ年齡ノ總數ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ但シ臨時入學者ニ保ル者及第二學年以上ニ保ル者ハ計入スヘカラス
- 一 卒業者ハ年度内ニ卒業シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一 卒業者中一人ニシテ二學科以上ニ涉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 本科卒業者年齡ハ卒業證書ヲ授與シタル月ニ於ケル年齡ニ依リ何年何月ト記載スヘシ平均年齡ハ卒業者ノ總員ヲ以テ卒業者ノ年齡ノ總數ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ
- 一 退學者ハ年度内ニ退學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ

- 一 退學者中一人ニシテ二學科以上ニ涉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 本科學年成績ハ年度内ニ於ケル各學年ノ成績ニ就キ掲クヘシ
- 一 本科學年成績中一人ニシテ二學科以上ニ涉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 前年度卒業者ノ本年度末ノ狀況中二種以上ノ事項ニ涉ル者アルトキハ其ノ重ナルモノニ就キ掲クヘシ
- 一 女子ニ保ル者ハ女ノ字ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一 外國人ニ保ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ尙備考ノ欄ニ於テ表式ノ種別ニ依リ各其ノ國名別人員ヲ掲クヘシ
- 一 實業專門學校中甲種又ハ乙種程度等ノ實業學校ノ學科ヲ併置シタルモノアルトキハ當該學校ノ様式ニ準シ調製シ實業專門學校表ニ添付スヘシ但シ教員中實業專門學校ノ教科ト甲種又ハ乙種程度等ノ實業學校ノ教科トヲ教授スル者アルトキハ其ノ教授時數ノ多キ方ニ掲ケ其ノ時數同シキトキハ實業專門學校ノ方ニ掲クヘシ
- 一 本年度收入總額ハ其ノ年度ニ屬スル收入總額ヲ掲クヘシ但シ私立學校ニ保ルモノノミヲ掲クヘシ
- 一 本年度支出總額ハ其ノ年度ニ屬スル支出總額ヲ掲クヘシ但シ私立學校ニ保ルモノノミヲ掲クヘシ
- 一 金員ノ計算ハ各項ニ於テ四捨五入シ圓ニ止ムヘシ
- 一 備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

甲號表八 公立私立甲種程度ノ實業學校表

(學校名稱)

種	別	業 修				學 科	學 科	學 科	學 科	學 科
		本	預	別	專					
學	本	第	第	一	年	年	年	年	年	年
		一	二	學	學	年	年	年	年	年















不 詳	度年本ノ者業卒度年前		者 學 退					者 業 卒			者 學		
	甲 種 程 度 ノ 實 業 學 校 生 徒	實 業 從 事 者	專 修 科	別 科	本			專 修 科	別 科	本 科	專 修 科	別 科	科 育 計
					其	死	懲 戒						

人 本 從 前 尋 常 小 學 校 卒 業 者 他	者願志學入			徒 生			員 教		級 學			限 年 業					
	專 修 科	別 科	本 科	專 修 科	別 科	計	第 三 學 年	第 二 學 年	第 一 學 年	無 資 格	有 資 格	專 修 科	別 科	本 科	專 修 科	別 科	
																	第 一 學 年















額出度本	總支年	額總入收度年本					者學退		者業卒		者科			
		計	其	補	寄	授	科藝技		科通普					
臨	經						他	金	金	料	啞	盲	啞	盲
計	時	費	常	費	費	費	生	生	生	生	生	生	生	生

學入	徒生		員教		級學		限年業修		種別
	藝技	科通普	科藝技	科通普	科藝技	科通普	科藝技	科通普	
盲	啞	盲	啞	盲	啞	盲	啞	盲	生
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
									男
									女



























乙號表一様式説明

一本表ハ本校ニ係ルモノト分教場ニ係ルモノトヲ別チ各別ニ調製スヘシ  
 一學校ハ年度内三月一日ノ現在ニ就キ其ノ學級數ニ依リ區別シテ掲クヘシ但シ補習科ノ學級數ハ計入スヘカラス  
 一學校中小學校令施行規則第三十四條ニ依リ兒童ヲ前後二部ニ分チテ教授スル學校ニ在リテハ其ノ前後ノ學級數ヲ合算シテ掲クヘシ  
 一學校中尋常高等小學校ニ係ル本校ニ在リテハ其ノ學級數ニ依リ尋常高等小學校ノ欄ニ掲ケ更ニ之ヲ尋常、高等ニ分チ尋常小學校、高等小學校ノ欄ニモ朱書ヲ以テ掲クヘシ  
 一學校中尋常高等小學校ニ係ル分教場ニ在リテハ前項ノ例ニ準シテ掲クヘシ但シ尋常科ノミ又ハ高等科ノミヲ置クモノト雖之ヲ尋常高等小學校ノ欄ニ掲ケ更ニ尋常小學校又ハ高等小學校ノ欄ニモ朱書ヲ以テ掲クヘシ  
 一學校中十九學級以上ノ學校ニ在リテハ一學級ヲ加フル毎ニ區別シテ掲クヘシ  
 一兒童ハ學籍ニ在ル者ニシテ年度内四月一日ヨリ三月一日ニ至ル間全ク出席セサル者ヲ除キ三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ但シ補習科ニ係ル者ハ計入スヘカラス  
 一兒童中尋常高等小學校ニ係ルモノハ學校教記載ノ例ニ準シテ掲クヘシ  
 一備考ノ欄ニ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

乙號表二 加設科目ヲ課スル市町村立私立小學校表

種別	正科		補習科	
	市町村立	私立	市町村立	私立
高等小學校				
手				
農				
商				
英				
計				
尋常小學校				
手				
工				
計				

種別	正科		補習科	
	市町村立	私立	市町村立	私立
高等小學校				
手				
農				
商				
英				
計				
尋常小學校				
手				
工				
計				

乙號表二様式説明

一本表ハ年度末現在ノ學校ニ就キ表中記載ノ加設科目ヲ課スル學校ノ數ヲ掲クヘシ但シ分教場ニ係ルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ  
 一尋常高等小學校ニ係ルモノハ尋常、高等ニ分チ尋常小學校、高等小學校ノ各欄ニ於テ朱書ヲ以テ掲クヘシ  
 一北海道ニ在ル尋常小學校ニシテ農業、商業等ヲ教授スルモノハ其ノ學科ノ欄ヲ設ケテ掲クヘシ



一備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

乙號表三 二部教授施行ノ市町村立私立小學校表

備考	尋常小學校		高等小學校		尋常小學校		高等小學校		種別	計	
	分校		本校		分校		本校				
	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立			
									全部ノ児童ヲ二部ノニ	一部ノ児童ヲ二部ノニ	合計
									児童	児童	児童

乙號表三 様式説明

一本表ハ小學校令施行規則第三十四條ニ依リ児童ヲ前後二部ニ分チテ教授スル學校及其ノ二部教授ニ係ル學級、児童ノ數ヲ掲クヘシ  
 一學校、學級ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ  
 一児童ハ學籍ニ在ル者ニシテ年度内四月一日ヨリ三月一日ニ至ル間全ク出席セサル者ヲ除キ三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ  
 一尋常高等小學校ニ係ルモノハ其ノ児童ノ全部又ハ一部ノ區別ニ從ヒ當該欄ニ掲ケ更ニ尋常、高等ニ分チ尋常小學校、高等小學校ノ部相當欄ニモ朱書ヲ以テ掲クヘシ  
 一備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

乙號表四 市町村立小學校教員俸給別表

種別	月								尋常小學校ノ教授ニ從事スル者	高等小學校ノ教授ニ從事スル者
	五		六		七		八			
	男	女	男	女	男	女	男	女		
尋常小學校ノ教授ニ從事スル者										
高等小學校ノ教授ニ從事スル者										



















一 師範學校卒業ニ依ル者ノ欄ニハ小學校令施行規則第十七條ニ依リ免許狀ヲ授與シタル者ノ數ヲ掲クヘシ  
一 備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

乙號表九 學齡兒童中盲者聾啞者表

種別	人		計	同上ノ内學校ニ於テ修業スル者
	男	女		
盲者				
聾啞者				
合計				

備考

乙號表九樣式説明

一本表ハ年度末現在ノ學齡兒童中盲者、聾啞者ノ數ヲ掲クヘシ但シ盲ニシテ且聾啞ナル者アルトキハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ  
一 備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

乙號表十 公立學校長正教員在職年數別表

種別	正教員		長正教員	長正教員	長正教員	長正教員	長正教員	長正教員	長正教員	長正教員
	市町村立小學校	師範學校								
五年未滿										

備考

種別	正教員		長正教員	長正教員	長正教員	長正教員	長正教員	長正教員	長正教員	長正教員
	市町村立小學校	師範學校								
滿五年以上										
滿十年以上										
滿十五年以上										
滿二十年以上										
滿二十五年以上										
滿三十年以上										
合計										

備考

乙號表十樣式説明

一本表ハ年度末ノ現員ニ就キ掲クヘシ但シ休職ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ  
 一 在職年數ハ市町村立小學校及公立實業補習學校正教員ニ在リテハ明治二十五年勅令第十八號同二十七年文部省令第三號ニ準シ府縣立師範學校公立中學校高等女學校專門學校實業學校及其ノ他ノ公立學校長正教員ニ在リテハ明治三十二年勅令第九十六號同第二百一號ニ準シ計算シテ掲クヘシ  
 一 公立實業補習學校ニ係ル者ハ市町村立小學校ノ欄ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ  
 一 乙種程度ノ實業學校ノ欄ニハ徒弟學校又ハ別科程度ノ水産學校ニ係ルモノヲモ記載スヘシ  
 一 備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ尙左記ノ事項ヲモ記載スヘシ  
 一 年度末現在ノ市町村立小學校本科正教員ニシテ同一府縣内ニ於テ其ノ職ヲ五年以上勤續セル者ノ男女別人員但シ休職者ハ之ヲ計入スヘカラス  
 一 同上本科正教員ニシテ同一府縣内ニ於テ專科正教員又ハ准教員ノ職ニ在リタル年數ヲ算入セハ勤續五年以上ニ達スヘキ者ノ男女別人員但シ休職者ハ之ヲ計入スヘカラス



別 校 學 任												
總 計	各種學校			盲啞學校			實業學校			實業專門學校		
	手 當 年 額	人 員	學 校	手 當 年 額	人 員	學 校	手 當 年 額	人 員	學 校	手 當 年 額	人 員	學 校
圓				圓			圓			圓		
圓				圓			圓			圓		
圓				圓			圓			圓		
圓				圓			圓			圓		
圓				圓			圓			圓		
圓				圓			圓			圓		
圓				圓			圓			圓		
員 人 實												
別 童 兒 ハ 又 徒 生 任 擔												
計	千五百人以上ヲ擔任スル者	千三百人以上千五百人未滿ヲ擔任スル者	千百人以上千三百人未滿ヲ擔任スル者	九百人以上千百人未滿ヲ擔任スル者	七百人以上九百人未滿ヲ擔任スル者	五百人以上七百人未滿ヲ擔任スル者	三百人以上五百人未滿ヲ擔任スル者	三百人未滿ヲ擔任スル者				
									人員	學	校	校

種 別															
乙號表十一 公立學校暨表															
種 別	專門學校			高等女學校			中學校			師範學校			小學校		
	手 當 年 額	人 員	學 校	手 當 年 額	人 員	學 校	手 當 年 額	人 員	學 校	手 當 年 額	人 員	學 校	手 當 年 額	人 員	學 校
道廳府縣立	圓			圓			圓			圓			圓		
郡立	圓			圓			圓			圓			圓		
市立	圓			圓			圓			圓			圓		
町村立	圓			圓			圓			圓			圓		
計	圓			圓			圓			圓			圓		
種 別															
擔 任 學 校 數 別															
計	八校以上ヲ擔任スル者	七校ヲ擔任スル者	六校ヲ擔任スル者	五校ヲ擔任スル者	四校ヲ擔任スル者	三校ヲ擔任スル者	二校ヲ擔任スル者	一校ヲ擔任スル者							
									人員	學	校				



備考

乙號表十一様式説明

- 一本表ハ年度内三月一日ニ於ケル學校醫ノ現員並其ノ擔任スル學校數等ヲ掲クヘシ但シ分校ハ本校ニ準シテ掲クヘシ
- 一學校醫擔任學校別ノ欄ニハ一人ニシテ二校以上ヲ擔任スル者ハ各校各一人トシテ掲クヘシ
- 手當年額ハ年度内三月一日ニ於ケル學校醫ノ現員ニ對スル一箇年度ノ額ヲ掲クヘシ但シ日當ヲ給スル者アルトキハ年度内ノ出勤日數ヲ概定シ之ニ日當額ヲ乘シ得タル金額ヲ掲クヘシ手當又ハ日當ヲ給セサル者アルトキハ其ノ人員ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一學校醫實人員ノ欄擔任學校數別並擔任生徒又ハ兒童別ハ學校醫一人ノ擔任スル學校數並生徒又ハ兒童數ニ依リ之ヲ掲クヘシ但シ一學校ニシテ二人以上ノ學校醫ヲ置キタル場合ニ在リテハ擔任生徒又ハ兒童ハ其ノ學校醫ノ數ヲ以テ生徒又ハ兒童ノ數ヲ除シタル數ニ依リ掲クヘシ
- 一備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ尙左記ノ事項ヲモ記載スヘシ
- 一學校醫一人ノ擔任スル最多學校數
- 一學校醫一人ノ擔任スル最多生徒又ハ兒童數
- 一兼任學校醫人員

丙號

丙號表一 公學費表

種別	小學校		實業學校	
	尋常高等	高等	實業甲種	實業乙種
學校長 園長 館長	同	同	同	同
補助 教諭 訓導	同	同	同	同
准 調 導 俸 給				
代用 教員 俸 給				
保 姆 俸 給				
舍 監 俸 給				
書 記 俸 給				
學 校 醫 手 當				
旅 費				
雜 給				
生 徒 給 費				
借 地 借 家 費				
圖 書 器 械 標 本 費				
器 具 費				
消 耗 品 費				
新 營 費				
修 繕 費				
其 他 ノ 諸 費				
合 計				
授 業 料				
保 育 料				

種別	小學校		實業學校	
	尋常高等	高等	實業甲種	實業乙種
學校長 園長 館長	同	同	同	同
補助 教諭 訓導	同	同	同	同
准 調 導 俸 給				
代用 教員 俸 給				
保 姆 俸 給				
舍 監 俸 給				
書 記 俸 給				
學 校 醫 手 當				
旅 費				
雜 給				
生 徒 給 費				
借 地 借 家 費				
圖 書 器 械 標 本 費				
器 具 費				
消 耗 品 費				
新 營 費				
修 繕 費				
其 他 ノ 諸 費				
合 計				
授 業 料				
保 育 料				











